

基本計画書

基本計画書									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		研究科の専攻（教職大学院）の設置							
フリガナ設置者		コクリツダイガクホウジン イバラキダイガク 国立大学法人 茨城大学							
フリガナ大学の名称		イバラキダイガクダイガクイン 茨城大学大学院 (Ibaraki University Graduate School)							
大学本部の位置		茨城県水戸市文京2丁目1番1号							
大学の目的		茨城大学大学院は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）の精神に則り、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめてひろく文化の進展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的		小中学校および高等学校教員、特別支援学校教員、養護教諭を対象に、学校教育の抱える諸課題に対して、一人ひとりの子どもの実態を把握しながら、深い専門性と広い視野をもって教育・研究に取り組み、地域や学校にいる様々な人々と協働・連携しながら、学校における実践をリードできる教員を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	教育学研究科 〔Graduate School of Education〕	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	茨城県水戸市文京 2丁目1番1号	
	教育実践高度化専攻 〔Division of Professional Practice in Education〕	2	43	—	86	教職修士 〔Master of Education〕	令和3年4月 第1年次		
	計		43		86				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		大学院教育学研究科 障害児教育専攻（廃止）（△3） ※令和3年4月学生募集停止 教科教育専攻（廃止）（△22） ※令和3年4月学生募集停止 養護教育専攻（廃止）（△3） ※令和3年4月学生募集停止 学校臨床心理専攻（廃止）（△9） ※令和3年4月学生募集停止 大学院人文社会科学研究科 文化科学専攻（廃止）（△13） ※令和3年4月学生募集停止 社会科学専攻（廃止）（△12） ※令和3年4月学生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	教育学研究科 教育実践高度化専攻	講義	演習	実験・実習	計	48単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	教育学研究科 教育実践高度化専攻	16人 (16)	8人 (8)	0人 (0)	2人 (2)	26人 (26)	0人 (0)	70人 (70)
		人文社会科学研究科 人文科学専攻	23人 (23)	9人 (9)	3人 (3)	0人 (0)	35人 (35)	0人 (0)	91人 (91)
		人文社会科学研究科 社会科学専攻	22人 (22)	15人 (15)	8人 (8)	1人 (1)	46人 (46)	0人 (0)	78人 (78)
	既設	理工学研究科 博士前期課程 量子線科学専攻	38 (38)	15 (15)	4 (4)	4 (4)	61 (61)	0 (0)	47 (47)
理工学研究科 博士前期課程 理学専攻		16 (20)	21 (21)	0 (0)	3 (3)	40 (44)	0 (0)	10 (10)	
理工学研究科 博士前期課程 機械システム工学専攻		17 (17)	14 (14)	7 (7)	4 (4)	42 (42)	0 (0)	4 (4)	
計		61 (61)	32 (32)	11 (11)	3 (3)	107 (107)	0 (0)	一人 (一)	

教 員 組 織 の 概 要	既	理工学研究科 博士前期課程 電気電子システム工学専攻	11 (11)	12 (12)	2 (2)	3 (3)	28 (28)	0 (0)	3 (3)
		理工学研究科 博士前期課程 情報工学専攻	5 (5)	4 (4)	5 (5)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	3 (3)
		理工学研究科 博士前期課程 都市システム工学専攻	6 (6)	7 (7)	1 (1)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	1 (1)
	設	理工学研究科 博士後期課程 量子線科学専攻	38 (38)	14 (14)	1 (1)	0 (0)	53 (53)	0 (0)	10 (10)
		理工学研究科 博士後期課程 複雑系システム科学専攻	37 (41)	32 (32)	1 (1)	1 (1)	71 (74)	0 (0)	5 (5)
		理工学研究科 博士後期課程 社会インフラシステム科学専攻	18 (18)	19 (19)	3 (3)	1 (1)	41 (41)	0 (0)	2 (2)
		農学研究科 農学専攻	33 (33)	18 (18)	1 (1)	6 (6)	58 (58)	0 (0)	42 (42)
		全学教育機構	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (16)
	分	計	219 (227)	156 (156)	25 (25)	26 (26)	426 (433)	0 (0)	— (—)
	合 計		280 (280)	188 (188)	36 (36)	29 (29)	533 (533)	0 (0)	— (—)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		235 人 (235)		204 人 (204)		439 人 (439)		
	技 術 職 員		47 (47)		12 (12)		59 (59)		
	図 書 館 専 門 職 員		7 (7)		0 (0)		7 (7)		
	そ の 他 の 職 員		3 (3)		8 (8)		11 (11)		
	計		292 (292)		224 (224)		516 (516)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	312,031㎡	0㎡		0㎡		312,031㎡		
	運 動 場 用 地	74,277㎡	0㎡		0㎡		74,277㎡		
	小 計	386,308㎡	0㎡		0㎡		386,308㎡		
	そ の 他	424,505㎡	0㎡		0㎡		424,505㎡		
合 計		810,813㎡	0㎡		0㎡		810,813㎡		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
		147,455㎡ (147,455㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		147,455㎡ (147,455㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	128室	192室	540室	4室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 教育学研究科 教育実践高度化専攻			室 数 26 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なため、大学全体の 数	
	教育学研究科 教育実践高度化専攻	1,009,497 [283,199] (1,009,497 [283,199])	17,414 [5,688] (17,414 [5,688])	2,519 [2,516] (2,519 [2,516])	2,761 (2,761)	0 (0)	0 (0)		
	計	1,009,497 [283,199] (1,009,497 [283,199])	17,414 [5,688] (17,414 [5,688])	2,519 [2,516] (2,519 [2,516])	2,761 (2,761)	0 (0)	0 (0)		
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
		11,986㎡		865		952,000			
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					
		5,695㎡		テ ニ ス コ ー ト 7 面 プ ー ル (25 × 15m) 1 基					

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		教員1人当り研究費等	-	-	-	-	-	-		-
		共同研究費等	-	-	-	-	-	-		-
		図書購入費	-	-	-	-	-	-		-
		設備購入費	-	-	-	-	-	-		-
	学生1人当り納付金	第1年次 - 千円	第2年次 - 千円	第3年次 - 千円	第4年次 - 千円	第5年次 - 千円	第6年次 - 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		-								
既設大学の状況										
大学の名称	茨城大学									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
人文社会科学部	年	人	3年次人	人	-	倍	平成29	茨城県水戸市文京2-1-1		
現代社会学科	4	130	-	520	学士 (現代社会学)	1.05	平成29			
法律経済学科	4	120	-	480	学士 (社会科学)	1.04	平成29			
人間文化学科	4	110	-	440	学士 (人文科学)	1.03	平成29			
人文学部	-	-	-	-	-	-	昭和42			
人文コミュニケーション学科	4	-	-	-	学士 (人文科学)	-	平成18			
社会科学科	4	-	-	-	学士 (社会科学)	-	昭和50			
教育学部	-	275	-	1100	-	1.04	昭和24			
学校教育教員養成課程	4	240	-	960	学士 (教育学)	1.04	平成8			
養護教諭養成課程	4	35	-	140	学士 (教育学)	1.02	昭和50			
情報文化課程	4	-	-	-	学士 (教養)	-	平成元			
人間環境教育課程	4	-	-	-	学士 (教養)	-	平成11			
理学部	-	205	4	828	-	1.05	昭和42			
理学科	4	205	4	828	学士 (理学)	1.05	平成17			
工学部	-	545	20	2220	-	1.02	昭和24		茨城県日立市中成沢町4-12-1	
機械システム工学科	4	130	6	532	学士 (工学)	1.03	平成30			
機械システム工学科(夜)	4	40	-	160	学士 (工学)	1.01	平成30			
電気電子システム工学科	4	125	5	510	学士 (工学)	1.02	平成30			
物質科学工学科	4	110	3	446	学士 (工学)	1.00	平成30			
情報工学科	4	80	4	328	学士 (工学)	1.02	平成30			
都市システム工学科	4	60	2	244	学士 (工学)	1.09	平成30			
機械工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成2			
生体分子機能工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成17			
マテリアル工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成17			
電気電子工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成2			

既設大学等の状況	メディア通信工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成8	茨城県日立市中成沢町4-12-1
	知能システム工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成17	
	知能システム工学科(B)	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成17	
	農学部	-	160	10	660	学士(農学)	1.04	昭和27	茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1
	食生命科学科	4	80	5	330	学士(農学)	1.03	平成29	
	地域総合農学科	4	80	5	330	学士(農学)	1.06	平成29	
	生物生産科学科	4	-	-	-	学士(農学)	-	平成12	
	資源生物科学科	4	-	-	-	学士(農学)	-	昭和62	
	地域環境科学科	4	-	-	-	学士(農学)	-	平成12	
	大学全体(学部)	-	1545	34	6248	-	1.04	-	-
	人文社会科学研究科	-	25	-	50	-	0.98	平成29	茨城県水戸市文京2-1-1
	文化科学専攻	2	13	-	26	修士(学術)	0.80	平成21	
	社会科学専攻	2	12	-	22	修士(学術)	1.16	平成26	
	地域政策専攻	2	-	-	-	修士(学術)	-	平成6	
	教育学研究科	-	52	-	104	-	0.99	昭和63	茨城県水戸市文京2-1-1
	障害児教育専攻	2	3	-	6	修士(教育学)	1.16	昭和63	
	教科教育専攻	2	22	-	44	修士(教育学)	0.86	昭和63	
	養護教育専攻	2	3	-	6	修士(教育学)	1.33	平成9	
	学校臨床心理専攻	2	9	-	18	修士(教育学)	1.11	平成13	
	教育実践高度化専攻	2	15	-	30	教職修士(専門職)	1.03	平成28	
	理工学研究科	-	348	-	696	-	1.14	-	茨城県水戸市文京2-1-1 茨城県日立市中成沢町4-12-1
	(博士前期課程)	-	-	-	-	-	-	-	
	量子線科学専攻	2	102	-	204	修士(理学) 修士(工学)	0.97	平成28	
	理学専攻	2	45	-	90	修士(理学)	1.13	平成21	
	機械システム工学専攻	2	86	-	172	修士(工学)	1.35	平成30	
	電気電子システム工学専攻	2	58	-	116	修士(工学)	1.09	平成30	
	情報工学専攻	2	30	-	60	修士(工学)	1.26	平成30	
都市システム工学専攻	2	27	-	54	修士(工学)	1.18	平成30		
機械工学専攻	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成7		
電気電子工学専攻	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成7		
メディア通信工学専攻	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成12		
知能システム工学専攻	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成21		
応用粒子線科学専攻	2	-	-	-	修士(工学)	-	平成16		

既設大学等の状況	農学研究科	-	48	-	96	修士(農学)	0.84	昭和45	茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1	
	農学専攻	2	48	-	96	修士(農学)	0.84	平成29		
	生物生産科学専攻	2	-	-	-	修士(農学)	-	平成16		
	資源生物科学専攻	2	-	-	-	修士(農学)	-	平成3		
	地域環境科学専攻	2	-	-	-	修士(農学)	-	平成16		
	大学全体(大学院)	-	473	-	946	-	1.09	-	-	
	理工学研究科	-	38	-	114	-	0.65	平成7	茨城県水戸市文京2-1-1 茨城県日立市中成沢町4-12-1	
	(博士後期課程)	-	-	-	-	-	-	-		
	量子線科学専攻	3	20	-	60	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.56	平成28		
	複雑系システム科学専攻	3	10	-	30	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.83	平成28		
	社会インフラシステム科学専攻	3	8	-	24	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.66	平成28		
	物質科学専攻	3	-	-	-	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	-	平成7		
	生産科学専攻	3	-	-	-	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	-	平成7		
	情報・システム科学専攻	3	-	-	-	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	-	平成7		
	宇宙地球システム科学専攻	3	-	-	-	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	-	平成7		
	環境機能科学専攻	3	-	-	-	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	-	平成8		
	応用粒子線科学専攻	3	-	-	-	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	-	平成16		
	大学全体(大学院(博士))	-	38	-	114	-	0.65	-		-
	附属施設の概要	<p>名称：茨城大学教育学部附属幼稚園 目的：茨城大学教育学部附属幼稚園として、大学の研究と学生の教育研究の場として、大学と共同研究を行い、それを実証し、その結果をもって地域の幼児教育の向上に寄与する。 所在地：茨城県水戸市三の丸2丁目6番8号 設置年月：昭和42年6月 規模等：-</p> <p>名称：茨城大学教育学部附属小学校 目的：茨城大学教育学部附属小学校として、教育学部の研究計画に基づき、各附属学校園との連携を密にし、教育実践場面における実証的な研究を行うとともに、教育実習生を受け入れ、教員にとって必要な理論及び実践を学ばせるための実習を行わせる。 所在地：茨城県水戸市三の丸2丁目6番8号 設置年月：昭和33年4月 規模等：土地38,290㎡ 建物7,334㎡ (附属小学校・附属幼稚園の合算)</p> <p>名称：茨城大学教育学部附属中学校 目的： ①茨城大学の教員、学部学生及び大学院生による幼児教育、普通初等中等教育及び知的障害教育の理論的、実践的研究への協力 ②教育学部の方針に基づく、本学学部学生の教育実習や授業研究等、教員養成に必要な実地教育の実施、学部及び大学院における教職に関する教育に寄与 ③茨城県内外の教育機関に対する広く研究成果を還元、県及び県内自治体との人事交流協定に基づく教員の研修、地域の教育力向上への寄与 所在地：茨城県水戸市文京1-3-32 設置年月：昭和33年4月 規模等：土地34,787㎡ 建物7,428㎡</p>								

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：茨城大学教育学部附属特別支援学校 目的： ①児童生徒の可能性を最大限に引き出すための教育内容・方法に関する、大学及び附属学校園との連携の下、理論と実践についての研究・実証 ②教育実践及び研究をとおした、地域の特別支援教育の推進 ③本学学生の教育実習の実施 所在地：茨城県ひたちなか市津田1955 設置年月：昭和52年4月 規模等：土地19,579㎡ 建物3,640㎡</p>
	<p>名称：図書館 目的：教育研究に必要な図書館資料並びに学術情報を収集、整理及び保管 所在地：（本館）茨城県水戸市文京2丁目1番1号 （工学部分館）茨城県日立市中成沢町4丁目12番1号 （農学部分館）茨城県稲敷郡阿見町中央3丁目21番1号 設置年月：（本館・工学部分館）昭和24年5月 （農学部分館）昭和27年4月 規模等：建物（本館）8,775㎡ （工学部分館）2,154㎡ （農学部分館）1,063㎡</p>
	<p>名称：全学教育機構 目的：全学的な教育・学生支援活動に関する企画、調整、運営、実施、評価等の総括 所在地：茨城県水戸市文京2丁目1番1号 設置年月：平成28年4月 規模等：建物 9,417㎡</p>
	<p>名称：研究・産学官連携機構 目的：研究推進方針に基づく研究力向上、研究機能と産学官連携機能の融合的な発展 所在地：茨城県日立市中成沢町4丁目12番1号 設置年月：平成30年1月 規模等：建物 2,651㎡</p>
	<p>名称：アドミッション・センター 目的：入学者選抜の適正な実施、入学者選抜方法の改善及び高大接続改革の推進 所在地：茨城県水戸市文京2丁目1番1号 設置年月：平成28年5月 規模等：－</p>
	<p>名称：茨城大学保健管理センター 目的：学生の健康管理の拠点 所在地：茨城県水戸市文京2丁目1番1号 設置年月：昭和48年4月 規模等：建物470㎡</p>
	<p>名称：全学教職センター 目的：教員養成教育の質の向上、多様な教育ニーズに的確に対応した教職人材の育成 所在地：茨城県水戸市文京2丁目1番1号 設置年月：平成28年4月 規模等：－</p>
	<p>名称：茨城大学IT基盤センター 目的：学術教育及び情報処理教育、キャンパス情報ネットワーク及び共有基盤データベース等の管理・運用 所在地：茨城県日立市中成沢町4丁目12番1号 設置年月：平成17年7月 規模等：－</p>
	<p>名称：茨城大学機器分析センター 目的：各種分析機器の共同利用機関 所在地：茨城県水戸市文京2丁目1番1号 設置年月：平成3年4月 規模等：建物1,013㎡</p>
	<p>名称：茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター 目的：河川・湖沼環境保全等地域環境に関する研究 所在地：茨城県潮来市大生1375 設置年月：平成9年4月 規模等：土地9,960㎡ 建物744㎡</p>

附属施設の概要	<p>名称：茨城大学遺伝子実験施設 目的：遺伝子に関する教育研究 所在地：茨城県阿見町中央3丁目21番1号 設置年月：平成11年4月 規模等：建物1,824㎡</p>
	<p>名称：茨城大学地球変動適応科学研究機関 目的：気候変動への適応のための工学・応用開発、農業開発等を行う教育研究機関 所在地：茨城県水戸市文京2丁目1番1号 設置年月：平成18年5月 規模等：建物510㎡</p>
	<p>名称：茨城大学フロンティア科学教育研究センター 目的：中性子応用科学及び応用原子科学等の研究拠点 所在地：茨城県那珂郡東海村白方162番1号 設置年月：平成20年4月 規模等：建物：1,270㎡</p>
	<p>名称：茨城大学五浦美術文化研究所 目的：岡倉天心の人文諸科学の研究及び天心の遺蹟・遺品の維持保存、地域の文化と教育の向上に寄与すること 所在地：茨城県北茨城市大津町五浦727番2号 設置年月：昭和30年6月 規模等：土地3144㎡ 建物339㎡</p>
	<p>名称：茨城大学社会連携センター 目的：地域社会への貢献及び大学の教育力と研究力の充実を図る 所在地：茨城県水戸市文京2丁目1番1号 設置年月：平成26年4月 規模等：建物764㎡</p>
	<p>名称：茨城大学理学部附属宇宙科学教育研究センター 目的：電波望遠鏡システムによる先端的な宇宙の研究と教育 所在地：茨城県高萩市石滝上台字627番1号 設置年月：平成21年5月 規模等：土地(借地) 370㎡ 建物392㎡</p>
<p>名称：茨城大学農学部附属国際フィールド農学センター 目的：フィールド科学に関する教育及び研究 所在地：茨城県稲敷郡阿見町阿見4668番1号 設置年月：平成18年10月 規模等：土地220,963㎡ 建物：3,857㎡</p>	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人茨城大学 設置認可等に係わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
茨城大学				茨城大学				
人文社会科学部				人文社会科学部				
現代社会学科	130	-	520	現代社会学科	130	-	520	
法律経済学科	120	-	480	法律経済学科	120	-	480	
人間文化学科	110	-	440	人間文化学科	110	-	440	
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	240	-	960	学校教育教員養成課程	240	-	960	
養護教諭養成課程	35	-	140	養護教諭養成課程	35	-	140	
理学部		3年次		理学部		3年次		
理学科	205	4	828	理学科	205	4	828	
工学部		3年次		工学部		3年次		
機械システム工学科(昼間コース)	130	6	532	機械システム工学科(昼間コース)	130	6	532	
機械システム工学科(夜間主コース)	40	-	160	機械システム工学科(夜間主コース)	40	-	160	
電気電子システム工学科	125	5	510	電気電子システム工学科	125	5	510	
物質科学工学科	110	3	446	物質科学工学科	110	3	446	
情報工学科	80	4	328	情報工学科	80	4	328	
都市システム工学科	60	2	244	都市システム工学科	60	2	244	
農学部		3年次		農学部		3年次		
食生命科学科	80	5	330	食生命科学科	80	5	330	
地域総合農学科	80	5	330	地域総合農学科	80	5	330	
計	1,545	34	6,248	計	1,545	34	6,248	
茨城大学大学院				茨城大学大学院				
人文社会科学研究科				人文社会科学研究科				
文化科学専攻(M)	13	-	26	人文科学専攻(M)	17	-	34	研究科の専攻の設置(事前伺い)
社会科学専攻(M)	12	-	24	社会科学専攻(M)	14	-	28	研究科の専攻の設置(事前伺い)
教育学研究科				教育学研究科				
障害児教育専攻(M)	3	-	6		0	-	0	令和3年4月学生募集停止
教科教育専攻(M)	22	-	44		0	-	0	令和3年4月学生募集停止
養護教育専攻(M)	3	-	6		0	-	0	令和3年4月学生募集停止
学校臨床心理専攻(M)	9	-	18		0	-	0	令和3年4月学生募集停止
教育実践高度化専攻(P)	15	-	30	教育実践高度化専攻(P)	43	-	86	研究科の専攻(専門職大学院)の設置(事前伺い)
理工学研究科				理工学研究科				
量子線科学専攻(M)	102	-	204	量子線科学専攻(M)	102	-	204	
理学専攻(M)	45	-	90	理学専攻(M)	45	-	90	
機械システム工学専攻(M)	86	-	172	機械システム工学専攻(M)	86	-	172	
電気電子システム工学専攻(M)	58	-	116	電気電子システム工学専攻(M)	58	-	116	
情報工学専攻(M)	30	-	60	情報工学専攻(M)	30	-	60	
都市システム工学専攻(M)	27	-	54	都市システム工学専攻(M)	27	-	54	
量子線科学専攻(D)	20	-	60	量子線科学専攻(D)	20	-	60	
複雑系システム科学専攻(D)	10	-	30	複雑系システム科学専攻(D)	10	-	30	
社会インフラシステム科学専攻(D)	8	-	24	社会インフラシステム科学専攻(D)	8	-	24	
農学研究科				農学研究科				
農学専攻(M)	48	-	96	農学専攻(M)	48	-	96	
計	511	-	1,060	計	508	-	1,054	

教育課程等の概要																	
(教育学研究科 教育実践高度化専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	域に編成・実施する領域の	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ	1前	1				○		1				兼1	共同		
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ	1前	1				○		3	2				兼10	共同/集中	
共通科目	に教科等の実践的指導方法	ICT活用とプログラミング	1前		2			○			1				兼1	共同	
		子ども理解にもとづく学習指導	1前		2			○		2						共同	
		授業研究の方法と実践	1前		2			○		1	1					共同	
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり（言語・社会・生活科学系）	1前		2			○							兼4	共同	
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり（自然・科学技術系）	1前		2			○			1				兼2	共同	
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり（芸術・スポーツ系）	1前		2			○		1					兼2	共同	
		特別支援教育の自立活動の授業づくり	1前		2			○		1							
		心とからだの発達と保健	1前		2			○							兼3	共同（一部） ・オムニバス	
		る生徒指導に関する教	育領域に	発達障害児の理解と支援	1前	2				○						兼2	共同
				教育相談の課題と支援	1後		2			○		1	1				共同
子どもの健康と生徒指導	1後				2			○		2				兼1	共同（一部） ・オムニバス		
特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス	1前				2			○						兼1			
る学校経営に	る学校経営に	インクルーシブ教育の学校づくり	1後		2			○						兼1			
		学校マネジメント実践演習	1後		2			○		2					共同		
		学級経営実践演習	1前		2			○		1	1				共同		
		学級力を高めるコミュニケーション	1前		2			○		1				兼1	共同		
関する領域に	する領域に	茨城の教育改革と開かれた学校づくり	1前	2				○		2				兼1	共同		
		教師のライフステージと資質向上	1前		2			○		1				兼1	共同		
		学校における多様性の受容と活用	1後		2			○		1				兼2	※講義 共同（一部） ・オムニバス		
小計（21科目）			—	6	34	0	—		13	4	0	0	0	兼27	—		
共通科目	関する領域に	校内研修の企画・立案と実践	1後		2			○		3	2				兼3	共同	
		教育測定（評価）と校内研修	1後		2			○			1				兼1	共同	
		小計（2科目）	—	0	4	0	—		3	3	0	0	0	兼4	—		
専門科目	コース別科目	教育政策の実施と評価	1前		2			○		1	1					共同	
		教育行財政と法規	1後		2			○		1	1					共同	
		スクール・リーダーシップとその実践	1前		2			○		2						共同	
		学校危機管理論と実践演習	1後		2			○		1	1					共同	
		学校における評価マネジメント実践演習	1後		2			○		2						共同	
		学校運営課題研究Ⅰ	1前		1			○		3	1					共同	
		学校運営課題研究Ⅱ	1後		1			○		3	1					共同	
		学校運営課題研究Ⅲ	2前		1			○		3	1					共同	
		学校運営課題研究Ⅳ	2後		1			○		3	1					共同	
		学校運営実践研究Ⅰ	1通		1			○		3	1					共同/集中	
		学校運営実践研究Ⅱ	2通		1			○		3	1					共同/集中	
		教材研究と授業設計	1前		2			○		1			1			共同	
		人間形成の現代的課題と学習指導	1前		2			○		2						共同	
		授業研究による授業改善	1後		2			○		1	1					共同	
		教育方法開発課題研究Ⅰ	1前		1			○		2	1		1			共同	
		教育方法開発課題研究Ⅱ	1後		1			○		2	1		1			共同	
		教育方法開発課題研究Ⅲ	2前		1			○		2	1		1			共同	
		教育方法開発課題研究Ⅳ	2後		1			○		2	1		1			共同	
教育方法開発実践研究Ⅰ	1通		1			○		2	1		1			共同/集中			

専門科目	コース別科目	教育方法開発実践研究Ⅱ	2通	1	○	2	1	1	共同/集中
		学校不適合問題への理解と対応	1後	2	○	1	1		共同
		学級経営と個別指導の実践	1前	2	○		2		共同
		学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法	1前	2	○	1	1		共同
		児童生徒支援課題研究Ⅰ	1前	1	○	2	2		共同
		児童生徒支援課題研究Ⅱ	1後	1	○	2	2		共同
		児童生徒支援課題研究Ⅲ	2前	1	○	2	2		共同
		児童生徒支援課題研究Ⅳ	2後	1	○	2	2		共同
		児童生徒支援実践研究Ⅰ	1通	1	○	2	2		共同/集中
		児童生徒支援実践研究Ⅱ	2通	1	○	2	2		共同/集中
		国語科内容総合研究	1前	2	○	1			兼3 ※講義 共同
		国語科科目研究（国語学・書写書道）	1後	2	○				兼3 ※講義 共同・オムニバス
		国語科科目研究（国文学・漢文学）	1後	2	○	1			兼2 ※講義 共同・オムニバス
		国語科総合演習Ⅰ	1通	2	○	1			兼4 共同/集中
		国語科総合演習Ⅱ	2通	2	○	1			兼4 共同/集中
		社会科内容総合研究	1前	2	○	1			兼5 共同
		社会科科目研究（歴史）	1前	2	○	1			兼2 共同
		社会科科目研究（地理）	1後	2	○				兼2 共同
		社会科科目研究（社会と人間）	1前	2	○				兼2 共同
		社会科科目研究（法律と政治）	1後	2	○				兼2 共同
		社会科総合演習ⅠA	1通	2	○	1			兼3 共同/集中
		社会科総合演習ⅠB	1通	2	○				兼2 共同/集中
		社会科総合演習ⅡA	2通	2	○	1			兼3 共同/集中
		社会科総合演習ⅡB	2通	2	○				兼2 共同/集中
		算数科内容総合研究	1前	2	○			1	兼5 ※演習 共同・オムニバス
		数学科科目研究（代数学・幾何学）	1後	2	○			1	兼2 ※講義 共同（一部） ・オムニバス
		数学科科目研究（解析学・統計学）	1後	2	○				兼3 ※講義 共同（一部） ・オムニバス
		数学科総合演習Ⅰ	1通	2	○			1	兼5 共同/集中
		数学科総合演習Ⅱ	2通	2	○			1	兼5 共同/集中
		理科内容総合研究	1前	2	○		1		兼7 共同・オムニバス
		理科学科科目研究（エネルギー・粒子）	1前	2	○		1		兼3 共同・オムニバス
		理科学科科目研究（生命・地球）	1後	2	○		1		兼4 共同・オムニバス
		理科総合演習Ⅰ	1通	2	○		1		兼7 共同/集中
		理科総合演習Ⅱ	2通	2	○		1		兼7 共同/集中
		音楽科内容総合研究	1後	2	○		1		兼5 共同（一部） ・オムニバス
		音楽科科目研究（表現）	1後	2	○		1		兼2 共同（一部） ・オムニバス
		音楽科科目研究（鑑賞）	1前	2	○				兼3 共同（一部） ・オムニバス
		音楽科総合演習Ⅰ	1通	2	○		1		兼5 共同/集中
		音楽科総合演習Ⅱ	2通	2	○		1		兼5 共同/集中
		図画工作科内容総合研究	1後	2	○		1		兼5 共同・オムニバス
		美術科科目研究（絵画・彫刻）	1前	2	○		1		兼3 共同・オムニバス
		美術科科目研究（デザイン・工芸）	1後	2	○				兼4 共同・オムニバス
		美術科総合演習Ⅰ	1通	2	○		1		兼6 共同/集中
		美術科総合演習Ⅱ	2通	2	○		1		兼6 共同/集中
		体育科内容総合研究	1後	2	○		1		兼7 ※講義 共同（一部） ・オムニバス
保健体育科科目研究（保健・体育学）	1前	2	○		1		兼3 ※講義 共同（一部） ・オムニバス		
保健体育科科目研究（運動学）	1後	2	○		1		兼5 ※講義 共同（一部） ・オムニバス		
保健体育科総合演習Ⅰ	1通	2	○		1		兼7 共同/集中		
保健体育科総合演習Ⅱ	2通	2	○		1		兼7 共同/集中		
技術科内容総合研究	1前	2	○		1		兼5 共同（一部） ・オムニバス		
技術科科目研究（材料と加工・生物育成）	1後	2	○		1		兼3 共同（一部） ・オムニバス		

専門科目	コース別科目	技術科科目研究（エネルギー変換・情報）	1前	2		○								兼3	共同（一部） ・オムニバス		
		技術科総合演習Ⅰ	1通	2		○			1						兼5	共同/集中	
		技術科総合演習Ⅱ	2通	2		○			1						兼5	共同/集中	
		家庭科内容総合研究	1前	2	○				1						兼5	※演習 共同・オムニバス	
		家庭科科目研究（人間生活分野）	1後	2	○				1						兼2	※演習 共同・オムニバス	
		家庭科科目研究（生活環境分野）	1前	2		○									兼3	※講義 共同・オムニバス	
		家庭科総合演習Ⅰ	1通	2		○			1						兼5	共同/集中	
		家庭科総合演習Ⅱ	2通	2		○			1						兼5	共同/集中	
		英語科内容総合研究	1後	2	○										兼2	※演習 共同	
		英語科科目研究（英語学）	1後	2	○										兼2	※演習 共同	
		英語科科目研究（英語文学）	1後	2	○				1						兼2	※演習 共同	
		英語科総合演習Ⅰ	1通	2		○			1						兼4	共同/集中	
		英語科総合演習Ⅱ	2通	2		○			1						兼4	共同/集中	
		特別支援学校の教材開発	1前	2		○			1								隔年
		特別支援学校の授業づくり	1前	2		○			1								隔年
		感覚障害児のアセスメントと支援	1後	2		○										兼1	
		知的障害児のアセスメントと支援Ⅰ	1前	2		○										兼1	隔年
		知的障害児のアセスメントと支援Ⅱ	1前	2		○										兼1	隔年
		障害児の生理機能評価と支援	1後	2		○			1								
		特別支援教育課題発見演習	1後	2		○			2							兼4	共同/集中
		特別支援教育課題分析演習	2前	2		○			2							兼4	共同/集中
		特別支援教育課題解決演習	2後	2		○			2							兼4	共同/集中
		健康科学と社会創造	1後	2		○			2								共同（一部） ・オムニバス
		学校における医学・看護学	1後	2		○										兼2	共同（一部） ・オムニバス
		養護活動と健康増進科学	1後	2		○										兼2	共同（一部） ・オムニバス
		臨床医学特論	1後	2		○										兼2	共同（一部） ・オムニバス
		養護科学課題発見演習	1後	2		○			2							兼6	共同/集中
		養護科学課題分析演習	2前	2		○			2							兼6	共同/集中
		養護科学課題解決演習	2後	2		○			2							兼6	共同/集中
		小計（99科目）	—	0	180	0	—		16	8	0	2	0		兼64	—	
		コース間融合科目	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践	1前	2		○			1						兼1	共同
			学習指導・学習評価の課題と方法	1前	2		○			1						兼1	共同
			教育カウンセリング実践と事例研究	1後	2		○			1						兼1	共同
教育臨床問題と道徳	1後		2		○			1		1					共同		
子ども理解と学習支援	1後		2		○			4	3		1				共同		
ことばの諸相と教育	1後		2		○			1						兼2	※講義 共同・オムニバス /隔年		
近代化と現代の生活問題	1後		2	○										兼3	※演習 共同/隔年		
芸術の言葉	1前		2	○										兼2	※演習 共同/隔年		
社会の数理	1後		2		○			1						兼1	※講義 共同/隔年		
自然現象の数理	1後		2		○									兼4	共同・オムニバス /隔年		
あそびに学ぶ-Communication with Imagination-	1前		2		○			1	1					兼2	共同		
時間と空間の表現世界	1前		2		○									兼4	共同/隔年		
読み・書き・計算のつまずきと支援	1前		2		○									兼3	共同・オムニバス		
動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	1前		2		○			1						兼3	共同・オムニバス		
茨城に学ぶ-地域における教員の在り方Ⅰ	1後		2		○			1	1					兼4	共同/隔年		
茨城に学ぶ-地域における教員の在り方Ⅱ	1後		2		○			1	1					兼4	共同/隔年		
防災を含む安全に関する教育	1後		2		○				1					兼4	共同（一部） ・オムニバス		
持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶ	1後		2		○									兼5	共同（一部） ・オムニバス		
課題探索演習	1通		2		○			7	4		1					共同/集中	
小計（19科目）	—		0	38	0	—		12	8	0	2	0		兼35	—		

実習科目	コース別実習	学校運営実習Ⅰ	1後	3			○	3	1					共同/集中
		学校運営実習Ⅱ	2通	5			○	3	1					共同/集中
		教育方法開発実習Ⅰ	1後	3			○	2	1	1				共同/集中
		教育方法開発実習Ⅱ	2通	5			○	2	1	1				共同/集中
		児童生徒支援実習	1後	3			○	2	2					共同/集中
		学校適応アセスメント実習	2前	3			○	2	2					共同/集中
		学校適応支援実習	2後	2			○	2	2					共同/集中
		教科領域実習Ⅰ	1後	3			○	5	4	1		兼52		共同/集中
		教科領域実習Ⅱ	2前	3			○	5	4	1		兼52		共同/集中
		教科領域実習Ⅲ	2通	5			○	5	4	1		兼52		共同/集中
		特別支援教育教材開発実習Ⅰ	1前	1			○	2				兼4		共同/集中
		特別支援教育教材開発実習Ⅱ	2前	1			○	2				兼4		共同/集中
		特別支援教育アセスメント実習Ⅰ	1後	1			○	2				兼4		共同/集中
		特別支援教育アセスメント実習Ⅱ	2後	1			○	2				兼4		共同/集中
		特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ	1前	1			○	2				兼4		共同/集中
		特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ	2前	1			○	2				兼4		共同/集中
		特別支援教育授業改善実習	2通	5			○	2				兼4		共同/集中
		養護科学実習Ⅰ	1通	2			○	2				兼4		共同/集中
		養護科学実習Ⅱ	2通	4			○	2				兼4		共同/集中
		養護科学実習Ⅲ	2通	4			○	2				兼4		共同/集中
		養護科学実習Ⅳ	1後	2			○	2				兼6		共同/集中
小計 (21科目)	—	0	58	0	—	16	8	0	2	0	兼62	—		
コース間融合実習	課題発見実習(学校運営コース)	1前	2			○	7	4	1		兼3		共同/集中	
	課題発見実習(教育方法開発コース)	1前	2			○	7	4	1		兼3		共同/集中	
	課題発見実習(児童生徒支援コース)	1前	2			○	7	4	1		兼3		共同/集中	
	教材開発実習ⅠA(教科領域コース)	1前	1			○	5	4	1		兼52		共同/集中	
	教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース)	1前	1			○	2				兼4		共同/集中	
	教材開発実習ⅠA(養護科学コース)	1前	1			○	2				兼6		共同/集中	
	教材開発実習ⅡA(教科領域コース)	2前	1			○	5	4	1		兼52		共同/集中	
	教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース)	2前	1			○	2				兼4		共同/集中	
	教材開発実習ⅠB(教科領域コース)	1通	1			○	5	4	1		兼52		共同/集中	
	教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース)	1通	1			○	2				兼4		共同/集中	
	教材開発実習ⅠB(養護科学コース)	1通	1			○	2				兼6		共同/集中	
	教材開発実習ⅡB(教科領域コース)	2通	1			○	5	4	1		兼52		共同/集中	
	教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース)	2通	1			○	2				兼4		共同/集中	
	子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)	1前	1			○	5	4	1		兼52		共同/集中	
	子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)	1前	1			○	2				兼4		共同/集中	
	子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)	1前	1			○	2				兼6		共同/集中	
小計 (16科目)	—	0	19	0	—	16	8	0	2	0	兼65	—		
合計 (178科目)		—	6	333	0	—	16	8	0	2	0	兼70	—	
学位又は称号		教職修士(専門職)			学位又は学科の分野				教員養成関係					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【全コース（合計48単位以上修得すること）】	1 学年の学期区分	2 学期
【学校運営コース】	1 学期の授業期間	1 5 週
○共通科目（20単位以上修得すること）	1 時限の授業時間	9 0 分
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成・実施に関する領域（2単位修得すること） ・教科等の実践的な指導方法に関する領域（4単位以上修得すること） ・生徒指導、教育相談に関する領域（4単位修得すること） ・学級経営、学校経営に関する領域（4単位以上修得すること） ・学校教育と教員の在り方に関する領域（4単位修得すること） ・学校改善と校内研修に関する領域（2単位修得すること） 		
○専門科目（18単位以上修得すること）		
<ul style="list-style-type: none"> ・コース別科目（16単位修得すること） ・コース間融合科目（2単位以上修得すること） 		
○実習科目（10単位修得すること）		
<ul style="list-style-type: none"> ・コース別実習（8単位修得すること） ・コース間実習（2単位修得すること） 		
【教育方法開発コース、児童生徒支援コース】		
○共通科目（20単位以上修得すること）		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成・実施に関する領域（2単位修得すること） ・教科等の実践的な指導方法に関する領域（4単位以上修得すること） ・生徒指導、教育相談に関する領域（4単位修得すること） ・学級経営、学校経営に関する領域（4単位以上修得すること） ・学校教育と教員の在り方に関する領域（4単位修得すること） ・学校改善と校内研修に関する領域（2単位修得すること） 		
○専門科目（18単位以上修得すること）		
<ul style="list-style-type: none"> ・コース別科目（12単位修得すること） ・コース間融合科目（6単位以上修得すること） 		
○実習科目（10単位修得すること）		
<ul style="list-style-type: none"> ・コース別実習（8単位修得すること） ・コース間実習（2単位修得すること） 		
【教科領域コース】		
○共通科目（18単位以上修得すること）		
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成・実施に関する領域（2単位修得すること） ・教科等の実践的な指導方法に関する領域（4単位以上修得すること） ・生徒指導、教育相談に関する領域（4単位以上修得すること） ・学級経営、学校経営に関する領域（2単位以上修得すること） ・学校教育と教員の在り方に関する領域（2単位以上修得すること） ・学校改善と校内研修に関する領域（2単位修得すること） 		
<ul style="list-style-type: none"> ※「教科等の実践的な指導方法に関する領域」、「生徒指導、教育相談に関する領域」、「学級経営、学校経営に関する領域」及び「学校教育と教員の在り方に関する領域」から合計14単位以上修得すること 		
○専門科目（20単位以上修得すること）		
<ul style="list-style-type: none"> ・コース別科目（10単位以上修得すること） ・コース間融合科目（10単位以上修得すること） 		
○実習科目（10単位修得すること）		
学部新卒学生		
<ul style="list-style-type: none"> ・コース別実習（6単位修得すること） ・コース間実習（4単位修得すること） 		
現職教員学生		
<ul style="list-style-type: none"> ・コース別実習（8単位修得すること） ・コース間実習（2単位修得すること） 		

【特別支援科学コース】

○共通科目（18単位以上修得すること）

- ・教育課程の編成・実施に関する領域（2単位修得すること）
- ・教科等の実践的な指導方法に関する領域（2単位以上修得すること）
- ・生徒指導、教育相談に関する領域（6単位修得すること）
- ・学級経営、学校経営に関する領域（2単位以上修得すること）
- ・学校教育と教員の在り方に関する領域（2単位以上修得すること）
- ・学校改善と校内研修に関する領域（2単位修得すること）

※「教科等の実践的な指導方法に関する領域」、「学級経営、学校経営に関する領域」及び「学校教育と教員の在り方に関する領域」から合計8単位以上修得すること

○専門科目（20単位以上修得すること）

- ・コース別科目（14単位以上修得すること）
- ・コース間融合科目（6単位以上修得すること）

○実習科目（10単位修得すること）

学部新卒学生

- ・コース別実習（6単位修得すること）
- ・コース間実習（4単位修得すること）

現職教員学生

- ・コース別実習（8単位修得すること）
- ・コース間実習（2単位修得すること）

【養護科学コース】

○共通科目（18単位以上修得すること）

- ・教育課程の編成・実施に関する領域（2単位修得すること）
- ・教科等の実践的な指導方法に関する領域（2単位以上修得すること）
- ・生徒指導、教育相談に関する領域（4単位以上修得すること）
- ・学級経営、学校経営に関する領域（2単位以上修得すること）
- ・学校教育と教員の在り方に関する領域（2単位以上修得すること）
- ・学校改善と校内研修に関する領域（2単位修得すること）

※「教科等の実践的な指導方法に関する領域」、「生徒指導、教育相談に関する領域」、「学級経営、学校経営に関する領域」及び「学校教育と教員の在り方に関する領域」から合計14単位以上修得すること

○専門科目（20単位以上修得すること）

- ・コース別科目（14単位以上修得すること）
- ・コース間融合科目（6単位以上修得すること）

○実習科目（10単位修得すること）

- ・コース別実習（8単位修得すること）
- ・コース間実習（2単位修得すること）

各コースの必修科目・選択科目の別は別紙のとおり。

（履修科目の登録の上限：44単位（年間））

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - （1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - （2）「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - （3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

※■必修 □選択

各コースの必修科目・選択科目の別								
科目区分	授業科目の名称	コース名						
		学校運営	教育方法開発	児童生徒支援	教科領域	特別支援科学	養護科学	
共通科目	教育課程編成・実施に関する領域	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ	■	■	■	■	■	■
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ	■	■	■	■	■	■
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	ICT活用とプログラミング	□	□	□	□	□	□
		子ども理解にもとづく学習指導	■	■	■			
		授業研究の方法と実践	■	■	■			
		★ 主体的・対話的で深い学びの授業づくり（言語・社会・生活科学系）				□	□	□
		★ 主体的・対話的で深い学びの授業づくり（自然・科学技術系）				□	□	□
		★ 主体的・対話的で深い学びの授業づくり（芸術・スポーツ系）				□	□	□
		特別支援教育の自立活動の授業づくり				□	■	□
		心とからだの発達と保健				□	□	■
	生徒相談指導に関する領域	発達障害児の理解と支援	■	■	■	■	■	■
		教育相談の課題と支援	■	■	■			
		子どもの健康と生徒指導				■	■	■
		特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス				□	■	□
	学校経営に関する領域	インクルーシブ教育の学校づくり	□	□	□	□	■	□
		学校マネジメント実践演習	■	■	■			
		学級経営実践演習	■	■	■			
		学級力を高めるコミュニケーション				□	□	□
	教員としての教育に関する領域	茨城の教育改革と開かれた学校づくり	■	■	■	■	■	■
		教師のライフステージと資質向上	■	■	■			
学校における多様性の受容と活用					□	□	□	
学校改善に関する領域	校内研修の企画・立案と実践	■	■	■				
	教育測定（評価）と校内研修				■	■	■	
専門科目	コース別科目	教育政策の実施と評価	■					
		教育行財政と法規	■					
		スクール・リーダーシップとその実践	■					
		学校危機管理論と実践演習	■					
		学校における評価マネジメント実践演習	■					
		学校運営課題研究Ⅰ	■					
		学校運営課題研究Ⅱ	■					
		学校運営課題研究Ⅲ	■					
		学校運営課題研究Ⅳ	■					
		学校運営実践研究Ⅰ	■					
		学校運営実践研究Ⅱ	■					
		教材研究と授業設計		■				
		人間形成の現代的課題と学習指導		■				
		授業研究による授業改善		■				
		教育方法開発課題研究Ⅰ		■				
教育方法開発課題研究Ⅱ		■						
教育方法開発課題研究Ⅲ		■						

専門科目	コース別科目	教育方法開発課題研究Ⅳ	■				
		教育方法開発実践研究Ⅰ	■				
		教育方法開発実践研究Ⅱ	■				
		学校不適応問題への理解と対応		■			
		学級経営と個別指導の実践		■			
		学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法		■			
		児童生徒支援課題研究Ⅰ		■			
		児童生徒支援課題研究Ⅱ		■			
		児童生徒支援課題研究Ⅲ		■			
		児童生徒支援課題研究Ⅳ		■			
		児童生徒支援実践研究Ⅰ		■			
		児童生徒支援実践研究Ⅱ		■			
		国語科内容総合研究				□	
		国語科科目研究（国語学・書写書道）				□	
		国語科科目研究（国文学・漢文学）				□	
		国語科総合演習Ⅰ				□	
		国語科総合演習Ⅱ				□	
		社会科内容総合研究				□	
		社会科科目研究（歴史）				□	
		社会科科目研究（地理）				□	
		社会科科目研究（社会と人間）				□	
		社会科科目研究（法律と政治）				□	
		社会科総合演習ⅠA				□	
		社会科総合演習ⅠB				□	
		社会科総合演習ⅡA				□	
		社会科総合演習ⅡB				□	
		算数科内容総合研究				□	
		数学科科目研究（代数学・幾何学）				□	
		数学科科目研究（解析学・統計学）				□	
		数学科総合演習Ⅰ				□	
		数学科総合演習Ⅱ				□	
		理科内容総合研究				□	
		理科科目研究（エネルギー・粒子）				□	
		理科科目研究（生命・地球）				□	
		理科総合演習Ⅰ				□	
		理科総合演習Ⅱ				□	
		音楽科内容総合研究				□	
		音楽科科目研究（表現）				□	
		音楽科科目研究（鑑賞）				□	
		音楽科総合演習Ⅰ				□	
		音楽科総合演習Ⅱ				□	
		図画工作科内容総合研究				□	
		美術科科目研究（絵画・彫刻）				□	
		美術科科目研究（デザイン・工芸）				□	
美術科総合演習Ⅰ				□			
美術科総合演習Ⅱ				□			
体育科内容総合研究				□			
保健体育科科目研究（保健・体育学）				□			

専門科目	コース別科目	保健体育科科目研究（運動学）				<input type="checkbox"/>		
		保健体育科総合演習Ⅰ				<input type="checkbox"/>		
		保健体育科総合演習Ⅱ				<input type="checkbox"/>		
		技術科内容総合研究				<input type="checkbox"/>		
		技術科科目研究（材料と加工・生物育成）				<input type="checkbox"/>		
		技術科科目研究（エネルギー変換・情報）				<input type="checkbox"/>		
		技術科総合演習Ⅰ				<input type="checkbox"/>		
		技術科総合演習Ⅱ				<input type="checkbox"/>		
		家庭科内容総合研究				<input type="checkbox"/>		
		家庭科科目研究（人間生活分野）				<input type="checkbox"/>		
		家庭科科目研究（生活環境分野）				<input type="checkbox"/>		
		家庭科総合演習Ⅰ				<input type="checkbox"/>		
		家庭科総合演習Ⅱ				<input type="checkbox"/>		
		英語科内容総合研究				<input type="checkbox"/>		
		英語科科目研究（英語学）				<input type="checkbox"/>		
		英語科科目研究（英語文学）				<input type="checkbox"/>		
		英語科総合演習Ⅰ				<input type="checkbox"/>		
		英語科総合演習Ⅱ				<input type="checkbox"/>		
		特別支援学校の教材開発					<input type="checkbox"/>	
		特別支援学校の授業づくり					<input type="checkbox"/>	
		感覚障害児のアセスメントと支援					<input type="checkbox"/>	
		知的障害児のアセスメントと支援Ⅰ					<input type="checkbox"/>	
		知的障害児のアセスメントと支援Ⅱ					<input type="checkbox"/>	
		障害児の生理機能評価と支援					<input type="checkbox"/>	
		特別支援教育課題発見演習					<input checked="" type="checkbox"/>	
		特別支援教育課題分析演習					<input checked="" type="checkbox"/>	
		特別支援教育課題解決演習					<input checked="" type="checkbox"/>	
		健康科学と社会創造						<input checked="" type="checkbox"/>
		学校における医学・看護学						<input checked="" type="checkbox"/>
		養護活動と健康増進科学						<input checked="" type="checkbox"/>
		臨床医学特論						<input checked="" type="checkbox"/>
		養護科学課題発見演習						<input checked="" type="checkbox"/>
		養護科学課題分析演習						<input checked="" type="checkbox"/>
養護科学課題解決演習						<input checked="" type="checkbox"/>		
コース間融合科目	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	学習指導・学習評価の課題と方法	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
	教育カウンセリング実践と事例研究	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				
	教育臨床問題と道徳		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				
	子ども理解と学習支援		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>				
	ことばの諸相と教育				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	近代化と現代の生活問題				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	芸術の言葉				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	社会の数理				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	自然現象の数理				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	☆ あそびに学ぶ-Communication with Imagination-				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	時間と空間の表現世界				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	☆ 読み・書き・計算のつまずきと支援				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

専門科目	コース間融合科目	動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅠ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅡ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		防災を含む安全に関する教育				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		課題探索演習				<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
実習科目	コース別実習	学校運営実習Ⅰ	<input checked="" type="checkbox"/>					
		学校運営実習Ⅱ	<input checked="" type="checkbox"/>					
		教育方法開発実習Ⅰ		<input checked="" type="checkbox"/>				
		教育方法開発実習Ⅱ		<input checked="" type="checkbox"/>				
		児童生徒支援実習			<input checked="" type="checkbox"/>			
		学校適応アセスメント実習			<input checked="" type="checkbox"/>			
		学校適応支援実習			<input checked="" type="checkbox"/>			
		教科領域実習Ⅰ				<input checked="" type="checkbox"/>		
		教科領域実習Ⅱ				<input type="checkbox"/>		
		教科領域実習Ⅲ				<input type="checkbox"/>		
		特別支援教育教材開発実習Ⅰ					<input checked="" type="checkbox"/>	
		特別支援教育教材開発実習Ⅱ					<input type="checkbox"/>	
		特別支援教育アセスメント実習Ⅰ					<input checked="" type="checkbox"/>	
		特別支援教育アセスメント実習Ⅱ					<input type="checkbox"/>	
		特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ					<input checked="" type="checkbox"/>	
		特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ					<input type="checkbox"/>	
		特別支援教育授業改善実習					<input type="checkbox"/>	
		養護科学実習Ⅰ						<input checked="" type="checkbox"/>
		養護科学実習Ⅱ						<input type="checkbox"/>
		養護科学実習Ⅲ						<input type="checkbox"/>
養護科学実習Ⅳ						<input checked="" type="checkbox"/>		
コース間融合実習	課題発見実習(学校運営コース)	<input checked="" type="checkbox"/>						
	課題発見実習(教育方法開発コース)		<input checked="" type="checkbox"/>					
	課題発見実習(児童生徒支援コース)			<input checked="" type="checkbox"/>				
	教材開発実習ⅠA(教科領域コース)				<input type="checkbox"/>			
	教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース)					<input type="checkbox"/>		
	教材開発実習ⅠA(養護科学コース)						<input type="checkbox"/>	
	教材開発実習ⅡA(教科領域コース)				<input type="checkbox"/>			
	教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース)					<input type="checkbox"/>		
	教材開発実習ⅠB(教科領域コース)				<input type="checkbox"/>			
	教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース)					<input type="checkbox"/>		
	教材開発実習ⅠB(養護科学コース)						<input type="checkbox"/>	
	教材開発実習ⅡB(教科領域コース)				<input type="checkbox"/>			
	教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース)					<input type="checkbox"/>		
	子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)				<input type="checkbox"/>			
子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)					<input type="checkbox"/>			
子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)						<input type="checkbox"/>		
※補足事項 教科領域コースは、★が付いた3科目の中から1科目を選択し、及び☆が付いた2科目の中から1科目を選択する。								

基礎となる学部 教 育 課 程 等 の 概 要																
(教育学部 学校教育教員養成課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
入門 科目	大学入門ゼミ	1前	2				○		3	1		1		兼2	オムニバス	
	茨城学	1②③	2			○			3	1				兼6	オムニバス	
	小計 (2科目)	-	4	0	0	-			5	2	0	1	0	兼8	-	
共通 基礎 科目	プラクティカル・イングリッシュ (PE)															
	Integrated English I A	1前	2				○							兼1		
	Integrated English II A	1前	2				○							兼13		
	Integrated English III A	1前	2				○							兼6		
	Integrated English I B	1後	1				○							兼1		
	Integrated English II B	1後	1				○							兼13		
	Integrated English III B	1後	1				○							兼5		
	Advanced English I A	2前	1				○							兼5		
	Advanced English I B	2後	1				○							兼5		
	Advanced English II A	2・3前	1				○							兼9		
	Advanced English II B	2後	1				○							兼8		
	Advanced English III A	2・3前	1				○							兼9		
	Advanced English III B	2後	1				○							兼6		
	Advanced English III C	2・3前	1				○		1					兼6		
	情報リテラシー															
	情報リテラシー	1前	2				○		2						兼4	
	心と体の健康															
	身体活動	1前後	1					○	1						兼6	
	身体活動	2前	1					○							兼1	
	健康の科学	1前後	1				○								兼2	
科学の基礎																
統計学入門	1①②	1				○								兼2		
科学入門	1①②	1				○								兼5		
小計 (19科目)	-	-	3	20	0	-			3	1	0	0	0	兼48	-	
リベ ラル ア ー ツ 科 目	多文化理解															
	異文化コミュニケーション															
	ドイツ語 I	1前	2				○							兼5		
	ドイツ語 II	1後	2				○							兼2		
	フランス語 I	1前	2				○		1					兼1		
	フランス語 II	1後	2				○							兼1		
	中国語 I	1前	2				○							兼5		
	中国語 II	1後	2				○							兼3		
	朝鮮語 I	1前	2				○							兼2		
	朝鮮語 II	1後	2				○							兼1		
	スペイン語 I	1前	2				○							兼1		
	スペイン語 II	1後	2				○							兼1		
	ドイツ語入門	1後	1				○							兼4		
	フランス語入門	1後	1				○							兼2		
	中国語入門	1後	1				○							兼7		
	朝鮮語入門	1後	1				○							兼3		
	スペイン語入門	1後	1				○							兼1		
	学術日本語 I	1前後	1				○							兼2		
	学術日本語 II A	1前後	1				○							兼2		
学術日本語 II B	1前	1				○							兼1			
学術日本語 II C	1後	1				○							兼1			

基盤教育科目	リベラルアーツ科目	人間とコミュニケーション	1③～2④	1	○			1	1				兼9	
		多文化共生	1③～2④	1	○				1				兼4	
		コミュニケーションと芸術文化	1③～2④	1	○								兼2	
		ヒューマニティーズ												
		思想・文学	1③～2④	1	○								兼10	
		歴史・考古学	1③～2④	1	○								兼7	
		人間科学	1③～2④	1	○								兼11	
		メディア文化	1③～2④	1	○			3					兼2	
		パフォーマンス&アート												
		スポーツ文化	1③～2④	1		○							兼2	
		音楽文化	1③～2④	1		○							兼3	
		美術文化	1③～2④	1		○							兼4	
		ダンス・演劇文化	1③～2④	1		○							兼2	
		自然と社会の広がり												
		自然・環境と人間												
		物質と生命	1③～2④	1		○							兼4	
		技術と社会	1③～2④	1		○							兼11	
		環境と人間	1③～2④	1		○							兼8	
		グローバル化と人間社会												
		法律・政治	1③～2④	1		○			1				兼3	
経済・経営	1③～2④	1		○							兼6			
日本国憲法	2①～2④	1		○							兼4			
公共社会	1③～2④	1		○		2	1				兼7			
グローバル・スタディーズ	1③～2④	1		○							兼4			
キャリアを考える														
ライフデザイン														
ライフデザイン	3①②	1		○							兼1	オムニバス		
小計(39科目)		-	1	48	0	-	6	4	0	0	0	兼133	-	
全学共通科目	グローバル英語プログラム科目													
	English for Socializing	2③～3④	1		○							兼2		
	Reading & Discussion	2③～3④	1		○							兼4		
	Studies in Particular Fields	2③～3④	1		○			1				兼5		
	Studying Abroad	2③～3④	1		○							兼1		
	Bilingualism	2③～3④	1		○							兼2		
	Academic Speaking	2③～3④	1		○							兼3		
	TOEIC & TOEFL	2③～3④	1		○							兼3		
	Academic Writing	2③～3④	1		○							兼3		
	Studies in Contemporary Japan	2③～3④	1		○							兼1		
	Presentations in English	2③～3④	1		○							兼3		
	日本語教育プログラム科目													
	日本語教育概論	2前	2		○							兼1		
	多文化社会と日本語教育	2前	2		○							兼2		
	日本語教授法 I	2後	2		○							兼1		
	日本語教授法 II	3前	2		○							兼1		
	日本語教授法演習	3後・4前	2			○						兼4	集中	
	日本語教授法演習(海外)	3後・4前	2			○						兼2	集中	
	COC地域志向教育プログラム科目													
	5学部混合地域PBL I	1前	2			○						兼1	集中	
5学部混合地域PBL II	2前	2			○						兼1	集中		
5学部混合地域PBL III	1前	2			○						兼2	集中		
5学部混合地域PBL IV	1前	2			○						兼4	集中		
地域協創PBL	2前	2			○						兼1	集中		
AIMSプログラム科目														
地域サステナビリティ学概論	2後	1			○						兼2	オムニバス		
環境共生論	2後	2			○						兼4	オムニバス		

全学共通科目	環境保全型農業論	2後	2		○								兼6	オムニバス	
	フィールド実践演習	2後	1			○							兼1		
	環境変動適応・防災論	2後	2		○								兼3	オムニバス	
	地域環境管理論	2後	2		○								兼1		
	地域サステナビリティ学特別講義Ⅰ	2後	1		○								兼3		
	地域サステナビリティ学特別講義Ⅱ	2後	1		○								兼2		
	地域サステナビリティ学ゼミナール	3後	1			○							兼57		
	地域サステナビリティ学ラボワーク	3後	2				○						兼57		
	小計 (31科目)	-	0	47	0	-			0	1	0	0	0	兼86	-
専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	1前後	2		○			1						
		教職概論	1前	2		○					1				
		教育の制度と経営	3前	2		○			1						
		教育心理学	1前後	2		○			1						
		特別な支援を必要とする子どもの理解と支援	1③	1		○			3						オムニバス
		教育課程論	2前後	2		○			1						
		小計 (6科目)	-	11	0	0	-		7	0	0	1	0	兼0	-
	道徳、総合的な学習の時間、生徒指導等に関する科目	道徳教育の理論と指導法	3前	2		○								兼1	
		総合的な学習の時間の指導法	3前	1		○								兼1	
		特別活動論	3①	1		○				1					
		教育の方法と技術	2前後	2		○				1					
		生徒指導並びに進路指導及びキャリア教育の理論と方法	2前後	2		○			1						
		教育相談	3前	2		○			1						
		幼児理解の理論と方法	2前	2		○			1						
小計 (7科目)	-	10	2	0	-		3	2	0	0	0	兼2	-		
教育実践に関する科目	教育実習指導Ⅰ	1通	1				○	1	1						
	教育実習 (小学校)Ⅰ	3通	4				○	1	1						
	教育実習 (小学校)Ⅱ	4通	2				○	1	1						
	教育実習 (小学校)Ⅲ	4通	2				○	1	1						
	教育実習 (幼稚園)Ⅰ	3通	2				○	1	1						
	教育実習 (幼稚園)Ⅱ	4通	2				○	1	1						
	教育実習指導Ⅱ	2通	1				○	1	1						
	教育実習 (中学校)Ⅰ	3通	4				○	1	1						
	教育実習 (中学校)Ⅱ	4通	2				○	1	1						
	教育実習 (中学校)Ⅲ	4通	2				○	1	1						
	特別支援教育実地研究	4通	5				○	1	1						
	特別支援教育実地研究	4通	3				○	1	1						
	教職実践演習 (教諭)	4後	2				○	1							
小計 (13科目)	-	4	17	11	-		2	1	0	0	0	兼0	-		
教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)	初等国語科内容論	1③④	1		○			1	1						
	初等書写内容論	1①②③④	1			○		1							
	初等社会科内容論	1④	1		○			1					兼1	オムニバス	
	算数科内容論	1③④	1		○				2					オムニバス	
	初等理科内容論	1③④	1		○				2					オムニバス	
	生活科内容論	1③	1		○			5	4						
	初等音楽科内容論	2①②③④	1			○		1	1		1				
	図画工作科内容論	1③④	1			○		3			1			オムニバス	
	初等家庭科内容論	2①②	1		○			2	1					オムニバス	
	体育科内容論	2①③	1		○			1		1			兼1	オムニバス	
	初等英語科内容論	3前	1		○			3	1	1				オムニバス	
	初等国語科教育法	2前後	2		○			3							
	初等社会科教育法	2前後	2		○			1							

専 門 科 目	教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 科 目 (小 学 校)	算数科教育法	2後	2	○		1		1		オムニバス			
		初等理科教育法	2後	2	○			2						
		初等音楽科教育法	3前	2		○			1		1			
		図画工作科教育法	2前後	2		○		1			1			
		体育科教育法	3前	2		○		4	2	2		オムニバス		
		初等家庭科教育法	2前後	2		○		1	1			オムニバス		
		生活科教育法	3前	2		○		3	4			オムニバス		
		初等英語科教育法	2前後	2		○		1	1			兼1		
		小計(28科目)	-	0	31	0	-	22	15	3	3	0	兼3	-
		教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 科 目 (中 学 校)	国語学概論	1前	2	○		1						
	国語表現法		2後	2	○		1							
	国語学演習Ⅰ		2前	2	○		1							
	国語学演習Ⅱ		3前	2	○		1							
	国語学研究法		3前	2	○		1							
	国文学概論		1後	2	○			1						
	近・現代文学研究Ⅰ		2前	2	○			1						
	近・現代文学演習Ⅰ		2後	2	○			1						
	近・現代文学研究Ⅱ		3前	2	○			1						
	近・現代文学演習Ⅱ		3④	2	○			1						
	近・現代文学研究法		3前	2	○			1						
	古典文学研究Ⅰ		3通	2	○							兼1	集中	
	古典文学演習Ⅰ		3後	2	○		1							
	古典文学研究Ⅱ		3前	2	○							兼1		
	古典文学演習Ⅱ		3前	2	○		1							
	漢文学概論		1前	2	○		1							
	漢文学基礎		1後	2	○		1							
	漢文学研究法Ⅰ		2前	2	○		1							
	漢文学研究法Ⅱ		3前	2	○		1							
漢文学演習Ⅰ	2後		2	○		1								
漢文学演習Ⅱ	3前	2	○		1									
書道Ⅰ	1前	2		○		1								
書道Ⅱ	1後	2		○		1								
書道Ⅲ	2前	2		○		1								
書道Ⅳ	2後	2		○		1								
書論	3④	2		○		1								
鑑賞	3④	2		○		1								
漢字書法研究	3後	2		○		1								
かな書法研究	3前	2		○		1								
書道史	3前	2		○		1								
書道研究法	3前	2		○		1								
書道芸術論	3後	2	○		1									
中等国語科教育法Ⅰ	2前	2	○		1									
中等国語科教育法Ⅱ	2後	2	○		1									
中等国語科教育法Ⅲ	2後	2	○		1									
中等国語科教育法Ⅳ	3前	2	○		1									
中等国語科教育法Ⅴ	3前	2	○		1									
国語科教科論	3後	2	○		1									
書道科教育法Ⅰ	2前	2		○		1								
書道科教育法Ⅱ	3前	2		○		1								
基礎日本史	1①	1	○		1									
基礎世界史	1前	2	○					1						
基礎地理	1前	2	○			1								
日本史概論	1前	2	○		1									
日本史特講Ⅰ	2後	2	○		1									
日本史特講Ⅱ	3前	2	○		1									

専 門 科 目	教 科 及 び 教 科 の 指 導 法 に 関 す る 科 目 (中 学 校)	バスケットボール指導法	3前	1				○							兼1	集 中 集 中		
		サッカー指導法	3前	1				○	1									
		バレーボール指導法	3前	1				○	1									
		ソフトボール指導法	3前	1				○			1							
		柔道指導法	3前	1				○			1							
		野外運動指導法	3通	1				○	1									
		スキー指導法	3通	1				○	1									
		製図Ⅰ	1①	1			○		1									
		木材加工概論	1前	2		○						1						
		木材加工の基礎技術	1前	2					○			1						
		木材加工の応用技術	1③	2					○			1						
		木材加工学	2後	2		○						1						
		木材加工演習	3前	2			○					1						
		製図Ⅱ	1②	1				○			1							
		金属加工概論	1後	2		○				1		1						
		金属加工の基礎技術	2前	2						○	1	1						
		金属加工の応用技術	2④	2						○	1	1						
		金属加工学	2前	2		○					1	1						
		金属加工演習	3前	2			○				1	1						
		機械技術概論	1前	2		○					1	1						
		機械の基礎技術	3前	2						○	1	1						
		機械の応用技術	3④	1						○	1	1						
		機械技術	3前	2		○					1	1						
		機械技術演習	3前	2			○				1	1						
		電気技術概論	1前	2		○					1	1						
		電気の基礎技術	2前	2						○	1	1						
		電気の応用技術	2③	1						○	1	1						
		電気技術	2前	2		○					1	1						
		電気技術演習	3前	2			○				1	1						
		生物育成概論	1前	2		○							1					
		生物育成の基礎技術	3前	2						○			1					
		生物育成の応用技術	3④	1						○			1					
		生物育成技術	2前	2		○							1					
		生物育成演習	3前	2			○						1					
		情報技術概論	1後	2		○					1							
		情報処理の基礎技術Ⅰ	2前	1						○	1	1						
		情報処理の基礎技術Ⅱ	3前	1						○	1	1						
		情報処理の応用技術	3④	2			○				1	1						
		情報技術	3④	2		○					1	1						
		工学概論	3前	1		○					4	1						オムニバス
職業指導原論	3前	2		○					1									
技術科教育法Ⅰ	1④	2		○						1				兼1	オムニバス・集中			
技術科教育法Ⅱ	2前	2		○					1	2					オムニバス			
技術科教育法Ⅲ	2後	2		○						1								
技術科教育法Ⅳ	3①後	2		○						1				兼1	オムニバス・集中			
技術科教育法Ⅴ	2後	1		○					1						集中			
技術科教育法Ⅵ	2後	1		○					1						集中			
技術科指導法Ⅰ(木材加工実習)	4前	2			○						1							
技術科指導法Ⅱ(金属加工実習)	4前	2			○				1									
技術科教育演習	3前	2			○				1									
工業科教育法Ⅰ	3前	2		○					1									
工業科教育法Ⅱ	3前	2		○					1									
家庭経営学概論	1前	2		○					1									
家事労働論	2後	2		○					1									
現代家族論	2後	2		○					1									

自由履修	情報社会及び情報倫理	1通			2	○								兼1	集中
	情報社会論	2後			2	○			1						
	コンピュータ及び情報処理	1前			2	○				1					
	情報技術演習Ⅰ	1前			2		○		1						
	情報技術演習Ⅱ	2後			2		○		1						
	感覚の情報処理	3後			2	○			1						
	情報システム概論	2後			2	○			1	1					オムニバス
	情報システム演習	3通			2		○							兼1	集中
	情報通信ネットワーク概論	2通			2	○			1						集中
	情報通信ネットワーク演習	2後			2		○		1						
	マルチメディア表現及び技術	2通			2	○					1				
	マルチメディア表現の理論及び演習	2通			2		○							兼1	集中
	情報編集法	2前			2		○				1				
	シミュレーション技法	2前			2		○		1						
	データ解析法	2後			2		○				1				
	静止画像処理	1④			1		○		1						
	画像処理入門	1④			1		○		1						
	情報と職業	2後			2	○			1						
	情報科教育法Ⅰ	3通			2	○			1						集中
	情報科教育法Ⅱ	3通			2	○			1						
	学校における子ども虐待の予防と防止	3④			1	○			3						オムニバス
	ものづくり体験	3前			2		○		3	2					オムニバス
	こころを育てるグループワーク	2後			2		○		1						
	美術館ワークショップ実習	3前			1			○			1				
	現代教育の実践的課題	3通			2	○			1						集中
	小学校算数入門	1後			2	○					1				
	小学校算数基礎	2後			2	○			1						
	小学校算数発展	3前			2	○					1				
	小学校算数実践	3前			2	○								兼1	
	初等物理学	2後			2	○					1				
	初等化学	2前			2	○					1				集中
	初等生物学	2後			2	○					1				
	初等地学	1後			2	○			1	1					オムニバス
	初等英語科指導演習	4前			1	○			1	1					
	小学校英語と英文法	3前			2	○						1			
	英語コミュニケーションA（音韻論と発音演習）	1後			2		○							兼1	
	英語コミュニケーションR（音読とチャンツ・歌）	3①			1		○						1		
	英米文学・文化演習（児童文学）	2後			2		○		1						
	郷土の言葉	1後			2	○			1						
	小学校の書字指導	2後			2		○		1						
児童文学を読む	3前			2	○			1							
コミュニケーション演習	3前			2		○							兼1		
茨城の風土と生活	1前			2	○			2						オムニバス	
地球環境論	1後			2	○			1							
地域へのアプローチ	2前			2		○		2						集中	
環境教育論	3前			2	○					1					
環境化学	3前			2	○								兼1		
環境地球科学	2後			2	○			1							
子どもの健康と運動	1後			2	○					1			兼1	オムニバス	
からだと運動の測定評価	2後			2		○		1	1					オムニバス	
子どもの食と健康	3前			2	○			1							
子どものこころと健康	3前			2	○								兼1		
情報教育入門	1後			2	○			2	3					オムニバス	
学校教育とプログラミングⅠ	2③			1	○			1	3					オムニバス	
学校教育とプログラミングⅡ	2④			1		○		1	1					オムニバス	

【教科教育コース（Aタイプ）】

専門科目においては、「教育の基礎的理解に関する科目」から11単位、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」から10単位、「教育実践に関する科目」から10単位、「教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)」から30単位、「教科及び教科の指導法に関する科目(中学校)」から12単位、「教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目(小学校)」から1単位、「卒業研究」から4単位を修得する。
自由履修においては、「基盤教育科目」、「専門科目(他学部を含む)」及び「自由履修」の中から21単位を修得する。

【教科教育コース（Bタイプ）】

専門科目においては、「教育の基礎的理解に関する科目」から11単位、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」から10単位、「教育実践に関する科目」から10単位、「教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)」から16単位、「教科及び教科の指導法に関する科目(中学校)」から30単位、「教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目(中学校)」から1単位、「卒業研究」から4単位を修得する。
自由履修においては、「基盤教育科目」、「専門科目(他学部を含む)」及び「自由履修」の中から17単位を修得する。

【特別支援教育コース】

専門科目においては、「教育の基礎的理解に関する科目」から11単位、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」から10単位、「教育実践に関する科目」から8単位、「教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)」から30単位、「特別支援教育に関する科目」から28単位、「教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目(小学校)」から1単位、「卒業研究」から4単位を修得する。
自由履修においては、「基盤教育科目」、「専門科目(他学部を含む)」及び「自由履修」の中から7単位を修得する。

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

基礎となる学部 教 育 課 程 等 の 概 要															
(教育学部 養護教諭養成課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
入門 科目	大学入門ゼミ	1前	2				○		3	1		1		兼2	オムニバス
	茨城学	1②③	2			○			3	1				兼6	オムニバス
	小計（2科目）	-	4	0	0		-		5	2	0	1	0	兼8	-
共通 基礎 科目	プラクティカル・イングリッシュ (PE)														
	Integrated English I A	1前	2				○							兼1	
	Integrated English II A	1前	2				○							兼13	
	Integrated English III A	1前	2				○							兼6	
	Integrated English I B	1後	1				○							兼1	
	Integrated English II B	1後	1				○							兼13	
	Integrated English III B	1後	1				○							兼5	
	Advanced English I A	2前	1				○							兼5	
	Advanced English I B	2後	1				○							兼5	
	Advanced English II A	2・3前	1				○							兼9	
	Advanced English II B	2後	1				○							兼8	
	Advanced English III A	2・3前	1				○							兼9	
	Advanced English III B	2後	1				○							兼6	
	Advanced English III C	2・3前	1				○			1				兼6	
	情報リテラシー														
	情報リテラシー	1前	2				○		2					兼4	
	心と体の健康														
	身体活動	1前後	1					○	1					兼6	
	身体活動	2前	1					○						兼1	
健康の科学	1前後	1				○							兼2		
科学の基礎															
統計学入門	1①②	1				○							兼2		
科学入門	1①②	1				○							兼5		
小計（19科目）	-		3	20	0		-		3	1	0	0	0	兼48	-
リベ ラル ア ー ツ 科 目	多文化理解														
	異文化コミュニケーション														
	ドイツ語 I	1前	2				○							兼5	
	ドイツ語 II	1後	2				○							兼2	
	フランス語 I	1前	2				○			1				兼1	
	フランス語 II	1後	2				○							兼1	
	中国語 I	1前	2				○							兼5	
	中国語 II	1後	2				○							兼3	
	朝鮮語 I	1前	2				○							兼2	
	朝鮮語 II	1後	2				○							兼1	
	スペイン語 I	1前	2				○							兼1	
	スペイン語 II	1後	2				○							兼1	
	ドイツ語入門	1後	1				○							兼4	
	フランス語入門	1後	1				○							兼2	
	中国語入門	1後	1				○							兼7	
	朝鮮語入門	1後	1				○							兼3	
	スペイン語入門	1後	1				○							兼1	
学術日本語 I	1前後	1				○							兼2		
学術日本語 II A	1前後	1				○							兼2		
学術日本語 II B	1前	1				○							兼1		
学術日本語 II C	1後	1				○							兼1		

基盤教育科目	リベラルアーツ科目	人間とコミュニケーション	1③～2④	1	○		1	1				兼9	
		多文化共生	1③～2④	1	○			1				兼4	
		コミュニケーションと芸術文化	1③～2④	1	○							兼2	
		ヒューマニティーズ											
		思想・文学	1③～2④	1	○							兼10	
		歴史・考古学	1③～2④	1	○							兼7	
		人間科学	1③～2④	1	○							兼11	
		メディア文化	1③～2④	1	○		3					兼2	
		パフォーマンス&アート											
		スポーツ文化	1③～2④	1		○						兼2	
		音楽文化	1③～2④	1		○						兼3	
		美術文化	1③～2④	1		○						兼4	
		ダンス・演劇文化	1③～2④	1		○						兼2	
		自然と社会の広がり											
		自然・環境と人間											
		物質と生命	1③～2④	1		○						兼4	
		技術と社会	1③～2④	1		○						兼11	
		環境と人間	1③～2④	1		○						兼8	
		グローバル化と人間社会											
		法律・政治	1③～2④	1		○		1				兼3	
経済・経営	1③～2④	1		○						兼6			
日本国憲法	2①～2④	1		○						兼4			
公共社会	1③～2④	1		○		2	1			兼7			
グローバル・スタディーズ	1③～2④	1		○						兼4			
キャリアを考える													
ライフデザイン													
ライフデザイン	3①②	1		○						兼1	オムニバス		
小計(39科目)	-	1	48	0	-	6	4	0	0	0	兼2	-	
全学共通科目	グローバル英語プログラム科目												
	English for Socializing	2③～3④	1		○						兼2		
	Reading & Discussion	2③～3④	1		○						兼4		
	Studies in Particular Fields	2③～3④	1		○		1			兼5			
	Studying Abroad	2③～3④	1		○					兼1			
	Bilingualism	2③～3④	1		○					兼2			
	Academic Speaking	2③～3④	1		○					兼3			
	TOEIC & TOEFL	2③～3④	1		○					兼3			
	Academic Writing	2③～3④	1		○					兼3			
	Studies in Contemporary Japan	2③～3④	1		○					兼1			
	Presentations in English	2③～3④	1		○					兼3			
	日本語教育プログラム科目												
	日本語教育概論	2前	2		○						兼1		
	多文化社会と日本語教育	2前	2		○						兼2		
	日本語教授法 I	2後	2		○						兼1		
	日本語教授法 II	3前	2		○						兼1		
	日本語教授法演習	3後・4前	2			○					兼4	集中	
	日本語教授法演習(海外)	3後・4前	2			○					兼2	集中	
	COC地域志向教育プログラム科目												
	5学部混合地域PBL I	1前	2			○					兼1	集中	
5学部混合地域PBL II	2前	2			○					兼1	集中		
5学部混合地域PBL III	1前	2			○					兼2	集中		
5学部混合地域PBL IV	1前	2			○					兼4	集中		
地域協創PBL	2前	2			○					兼1	集中		
AIMSプログラム科目													
地域サステナビリティ学概論	2後	1			○					兼2	オムニバス		
環境共生論	2後	2			○					兼4	オムニバス		

全学 共通科目	環境保全型農業論	2後	2		○								兼6	オムニバス	
	フィールド実践演習	2後	1			○							兼1		
	環境変動適応・防災論	2後	2		○								兼3	オムニバス	
	地域環境管理論	2後	2		○								兼1		
	地域サステナビリティ学特別講義Ⅰ	2後	1		○								兼3		
	地域サステナビリティ学特別講義Ⅱ	2後	1		○								兼2		
	地域サステナビリティ学ゼミナール	3後	1			○							兼57		
	地域サステナビリティ学ラボワーク	3後	2				○						兼57		
小計(31科目)	-	0	47	0	-			0	1	0	0	0	兼86	-	
専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理B	1前	2		○								兼1	
		教職概論B	1前	2		○								兼1	
		教育の制度と経営B	3前	1		○								兼1	
		教育心理学B	1③	1		○								兼1	
		特別な支援を必要とする子どもの理解と支援B	1③	1		○								兼2	
		教育課程論B	2③	1		○								兼1	
	小計(6科目)	-	8	0	0	-			0	0	0	0	0	兼7	-
	道徳、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳教育の理論と指導法B	3前	1		○								兼1	
		総合的な学習の時間の指導法と特別活動論	3前	1		○								兼2	
		教育の方法と技術B	2④	1		○								兼1	
		生徒指導の理論と方法	2③	1		○								兼1	
		教育相談B	3前	2		○								兼1	
	小計(5科目)	-	6	0	0	-			0	0	0	0	0	兼6	-
	教育実践に関する科目	養護実習指導Ⅰ	2通	1			○							兼2	
		養護実習指導Ⅱ	2通	2			○							兼2	
養護実践指導		4通	2			○							兼2		
養護実習(小学校)		3通	2				○						兼2		
養護実習(中学校)		3通	2				○						兼2		
養護実習(高等学校)		4通	2				○						兼2		
教職実践演習(養護教諭)		4後	2			○			1					集中	
小計(7科目)	-	7	6	0	-			1	0	0	0	0	兼2	-	
保健の指導法に関する科目	保健科教育法Ⅰ	1後	2		○				1						
	保健科教育法Ⅱ	2前	2		○				1						
	保健科教育法Ⅲ	2後	2			○			1						
	保健科教育法Ⅳ	3前	2		○				1						
小計(4科目)	-	8	0	0	-			1	0	0	0	0	兼0	-	
養護に関する科目	衛生学	3前	2		○				1						
	公衆衛生学	3前	2		○				1						
	保健福祉論	4前	2		○				1						
	保健学演習	3④	2			○			1						
	学校保健概論	2前	2		○				1						
	学校環境衛生	2③	1			○			1						
	養護学概論	1後	2		○						1				
	養護実践論	2前	2		○						1				
	養護活動と関連法規	3④	1		○				1						
	学校保健行政	3④	1		○				1						
	養護活動演習Ⅰ	2後	2			○					1				
	養護活動演習Ⅱ	3前	2			○					1				
	健康相談活動	3前	2			○					1				
	学校ヘルスカウンセリング	3前	2		○								兼1		
栄養学	2後	2		○								兼1			
解剖生理学概論Ⅰ	1前	2		○				1							

専門科目	養護に関する科目	解剖生理学概論Ⅱ	1後		2		○			1							
		生化学	1前		2		○			1							
		免疫学Ⅰ	1後	2				○			1						
		免疫学Ⅱ	2前		2			○			1						
		薬理学	2前		2			○			1						
		精神保健	3前	2				○			1						
		精神医学概論	3④		1			○			1						
		小児精神医学	3④		1			○			1						
		臨床医学概論	2前	2				○			1						
		学校看護学概論	1前	2				○			1						集中
		学校看護学実習	2前		2				○		1						
		学校救急看護	2前	2				○			1						
		学校救急看護実習	2後	2					○		1						
		学校救急看護演習Ⅰ	2後		1				○		1						集中
		学校救急看護演習Ⅱ	3④		1				○		1						
		内科系臨床医学・看護学	2後		2				○		1						
		外科系臨床医学・看護学	2後		2				○		1						
		母性・小児系臨床医学・看護学	3前		2				○		1						
		感覚器系臨床医学・看護学	3前		2				○		1						
		臨床医学・看護学臨床実習	3通	3						○	2						集中
小計(36科目)	-	29	37	0	-				5	0	1	0	0	兼2	-		
卒業研究							○		5		1						
小計(1科目)	-	0	0	0	-				5	0	1	0	0	兼0	-		
合計(150科目)	-	66	158	0	-				19	7	1	1	0	兼93	-		
学位又は称号	教育学	学位又は学科の分野				教育学・保育学関係											
卒業要件及び履修方法										授業期間等							
基盤教育科目においては、「入門科目」から4単位、「共通基礎科目」から11単位、「リベラルアーツ科目」から10単位を修得する。 専門科目においては、「教育の基礎的理解に関する科目」から8単位、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」から6単位、「教育実践に関する科目」から7単位、「保健の指導法に関する科目」から8単位、「養護に関する科目」から40単位、「卒業研究」から4単位を修得する。 自由履修においては、「基盤教育科目」、「専門科目(他学部を含む)」及び「自由履修」の中から26単位を修得する。										1学年の学期区分			2期				
										1学期の授業期間			15週				
										1時限の授業時間			90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要 (教育学研究科教育実践高度化専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	<p>カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： ・学校におけるカリキュラム（教育課程）の位置づけ、構成要素、編成原則に基づいたマネジメントの在り方について理解できる。 ・地域社会との連携・協働を推進するカリキュラム編成を考察することができる。 ・カリキュラム改善の取り組みをコーディネートすることができる。</p> <p>授業の概要： 特色ある創造的なカリキュラム（教育課程）を編成するためには、学習指導要領に準拠しつつも各学校の事情を考慮した創意・工夫が求められる。特に今後のカリキュラムの編成には、学校運営協議会制度や学校協働活動といった地域社会との連携を密にして、個に応じた指導の充実、指導と評価の一体化、点検・評価などを基とした教育課程の編成をする必要がある。それら諸課題を考究するため、ケーススタディ、ワークショップなどPBL（問題解決型学習）形態を取り入れた授業により、カリキュラム・マネジメントを行う力量を身につける。</p>	共同
	教育課程の編成・実施に関する領域	<p>カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： ①各教科等の目標や児童生徒の実態を踏まえ、カリキュラム・マネジメントによる教育課程を計画立案する技能を身に付けている。 ②各教科等における児童生徒の実態、学校を取り巻く環境等から、自校における問題の中から課題を見付け、その解決に向けて適切なカリキュラムの在り方について考察することができる。 ③各教科等における教育課程や学校全体のカリキュラムについて、協働して改善する方法を提案することができる。</p> <p>授業の概要： ・学校全体でカリキュラム・マネジメントを実施する必要性、各教科等におけるカリキュラム・マネジメントの進め方について理解を深める。 ・地域や外部人材の活用に関わる利点と問題点について理解を深める。 ・学校における児童生徒の実態をふまえて各教科等の教育課程を考察するとともに、改善する技能を身に付ける。</p>	共同
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	<p>ICT活用とプログラミング</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： 学習の基盤となる資質・能力の一つである情報活用能力について、その内容及び育成方法等について理解を深めるとともに、教科等の目標の実現を目指す効果的なICTを活用した授業やプログラミングを取り入れた授業を構築する方法、簡単なプログラムを作成する知識及び技能を身に付けることを目標としている。</p> <p>授業の概要： 学校教育におけるICT機器を活用した授業、プログラミングを取り入れた授業を実践する意義、学校全体で取り組む情報活用能力の育成方法等について、事例の収集を行い、その内容を分析するとともに演習とグループワークを通して理解を深める。また、演習とグループワークで得られた知識を、教材作成や授業の場面で具体的に活用する方法について考え、具体的な実践方法について検討する。</p>	共同

共通科目	教科等の実践的な指導方法に関する領域	子ども理解にもとづく学習指導	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>①授業以前の子ども（幼児・児童・生徒，以下同じ）理解を生かした教材解釈ができるようになる。</p> <p>②授業の場のなかで子どもの発言及び行動から子ども理解を深められるようになる。</p> <p>③授業の場のなかで子どもの発言を生かした授業中の教材解釈ができるようになる。</p> <p>④授業の場のなかで子どもの発言を生かした教材解釈にもとづく授業が展開できるようになる。</p> <p>⑤カルテや座席表といった技法を身につける。</p> <p>授業の概要：</p> <p>授業において、どのように子どもを理解し、またその子ども理解にもとづいてどのように授業を展開していくのかを考える。授業以前の子ども理解をいかしながら、その理解のなかに子どもの発言を閉じ込めることなく、授業の場で子ども理解を深め、授業を展開していくということについて、実際の事例を取り上げながらPBL（問題解決型学習）の手法を用いて学ぶ。カルテや座席表といった技法についても学ぶ。</p>	共同
		授業研究の方法と実践	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>①授業研究の意義と研究方法について理解できる。</p> <p>②授業分析を通して、子ども（幼児・児童・生徒，以下同じ）の学びや教師の指導のあり方について具体的に考察できる。</p> <p>③子どもの学習過程や指導方法に関する自身の見方・捉え方について振り返ることができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>授業研究の意義やその方法について、これまでの授業研究の歩みや各種の研究手法、研究方法の基盤にある学習・指導に関する考え方を含めて理解する。実際に授業分析を行ない、子どもの学びの状況や教師の指導方法のあり方について分析することを通して、授業をとらえる力や、自身の授業・指導の見方を省察する力を高める。授業はPBL（問題解決型学習）の手法を用いて行う。</p>	共同
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり（言語・社会・生活科学系）	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的な学習方法や学習評価を理解している。 ・広い視野で言語や社会生活を題材に用いて、授業の目的に応じた効果的な教材・教具の作成、学習活動を工夫して、主体的・対話的で深い学びにつながる授業計画を立てることができる。 ・授業研究を通して、主体的・対話的で深い学びの授業改善について考察することができる。 <p>授業の概要：</p> <p>まず、主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的な学習方法や学習評価について、専門性を深める。次に、言語や社会生活を題材に用いて、グループで授業づくりの課題を話し合い、授業の目的に応じた効果的な教材・教具の作成、学習活動を工夫して、主体的・対話的で深い学びにつながる授業計画を立てる。最後に、作成した授業の提案発表（模擬授業、プレゼンテーション）を通して、主体的・対話的で深い学びの授業改善について考察する。</p>	共同

共通科目	教科等の実践的な指導方法に関する領域	主体的・対話的で深い学びの授業づくり（自然・科学技術系）	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを実現するための自然科学技術系の学習方法や学習評価方法を理解している。 ・広い視野で授業の目的に応じた効果的な自然科学現象に係る教材・教具を作成し、学習活動を工夫して、主体的・対話的で深い学びにつながる授業計画を立てることができる。 ・授業研究を通して、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善について考察することができる。 <p>授業の概要：</p> <p>まず、主体的・対話的で深い学びを実現するため、自然科学技術系の学習方法や学習評価方法について専門性を深める。次に、グループで授業づくりの課題を話し合い、授業の目的に応じた効果的な自然科学現象に係る教材・教具を作成し、学習活動を工夫して、主体的・対話的で深い学びにつながる授業計画を立案する。最後に、作成した授業の提案発表（模擬授業、プレゼンテーション）を通して、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善について考察する。</p>	共同
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり（芸術・スポーツ系）	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを実現するための具体的な学習方法や学習評価を理解している。 ・広い視野で芸術やスポーツを題材にして、授業の目的に応じた効果的な教材・教具の作成、学習活動を工夫し、主体的・対話的で深い学びにつながる授業計画を立てることができる。 ・授業研究を通して、主体的・対話的で深い学びの授業改善について考察することができる。 <p>授業の概要：</p> <p>芸術やスポーツを題材にした主体的・対話的で深い学びを実現する具体的な学習方法や学習評価についての専門的な理解を深めるため、グループで授業づくりの課題を話し合ったり、授業の目的に応じた効果的な教材・教具の作成し学習活動を工夫したりして、主体的・対話的で深い学びにつながる授業計画を立てる。また、作成した授業の提案発表（模擬授業、プレゼン）を行い、より主体的・対話的で深い学びを実現するための授業のあり方について考察する。</p>	共同
		特別支援教育の自立活動の授業づくり	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>この授業では特別支援学校に在籍する児童生徒に対する自立活動の内容および方法の最新動向を学ぶとともに、障害にもとづく学習上・生活上の困難を克服・軽減するための自立活動の授業づくりの方法を理解することを目標とする。</p> <p>授業の概要：</p> <p>特別支援学校に在籍する児童生徒に対する自立活動の内容および方法の最新動向を調べるとともに、自立活動の授業づくりの実践的特徴についてまとめる。そのうえで、特別支援学校で実践されている教科学習や教科等を合わせた指導の特徴をふまえて、学校現場で実践できる学習指導案を立案する。</p>	

共通科目	教科等の実践的な指導方法に関する領域	心とからだの発達と保健	<p>授業のテーマ及び到達目標： この授業では、子どもの正常範囲の発育・発達の理論を学ぶことを通じて年齢に応じた健康を理解することで、子どもの実態に則した境界領域や異常の判断能力を身に付け、心身の危機的状況を早期発見し対応できる能力を養うことを目標とする。具体的な到達目標は以下のとおりである。</p> <p>① 子どもの正常範囲内の発育・発達を理解することで、境界領域や異常を適切に判断することができる。</p> <p>② 子どもの心身の健康課題を早期に発見する能力を身に付け、その解決に向けて子どもの実情に応じた指導・対応を考察することができる。</p> <p>授業の概要： ・がん、メタボリックシンドローム、メンタルヘルスおよび救命処置などの基礎的事項を学び、自身の健康管理に資するとともに自殺や虐待など児童生徒の心身の危機的状況を早期発見と対応についての理解を深める。 ・学童期から思春期にかけての発育発達の課題を教育と保健医療の両面から検討することにより、子どもの発育発達に応じた指導のし方の原則と応用を、グループワークを通して考察していく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (60 古池雄治・62 渡邊雅彦・63 布施泰子/3回) (共同) ガイダンス、討論・発表、まとめを担当する。 (60 古池雄治・62 渡邊雅彦/2回) (共同) がん・メタボリックシンドロームと保健指導を担当する。 (60 古池雄治・63 布施泰子/2回) (共同) メンタルヘルス・自殺・虐待と保健指導と対応を担当する。 (60古池雄治/4回) 正常な子どもの発育と境界領域を担当する。 (62 渡邊雅彦/2回) 正常な子どもの神経発達と境界領域を担当する。 (63 布施泰子/2回) 正常な子どもの精神発達と境界領域を担当する。</p>	共同 (一部)・オムニバス
	生徒指導、教育相談に関する領域	発達障害児の理解と支援	<p>授業のテーマ及び到達目標： この授業では発達障害児の障害特性や困難の背景を理解した上で、各教科における指導方法の工夫や行動上の困難に対する支援方法を考える力を養うことを目標とする。具体的には以下の点について理解し、考える力を養う。</p> <p>・発達障害の特徴を知るとともに、学習困難を引き起こす要因について深く理解する。</p> <p>・学習困難の特徴に応じた支援方法について具体的に検討する。</p> <p>・各教科で使用する言語（読み・書き）の特徴を踏まえた支援方法について検討する。</p> <p>授業の概要： 発達障害児の困難の背景を理論的に理解した上で、各教科における指導方法の工夫や行動上の困難に対する支援方法を考える。このとき、特別支援科学コースの大学院生が発達障害を理解するポイントや支援方法をプレゼンテーションした上で、グループワークを通して教科指導や生徒指導における指導上の工夫を見つけ出し出ていくチュートリアル教育によって学びを深める授業とする。</p>	共同
		教育相談の課題と支援	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①不登校の類型的把握、いじめの発達の理解、精神障害に関する基本的知識が身につく。介入の方法について理解し、状況に応じた利用についてわかるようになる。 ②事例研究・検討の特徴や、検討の仕方を理解できるようになる。 ③自分の興味や特性に応じて、心理検査、介入方法のいずれかの方法論の基礎が身につく。</p> <p>授業の概要： 学校における教育臨床の問題についての全般的知識とその対応方法についての基礎的理解が目標となる。とりわけ、不登校に対する類型的把握、いじめの発達の理解、精神障害に関する理解などを中心としながら、介入の方法について学ぶ。授業方法としては、事例研究や実習的方法、およびグループ討議を取り入れて、実践的かつ現実的な対応力を身につけられるようにするPBL（問題解決型学習）を用いて行う。</p>	共同

共通科目	生徒指導、 教育相談に関する領域	子どもの健康と生徒指導	<p>授業のテーマ及び到達目標： (1)感染症やアレルギーに深く関わる免疫という体の仕組みを理解した上で、子どもたちの健康状態を把握し的確な判断と処置を理解し、養護教諭等と連携できる力を養う。(2)日常的に行われる健康管理や感染症への理解を深め、それぞれの対応方法などを身に付けることができる。(3)アレルギーへの対応、連携などを身に付けることができる。</p> <p>授業の概要： (1)学級内で行う子どもの日常の健康観察・管理、救急処置の緊急度・重症度の判断、およびノロウイルス等の学校感染症への対応などの理解を深める。(2)アレルギー疾患の基礎と実践について、日本学校保健会「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」等を用い理解し日頃の取り組みや緊急時への対応について理解を深める。 (3)養護教諭等との学校内での連携について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (11 瀧澤利行・59 廣原紀恵・12 石原研治/10回) (共同) ガイダンス、討論・発表、まとめを担当する。 (11 瀧澤利行/1回) 学校における子どもの健康管理と諸機関との連携・生徒指導を担当する。 (59 廣原紀恵/2回) 健康管理、救急処置、感染症を担当する。 (12 石原研治/2回) 免疫の仕組みとアレルギー疾患を担当する。</p>	共同(一部)・オムニバス
		特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス	<p>授業のテーマ及び到達目標： この授業では幼稚園・小学校・中学校の学習困難児に対する個別の指導計画の立案方法を学ぶとともに、特別支援学校のコーディネーターがセンター的機能の一部として展開しているケースカンファレンスの方法や保護者支援の方法を理解することを目標とする。</p> <p>授業の概要： 発達障害をはじめ、吃音の子どもなど、学校における学習困難の背景を理解し、そうした子どもたちに対する個別の指導計画の立案方法を学ぶ。そのうえで、特別支援学校のコーディネーターがセンター的機能の一部として地域の小学校や中学校等において行っているケースカンファレンスにおいて使用できるケース資料を作成したり、支援方法をわかりやすく説明する方法について学ぶ。</p>	
		学級経営、 学校経営に関する領域	インクルーシブ教育の学校づくり	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・インクルーシブ教育に関する国内外の同校と現状に関する基本的な知識を身につける。 ・上の知見を活用しながら、インクルーシブな授業づくり、学級づくり、学校づくりを進めていくための考察ができるようになる。</p> <p>授業の概要： ・インクルーシブ教育の背景、動向、基本的な理念、施策に関する濃い区内外の状況を理解する。 ・基礎的条件整備と合理的配慮学校に関する全国各地の取り組みの検討を通して、インクルーシブな授業づくり、学級づくり、学校づくりのための方策を検討する。 ・インクルーシブ教育を進めるための脅威運の力量や専門性について考察する。</p>

共通科目	学級経営、 学校経営に関する領域	学校マネジメント実践演習	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・学校マネジメントにおけるミッションマネジメントについて理解している。 ・内外環境分析を行って、特色づくりと改善プランのための原因を究明できる。 ・学級経営のビジョン形成を行うことができる。</p> <p>授業の概要： 今日の学校では校長のみならず、教職員がそれぞれの立場からマネジメントに対する理解を深めることが重要である。この授業では学校組織マネジメントの基本的な視点と考え方について、演習によって習得する。またセルフマネジメントから同僚関係構築についても考えていく。演習では現任校等を参照しながら、PBL（問題解決型学習）を用いて分析、計画立案等を行っていく。</p>	共同
		学級経営実践演習	<p>授業のテーマ及び到達目標： ① 学級経営における問題を整理、課題を設定できる。 ② 学級経営における問題解決のための状況分析ができる。 ③ 学級経営を計画し、実践するとともに、学年経営や学校経営との関係について理解できている。</p> <p>授業の概要： 学級経営は、学校経営から見れば、組織のサブシステムに位置する。授業では、学級経営に関する実践的演習として、学級経営案づくり、学級集団づくり、学級の状況分析、教師のリーダーシップの在り方などをPBL（問題解決型学習）の手法を用いて行う。それらを通して、受講者それぞれの立場から学級経営経験を語り、問題や課題を明らかにし、共通理解を深めるとともに、学級経営と学校経営のつながりを捉えていく。</p>	共同
		学級力を高めるコミュニケーション	<p>授業のテーマ及び到達目標： 学校現場における質の高い学校・学級経営を維持し、コミュニケーションやディスカッションなどの具体的な学習を通して、学級経営力や教員同士の協働性を高めることができる。特に、ディスカッションやプレゼンテーションなどの主体的な学習と対話的な学習を高めることによって、様々な教育問題について教科の枠を超えた解決に向けた議論をすることができる。</p> <p>授業の概要： 初めに、学校・学級経営について教育現場での経験をもつ教員が、その教職経験を生かして教育現場でのコミュニケーションの場やディスカッションの具体的な場の学習を設定し、学級経営や教員同士の協働性への資質を学ぶ。 次に、コミュニケーションについて理解を深め、具体的な場面を想定して、学生同士のディスカッションやプレゼンテーションなどの主体的な学習と対話的な学習によって、問題解決に向けて教科を超えた授業場面での言語能力や、考え・議論する道徳などの授業場面での討議能力を高める。 最後に、コミュニケーション力と語彙力について把握し、「これからのコミュニケーション力」について考察を深める。</p>	共同
		茨城の教育改革と開かれた学校づくり	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・学校と保護者・地域社会との関係に関する概念について理解している。 ・茨城県の教育施策を理解し、教員としての在り方を理解している。 ・学校と保護者・地域の関係づくりについて理解している。 ・学校と保護者・地域との連携・融合について、計画を立案し、実践できる。</p> <p>授業の概要：学校及び教員と地域社会・保護者の関係のあり方について、理論と実践例を通して理解を深める。同時に、茨城県の教育施策について理解を深めながら、茨城県の教師としてのキャリアの歩み方について考える。その上で、学校・学校教員と地域社会・保護者との連携・融合方法について学び、PBL（問題解決型学習）を用いて実践的な演習を行う。なお、授業実施に当たっては、茨城県教育研修センターの指導主事等にゲストティーチャーとして協力してもらおう。</p>	共同
	学校教育と教員の在り方に関する領域			

共通科目	学校教育と教員の在り方に関する領域	教師のライフステージと資質向上	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①学校教育の歴史的理解に基づいて、その構造と特質が理解できる。 ②教師の服務規程を理解し、学校における教師の役割の本質的意味が把握できる。 ③学校における多様な教育問題と教師のメンタルヘルス問題に取り組むことができる。 ④討議活動やフィールドワーク活動を通してより実践的な教育活動が行える。</p> <p>授業の概要： 本授業の目的は、多様な問題を抱える学校教育と教師の専門的力量を育成することである。そのために、今日の学校教育が抱えている構造的問題を論究し、現代の教師に求められている専門的力量とは何かを考察する。授業は主に、PBL（問題解決型学習）によって進められる。また授業の実施に当たっては、実務家専任教員がT.T.として参加する。</p>	共同
		学校における多様性の受容と活用	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・学校における多様性の受容と活用の考え方を理解し、児童生徒の現状を理解している。 ・学校における国籍や文化、性をめぐる多様性の受容と活用について考察できる。 ・多様性を尊重し合う態度や行動を醸成するために教員が果たすべき役割について、協働して考えることができる。</p> <p>授業の概要： 国際理解、多文化共生、多様な性のあり方等についての考え方や学校教育現場における現状について理解を深める。また、討議を通して、学校における国籍や文化、性をめぐる多様性の受容と活用について考察するとともに、多様性を尊重し合う態度や行動を醸成するために教員が果たすべき役割について協働して考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (82 齋藤英敏・66 大島規江・7 佐藤裕紀子/9回) (共同) 学校における多様性の受容と活用について検討する。 (82 齋藤英敏/2回) 学校教育現場における国籍の多様性について検討する。 (66 大島規江/2回) 学校教育現場における文化の多様性について検討する。 (7 佐藤裕紀子/2回) 学校教育現場における性の多様性について検討する。</p>	<p>共同 (一部)・オムニバス</p> <p>演習14時間 講義8時間</p>
	学校改善と校内研修に関する領域	校内研修の企画・立案と実践	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・校内研修に関する企画・立案ができる。 ・校内研修を実施するうえでリーダーシップを発揮できる。 ・校内研修による学校改善や授業改善を実践できる。</p> <p>授業の概要： ミドルリーダーとしての教師に求められる校内研修の企画・立案に関する実践力を身につけていくことを目的としている。校内研修の在り方や留意点を確認した上で、実際に教育現場の校内研修に参観・参加し、授業改善や生徒指導等現実的な課題の校内研修等について、PBL（問題解決型学習）による実践的な演習を通して、企画・立案・実践力を身につける。</p>	共同

共通科目	学校改善と校内研修に関する領域	教育測定（評価）と校内研修	<p>授業のテーマ及び到達目標： 学校で行われている教育に関わる「測定」と「評価」の結果について、その効果的な活用方法と問題点を把握し、問題の解決を図るためには様々な手法があることを理解するとともに、「測定」と「評価」の結果を適切に分析し、校内研修を通して効果的に活用する方法を身に付けることを目標としている。</p> <p>授業の概要： 教育測定と評価の関係、学習評価の内容と方法、教育関係機関で用いられている各種調査結果の活用にかかわる現状と課題について、事例の収集を行いその内容を分析するとともに演習とグループディスカッションを通して理解を深める。また、演習等で得られた知識を、今後の「測定」と「評価」の結果の活用方法や具体的な校内研修の進め方について考え、具体的な実践方法について検討する。</p>	共同	
	専門科目	コース別科目	教育政策の実施と評価	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・地方分権、規制緩和による教育改革の展開と特徴について理解している。 ・地方における教育改革のテーマと特質について理解している。 ・教育改革を推進する教育政策の動向と学校の自主性／自律性の関係について理解している。</p> <p>授業の概要： 分権改革以降の教育政策の現状と今後の課題を考察し、理解を深める。とりわけ少人数学級施策、小中一貫教育、学校と地域の連携・協力、人権教育といった地方における教育改革の具体的な事例を取り上げながら、PBL（問題解決型学習）を用いて協議し、検討する。これらを通して、教育政策という制度的環境と学校の自主的・自律的マネジメントの関係について議論を深める。</p>	共同
			教育行財政と法規	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・戦後日本の教育行政の基本原則・構造とそれを支える教育法規の構成について説明できる。 ・教育財政、学校予算の特徴と現代的課題について理解している。 ・学校が遵守すべき法令と今日の諸問題の在り方の関係について理解している。</p> <p>授業の概要： 教育行政と教育財政の基本原則および仕組みを確認するとともに、これらの運用を含めたスクール・コンプライアンスの在り方について理解を深める。これらについて、PBL（問題解決型学習）を用いて、事例分析を行っていく。教育行財政に関する理解を深め、法令遵守を確かなものとしながら、積極的な学校運営の在り方とその実現に向けたミドルリーダーとしての役割について考えていく。</p>	共同
スクール・リーダーシップとその実践			<p>授業のテーマ及び到達目標： ・リーダーシップの特性について理解できている。 ・リーダーシップを実践し、学校組織の内外における関係づくりを展開できる。</p> <p>授業の概要： 校長のリーダーシップの在り方について考えながら、演習では事例分析を通して意思決定の状況や判断の在り方について討議する。またPBL（問題解決型学習）をもって具体的に教職員、子ども、保護者、地域、行政などとの関係について議論する。受講者自身が今後の身に付けるべきリーダーとしての行動力について考えていく。</p>	共同	

専 門 科 目	コ ー ス 別 科 目	学校危機管理論と実践演習	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・危機管理（リスク・マネジメント）の考え方について理解している。 ・学校における様々な危機の特性に応じた対応策について検討できる。 ・学校危機管理マニュアルの役割を確認し、改善に向けた見直しを図ることができる。</p> <p>授業の概要： 危機管理（リスク・マネジメント）の基本的な考え方を踏まえて、児童生徒の安全・安心を確保する学校危機管理の在り方について検討する。学校において発生している具体的な危機事例のケース分析をもとに、学校安全をめぐる安全管理と安全教育の在り方について理解する。以上を踏まえ、法令・答申・マニュアル類を確認し、PBL（問題解決型学習）によって具体的な学校危機管理マニュアルの改善を図る。</p>	共同
		学校における評価マネジメント実践演習	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・学校評価を計画、実践できる。 ・教員評価を計画、実践できる。 ・学校における評価機能をトータルにとらえ、マネジメントできる。</p> <p>授業の概要： 学校における評価マネジメントは、内部的には学校の改善に資する機能であり、外部にはアカウンタビリティを果たす上で重要である。これらの機能するPDCAサイクルが求められる。すなわち学校の「特色づくり」と改善を進め、また学校評議員等による外部との関係構築等である。教員評価も合わせ、講義とPBL（問題解決型学習）を用いた演習によって実践的課題を習得する。</p>	共同
		学校運営課題研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・「課題発見実習」を通して、教育活動を支えるマネジメントについて、自身の研究課題を明確にすることができる。 ・文献・資料等を調査し、自身の研究課題に関わる研究や実践の動向について理解することができる。 ・課題解決のために取り組む学校運営について検討し、「学校運営開発実習Ⅰ」の計画を立てることができる。</p> <p>授業の概要： 学校における実習科目等と連携を図り、学校運営に問題を明確化し、課題解決のために主体的に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる。1年次前期に附属学校園で実施する「課題発見実習」で他コースとともに教育実践に対する考察を深め、さらに附属校園の校長や教頭、研究主任等から説明を受けた内容をさらに検討、協議し、各自の研究課題を明確化し、「学校運営開発実習Ⅰ」での課題設定につなげていく。</p>	共同
		学校運営課題研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・課題解決のための学校運営について検討し、「学校運営開発実習Ⅰ」の計画を立てることができる。 ・実習で取り組んだ実践を、観察記録その他の具体的資料等に基づいて、成果と課題をまとめることができる。 ・成果と課題を踏まえて次年度に実施する「学校運営開発実習Ⅱ」の計画を具体化することができる。</p> <p>授業の概要： 実習科目等と連携を図り、学校運営に関する問題を明確化し、課題解決のために主体的に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる。「学校運営開発実習Ⅰ」は、次年度に取り組む実習のための自校（現任校）分析を主な内容としているが、その分析の視点や方法について協議し、先行研究や事例の調査・収集を行う。これらを通して、次年度の「学校運営開発実習Ⅱ」におけるテーマの目的と手段を焦点化していく。</p>	共同

専 門 科 目	コ ー ス 別 科 目	学校運営課題研究Ⅲ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・課題解決のための学校運営改善案について検討し、「学校運営開発実習Ⅱ」の計画を立てることができる。 ・実習で取り組んだ実践を、観察記録その他の具体的資料等に基づいて実施状況や課題等をまとめることができる。 ・成果と課題を踏まえて、実践の改善点を検討し、改善に向けて主体的に取り組むことができる。</p> <p>授業の概要： 実習科目等と連携を図り、学校運営に問題を明確化し、課題解決のために主体的に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる。本授業は「学校運営開発実習Ⅱ」（前半期）と密接に結びつき、現場における必要な改善や修正、すなわちC（チェック）、A（アクション）のサイクルを支えるため、指導教員と相談・協議したり、必要な資料収集やその分析・検討を行うなど、実習を効果的に進行させるための手立てを講じる。</p>	共同
		学校運営課題研究Ⅳ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・実習で取り組んだ実践を、観察記録その他の実践資料等に基づいて実施状況や課題等をまとめることができる。 ・課題解決のために取り組んだ学校運営の改善に関する企画・立案・実践とその他の成果・課題について研究の全体をまとめ、報告するとともに、今後の自身の課題を明らかにすることができる。</p> <p>授業の概要： 実習科目等と連携を図り、学校運営に問題を明確化し、課題解決のために主体的に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる。本授業は「学校運営開発実習Ⅱ」（後半期）と密接に結びつき、実習成果やマネジメントに関する観察、計画書、実践の記録などを総合し、今後の課題について全体をまとめていく。また研究発表・協議を通して、他の院生の学校マネジメントのテーマについても相互理解を深める。</p>	共同
		学校運営実践研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・実践研究の成果・課題を整理し、発表することができる。 ・実践研究の成果を地域や学校に還元するための成果発表の企画・準備・運営に、主体的・協働的に取り組むことができる。 ・これらの活動を通して1年間の実践研究を振り返り、成果と今後の課題を明確化することができる。</p> <p>授業の概要： 「学校運営実践研究」は、実習等の研究成果の発表と交流を行い、実践の課題や改善点を把握するとともに、発表会等の企画・運営等を通して主体的・協働的に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。本講義では、1年間の研究成果と課題を実践報告として発表するとともに、成果発表の企画・運営等を行う。</p>	共同
		学校運営実践研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・実践研究の成果・課題を整理し、発表することができる。 ・実践研究の成果を地域や学校に還元するための成果発表の企画・準備・運営に、主体的・協働的に取り組むことができる。 ・これらの活動を通して2年間の実践研究を振り返り、成果と今後の課題を明確化することができる。</p> <p>授業の概要： 「学校運営実践研究」は、実習等の研究成果の発表と交流を行い、実践の課題や改善点を把握するとともに、発表会等の企画・運営等を通して主体的・協働的に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。本講義では、2年間の研究成果と課題を実践報告として発表するとともに、成果発表の企画・運営等を行う。</p>	共同

専 門 科 目	コ ー ス 別 科 目	教材研究と授業設計	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①各教科・領域等の教材研究の方法を概観し、基本的な指導方法を理解することができる。 ②教科の特性や児童生徒の実態を踏まえた実践的な授業設計を行なうことができる。 ③作成した単元計画・学習指導案から、より実践的で効果的な指導方法の改善について考察することができる。</p> <p>授業の概要： 今日の学習指導の課題に対応しながら、授業をどのように構想・設計するかについてPBL（問題解決型学習）の手法を用いた演習を通して学ぶ。今日の児童生徒の学力・学習の状況や授業実践上の課題、カリキュラムおよび授業設計に必要な基本的な要件・過程について理解する。それらをふまえて、児童・生徒の思考を深め、学び合う授業づくりの視点を生かした授業設計の方法について、教材研究、単元計画、学習指導案の作成と相互検討による改善等の活動を通して実践的に学ぶ。</p>	共同
		人間形成の現代的課題と学習指導	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①授業を考える際に現代社会の状況を踏まえることができるようになる。 ②現代社会が子どもたち（幼児・児童・生徒、以下同じ）にどのような影響を与えているのかを理解できるようになる。 ③不登校やいじめの根底にある同調や風景化といった事態を理解できるようになる。 ④同調や風景化に対応できる教育方法を身につける。 ⑤現代の子どもたちを前提に、人間形成に寄与できる授業実践を計画できるようになる。</p> <p>授業の概要： 現代社会が子どもたちの人間形成にどのような影響を与えているのか、不登校やいじめといった具体的な問題を取り上げて論じながら、明らかにする。諸課題の裏側には同調や風景化といった事態が存在していることを明らかにする。さらにそのような状況のなかでどのような授業を展開していったらいいのか、授業を中心に、道徳や学級経営をも視野に入れてPBL（問題解決型学習）の手法を用いて学ぶ。</p>	共同
		授業研究による授業改善	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①実践の省察を通して、児童生徒（幼児を含む、以下同じ）の学びを多面的にとらえるとともに、自身の指導上の課題や子ども（幼児・児童・生徒）の学びを促す授業の展開や教師の指導のあり方について理解することができる。 ②考察された課題を踏まえて、授業改善を図る単元計画・学習指導案の作成を行うことができる。</p> <p>授業の概要： 実践にもとづくPBL（問題解決型学習）の手法を用いた演習を通して、授業研究による授業改善の実際について学ぶ。授業の観察・記録、授業逐語記録の作成とそれに基づく省察を行い、児童生徒の学び、指導上の課題・改善点等について検討する。また、単元計画や授業構想の基本的事項を踏まえて、学習指導案の改善を行い、授業の省察を通して児童生徒の学びの実際や指導上の課題をとらえ授業改善につなげる実践的力量を育てる。</p>	共同

専門科目	コース別科目	教育方法開発課題研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>①「課題発見実習」を通して、児童生徒（幼児を含む）の学習の状況や学習意欲、授業者の指導方法の工夫や課題等に関わって学んだことを踏まえ、自身の研究課題を明確にすることができる。</p> <p>②文献・資料等を調査し、自身の研究課題に関わる研究や実践の動向について理解することができる。</p> <p>③「課題発見実習」における授業の実践と省察に基づいて、「教育方法開発実習Ⅰ」の取り組みについて具体化することができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>「教育方法開発課題研究」は、実習科目等と連携を図り、学校の教育実践・授業実践に関わる課題を把握し、具体的な教育方法や授業の開発を通して、主体的に課題解決に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。本講義では1年前期「課題発見実習」の省察に基づいて研究課題を明確にし、関連する研究・実践の動向を検討するとともに、1年後期「教育方法開発実習Ⅰ」の取り組みについて具体化を図る。</p>	共同
		教育方法開発課題研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>①研究課題に基づいて、実習で取り組む教育方法・授業開発について検討し、「教育方法開発実習Ⅰ」の計画を立てることができる。</p> <p>②実習で取り組んだ実践を、観察記録・授業記録・その他の実践資料等に基づいて省察し、成果と課題をまとめることができる。</p> <p>③成果と課題を踏まえて次年度に実施する「教育方法開発実習Ⅱ」の取り組みについて具体化することができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>「教育方法開発課題研究」は、実習科目等と連携を図り、学校の教育実践・授業実践に関わる課題を把握し、具体的な教育方法や授業の開発を通して、主体的に課題解決に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。本講義では「教育方法開発実習Ⅰ」で取り組む教育方法・授業開発の計画、実施した実践の省察を行い、成果と課題を明らかにするとともに、次年度の研究内容・方法等の改善につなげる。</p>	共同
		教育方法開発課題研究Ⅲ	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <p>①課題解決のために取り組む教育方法・授業開発について検討し、「教育方法開発実習Ⅱ」の計画を立てることができる。</p> <p>②実習で取り組んだ実践を、観察記録・授業記録・その他の実践資料等に基づいて省察し、成果や課題等を考察することができる。</p> <p>③成果と課題を踏まえて、実践の改善点を検討し、改善に向けて主体的に取り組むことができる。</p> <p>授業の概要：</p> <p>「教育方法開発課題研究」は、実習科目等と連携を図り、学校の教育実践・授業実践に関わる課題を把握し、具体的な教育方法や授業の開発を通して、課題解決のために主体的に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。本講義では、「教育方法開発実習Ⅱ」の計画の立案・準備を行う。実習経過においては、実施した実践の省察や協議を行い、成果・課題について把握するとともに実践の改善を図る。</p>	共同

専 門 科 目	コ ー ス 別 科 目	教育方法開発課題研究Ⅳ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①観察記録・授業記録・その他の実践資料等に基づく省察を通して、実践の改善を図るとともに、成果や課題等をまとめることができる。 ②課題解決のために取り組んだ教育方法・授業開発とその成果・課題について研究の全体をまとめ、報告するとともに、今後の自身の課題を明らかにすることができる。</p> <p>授業の概要： 「教育方法開発課題研究」は、実習科目等と連携を図り、学校の教育実践・授業実践に関わる課題を把握し、具体的な教育方法や授業の開発を通して、課題解決のために主体的に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。本講義では、「教育方法開発実習Ⅱ」で実施した実践について、授業記録・資料等に基づく省察を行ない、課題解決のために計画・実施した教育方法・授業開発の成果と課題をまとめる。</p>	共同
		教育方法開発実践研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①実践研究の成果・課題を整理し、発表することができる。 ②実践研究の成果を地域や学校に還元するための企画・準備・運営に、主体的・協働的に取り組むことができる。 ③これらの活動を通して1年間の実践研究を振り返り、成果と今後の課題を明確化することができる。</p> <p>授業の概要： 「教育方法開発実践研究」は、実習等の研究成果の発表と交流を行い、実践の課題や改善点を把握するとともに、発表会等の企画・運営等を通して主体的・協働的に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。本講義では、1年間の研究の成果と課題を実践報告として発表するとともに、成果発表の企画・運営等を行う。</p>	共同
		教育方法開発実践研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①実践研究の成果・課題を整理し、発表することができる。 ②実践研究の成果を地域や学校に還元するための企画・準備・運営に、主体的・協働的に取り組むことができる。 ③これらの活動を通して2年間の実践研究を振り返り、成果と今後の課題を明確化することができる。</p> <p>授業の概要： 「教育方法開発実践研究」は、実習等の研究成果の発表と交流を行い、実践の課題や改善点を把握するとともに、発表会等の企画・運営等を通して主体的・協働的に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。本講義では、2年間の研究の成果と課題を実践報告として発表するとともに、成果発表の企画・運営等を行う。</p>	共同
		学校不適応問題への理解と対応	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①事例検討の意義を理解し、現実的応用ができるようになる。 ②教育臨床的問題の所在がわかり、対処方法（カウンセリングやコンサルテーション）が構想できる。 ③心理検査（たとえばTATの技法）および介入方法が使えるようになるとともに、その限界についてわかる。</p> <p>授業の概要： 学校における教育臨床的問題、とりわけ、不登校、いじめ、発達障害、精神障害に関する深い理解と介入方法についてPBL（問題解決型学習）の手法を用いて学ぶ。心理検査に関しては、TAT法を中心に子ども理解の方法を、介入方法については、カウンセリングとコンサルテーションを中心に学ぶ。授業方法としては、事例研究や実習的方法により、実践的な対応力を身につけられるようにする。</p>	共同

専 門 科 目	コ ー ス 別 科 目	学級経営と個別指導の実践	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①学級経営の理論と方法を理解できる。 ②特別なニーズをもつ子ども（幼児・児童・生徒、以下同じ）を理解し学級経営の中で支援する方法を学ぶ。 ③特別なニーズをもつ子どもの個別指導計画を立案できる。</p> <p>授業の概要： 意欲を高める学級づくりの理論と方法を理解し、児童生徒（幼児を含む、以下同じ）の観察や受講者のこれまでの個別指導の経験など実践的な関わりを手掛かりにして、児童生徒を支援するための具体的な学級経営の在り方や個別指導計画の立て方について、PBL（問題解決型学習）の手法を用いて理解する。</p>	共同
		学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①ソーシャルスキルの理論的側面および実践法について理解する。 ②ソーシャルスキルの測定（スクリーニングとアセスメント）について理解する。 ③ソーシャルスキル教育を通じた学級集団づくりについて理解する。</p> <p>授業の概要： 言いたいことが言えない、相手を傷つけるような衝動的な言動をとってしまうなど、友人関係に関するトラブルが学校内で多く見られる。そのため、学校にソーシャルスキル教育を取り入れる必要がある。授業では、ソーシャルスキルの理論的側面を理解するとともに、その実践方法について事例を取り上げながら具体的に学ぶ。それらを通して学級集団づくりについても考える。授業はPBL（問題解決型学習）の手法を用いて行う。</p>	共同
		児童生徒支援課題研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①「課題発見実習」を通して、児童生徒（幼児を含む）の学習面・対人関係面等の課題を見出し、取り組むべき自らの課題として言語化することができる。 ②文献や資料等を調査し、自身の研究課題にかかわる研究や実践動向について理解することができる。</p> <p>授業の概要： 「児童生徒支援課題研究」は、実習科目等と連携を図り、学校の生徒指導にかかわる課題（教育相談、特別支援教育を含む）を把握し、学級経営や教育カウンセリングなどを通して、それらの課題に対応できる力を養成する、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。課題研究Ⅰでは附属学校園において自らの課題を発見することを目的とする。</p>	共同
		児童生徒支援課題研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①学校不適応の児童生徒とのかかわり、そのデータを収集することができる。 ②得られたデータを整理、分析する方法を理解できる。 ③データを分析し、子ども（幼児・児童・生徒、以下同じ）の心理を見立てることができる。</p> <p>授業の概要： 児童生徒支援課題研究は、実習等と連携を図り、学校の生徒指導に関わる問題（教育相談、特別支援教育を含む）を把握し、学級経営などを通して、それらの課題に対応できる力を養成する、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。課題研究Ⅱでは、適応指導教室での実習によって、データ収集法、分析法、見立てる力を培う。</p>	共同
		児童生徒支援課題研究Ⅲ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①学級における児童生徒の課題を見いだすことができる。 ②児童生徒の課題に対する手立てを計画、実行できる。 ③実践を省察し評価できる。</p> <p>授業の概要： 児童生徒支援課題研究は、実習科目等と連携を図り、学校の生徒指導に関わる問題（教育相談、特別支援教育を含む）を把握し、学級経営や教育カウンセリングなどを通して、それらの課題に対応できる力を養成する、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。課題研究Ⅲは、連携協力校または現任教で実施する「学校適応アセスメント実習」と連動した科目である。</p>	共同

専 門 科 目	コ ー ス 別 科 目	児童生徒支援課題研究Ⅳ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①学校適応アセスメント実習で取り組んだ支援の経過を分析し、その改善を図ることができる。 ②課題解決のために取り組んできた支援についての全体をまとめ報告するとともに、今後の課題を明らかにすることができる。</p> <p>授業の概要： 児童生徒支援課題研究は、実習科目等と連携を図り、学校の生徒指導に関わる問題（教育相談、特別支援教育を含む）を把握し、学級経営や教育カウンセリングなどを通して、それらの課題に対応できる力を養成する、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。課題研究Ⅳは、連携協力校または現任校で実施する「学校適応支援実習」と連動した科目である。</p>	共同
		児童生徒支援実践研究Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①実践研究の成果・課題を整理し、発表することができる。 ②実践研究の成果を地域や学校に還元するための企画・準備・運営に主体的・協働的に取り組むことができる。 ③これらの活動を通して1年間の実践研究を振り返り、成果と今後の課題を明確化することができる。</p> <p>授業の概要： 児童生徒支援実践研究は、実習等の研究成果の発表と交流を行い、実践の課題や改善点を把握するとともに、発表会等の企画・運営等を通して主体的・協働的に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。本講義では、1年間の研究の成果と課題を実践報告として発表するとともに、成果発表の企画・運営等を行う。</p>	共同
		児童生徒支援実践研究Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①実践研究の成果・課題を整理し、発表することができる。 ②実践研究の成果を地域や学校に還元するための企画・準備・運営に主体的・協働的に取り組むことができる。 ③これらの活動を通して1年間の実践研究を振り返り、成果と今後の課題を明確化することができる。</p> <p>授業の概要： 「児童生徒支援実践研究」は、実習等の研究成果の発表と交流を行い、実践の課題や改善点を把握するとともに、発表会等の企画・運営等を通して主体的・協働的に取り組む力の育成を図る、PBL（問題解決型学習）を用いる科目である。本講義では、2年間の研究の成果と課題を実践報告として発表するとともに、成果発表の企画・運営等を行う。</p>	共同
		国語科内容総合研究	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・国語科の内容と学習目標に関する理解を深め、国語科諸領域の教材を分析・解釈することができる。 ・演習を通して、題材を多角的に考察し、学習への課題を抽出することができる。 ・国語科の総合的な理解を通して、教材化や授業実践につなげることができる。</p> <p>授業の概要： 国語科の各領域内容と関連素材の解釈を行い、多様な題材を理解する。文章や教材を多角的に考察し、授業内容や教材についての課題を抽出する。授業やカリキュラムの検討と合わせ、国語科の諸領域の内容と教材のあり方についての発表、討論を行う。</p>	<p>共同</p> <p>演習 20 時間 講義 10 時間</p>

専 門 科 目	コ ー ス 別 科 目	国語科科目研究 (国語学・書写書道)	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語学的観点から文章教材や古典の俳句や和歌をより深く分析でき、書写指導の観点から教材選択や教材分析ができる。 ・ディスカッションや演習を通じて、国語学や書写書道と教育における課題を多角的に考察することができる。 ・専門性に基づいた理解を通して、新たな教材の提案や、教育課題をふまえた授業実践、授業設計につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>国語学的観点から、文章の構造を重層的に把握して、教材をより深く分析する。また、意味論や語法研究の成果を活かしながら、古典の俳句や和歌を解釈する。かつ書写学習の課題をふまえ、教材開発とその活用を検討し、授業設計を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (27 齋木久美・28 昌子佳広/8回) (共同) 書字指導や言語文化と教材化について扱う。 (29 川嶋秀之・27 齋木久美・28 昌子佳広/7回) (共同) 文章表現・文法論・文字文化と教材化について扱う。</p>	<p>共同・オムニバス</p> <p>演習 20 時間 講義 10 時間</p>
		国語科科目研究 (国文学・漢文学)	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国文学 (古典文学・近代文学)、漢文学への理解を深め、文学的な解釈をするのに必要な知識や読み方を身に付けることができる。 ・ディスカッションや演習を通じて、文学教材と教育における課題を多角的に考察することができる。 ・専門性に基づいた理解を通して、新たな教材の提案や教育課程をふまえた授業実践、授業設計につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>国文学 (古典文学・近代文学)、漢文学を読み、文学の多様な題材を理解する。ディスカッションや演習によって、題材を多角的に考察し、教育における課題を抽出する。課題をふまえた新たな教材、授業での活用方法を検討し、授業設計を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (64 宮崎尚子・22 鈴木一史/8回) (共同) 近代文学の文章の解釈と教材化について扱う。 (96 増子和男・64 宮崎尚子・22 鈴木一史/7回) (共同) 漢文学の文章の分析と教材化について扱う。</p>	<p>共同・オムニバス</p> <p>演習 20 時間 講義 10 時間</p>
		国語科総合演習 I	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科に関連する大学院各科目の教育内容と自ら取り組む研究内容との関係について、演習等を通じて理解を深めることができる。 ・各教科、各内容の指導で活用されている題材の価値や指導内容について理解を深めるとともに、新たな知見を踏まえ、教材として活用する上での課題を抽出し解決を目指すことができる。 ・教材として開発を目指す内容について、フィールドワーク、グループワーク、ディスカッションなどを通じて多角的に考察し、実践上の課題を踏まえて教材化や授業実践につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>共通科目、専門科目、実習科目の学びを踏まえ、課題探索演習で設定した課題に対して、解決に必要な資料等の分析・調査を行う。随時、専門実習との関連を指導教員と確認し、課題解決に向けた研究・調査を行う。また、協働で実践研究を進めるためにプレゼンテーションとディスカッションを実施する。</p>	<p>共同</p>

専門科目	コース別科目	国語科総合演習Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材として開発した内容について授業実践を踏まえて考察するとともに、活用する上での課題を抽出・整理し解決を図る技能を身に付けることができる。 ・「総合演習Ⅰ」をふまえた課題研究を内容研究に深化させることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>開発した教材の課題を明確化する。教育実践との連関を意識した課題整理を行い、該当する資料等の分析・調査を継続して行い、内容についての理解を深める。実践研究報告会や実践研究論文等の作成に向けて研究をまとめる。</p>	共同
		社会科内容総合研究	<p>授業のテーマ到達及び目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科の内容と関連資料への理解を深め、適切に分析する技能を身に付けることができる。 ・演習を通して、題材を多角的に考察し、学習への課題を抽出することができる。 ・社会科の総合的な理解を通して、教材化や授業実践につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>社会科の各科目内容と関連素材の分析を行い、多様な題材を理解する。題材を多角的に考察し、授業内容や教材についての課題を抽出する。授業やカリキュラムの検討と合わせ、社会科の各科目の内容と教材のあり方についての発表、討論を行う。</p>	共同
		社会科科目研究（歴史）	<p>授業のテーマ到達及び目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の内容と多様な史資料への理解を深め、史資料を分析する技能を身に付けることができる。 ・フィールドワークやディスカッションを通じて、歴史の題材と教育における課題を多角的に考察することができる。 ・専門性に基づいた理解を通して、新たな教材の提案や、教育課題をふまえた授業実践、授業設計につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>歴史の内容および特質を示す史資料等を読解、分析し、歴史の多様な題材を理解する。フィールドワークやディスカッションを通じて、題材を多角的に考察し、教育における課題を抽出する。課題をふまえた新たな教材、授業での活用方法を検討し、授業設計を行う。</p>	共同
		社会科科目研究（地理）	<p>授業のテーマ到達及び目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理の内容と地理分析に必要な多様な資料への理解を深め、各資料を分析する技能を身に付けることができる。 ・フィールドワークやディスカッションを通じて、地理の題材と教育における課題を多角的に考察することができる。 ・専門性に基づいた理解を通して、新たな教材の提案や、教育課題をふまえた授業実践、授業設計につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>地理の内容および特質を示す資料等を分析し、地理の多様な題材を理解する。フィールドワークやディスカッションによって、題材を多角的に考察し、教育における課題を抽出する。課題をふまえた新たな教材、授業での活用方法を検討し、授業設計を行う。</p>	共同
		社会科科目研究（社会と人間）	<p>授業のテーマ到達及び目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民の科目内容と分析に必要な素材への理解を深め、各素材を分析する技能を身に付けることができる。 ・グループワークやディスカッションを通じて、現代社会と人間をとりまく諸課題について多角的に考察することができる。 ・専門性に基づいた理解を通じて、現代社会と人間をとりまく諸課題を学校教育における課題解決学習につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>公民の科目内容および各素材を読解、分析し、科目における多様な題材を理解する。グループワークやディスカッションを通じて、現代社会と人間をとりまく諸課題を抽出し、教育における課題解決学習につなげる方法を検討する。</p>	共同

専門科目	コース別科目	社会科科目研究（法律と政治）	<p>授業のテーマ到達及び目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法律や政治に関わる内容と素材への理解を深め、各素材を探究するための技能を身に付けることができる。 ・フィールドワーク、グループワーク、ディスカッションを通じて、科目の題材と教育における課題を多角的に考察することができる。 ・専門性に基ついた理解を通じて、新たな教材の提案や、教育課題をふまえた授業実践、授業設計につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>公共機関等におけるフィールドワーク、グループワーク、ディスカッションを通じて、題材を多角的に考察し、教育における課題を抽出する。課題をふまえた新たな教材の提案、授業での活用方法を検討し、授業設計を行う。</p>	共同
		社会科総合演習ⅠA	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科に関連する大学院各科目の教育内容と自ら取り組む研究内容との関係について、演習等を通じて理解を深めることができる。 ・各教科、各内容の指導で活用されている題材の価値や指導内容について理解を深めるとともに、新たな知見を踏まえ、教材として活用する上での課題を抽出し解決を目指すことができる。 ・教材として開発を目指す内容について、フィールドワーク、グループワーク、ディスカッションなどを通じて多角的に考察し、実践上の課題を踏まえて教材化や授業実践につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>共通科目、専門科目、実習科目の学びを踏まえ、課題探索演習で設定した課題に対して、解決に必要な資料等の分析・調査を行う。随時、専門実習との関連を指導教員と確認し、課題解決に向けた研究・調査を行う。また、協働で実践研究を進めるためにプレゼンテーションとディスカッションを実施する。</p>	共同
		社会科総合演習ⅠB	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科に関連する大学院各科目の教育内容と自ら取り組む研究内容との関係について、演習等を通じて理解を深めることができる。 ・各教科、各内容の指導で活用されている題材の価値や指導内容について理解を深めるとともに、新たな知見を踏まえ、教材として活用する上での課題を抽出し解決を目指すことができる。 ・教材として開発を目指す内容について、フィールドワーク、グループワーク、ディスカッションなどを通じて多角的に考察し、実践上の課題を踏まえて教材化や授業実践につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>共通科目、専門科目、実習科目の学びを踏まえ、課題探索演習で設定した課題に対して、解決に必要な資料等の分析・調査を行う。随時、専門実習との関連を指導教員と確認し、課題解決に向けた研究・調査を行う。また、協働で実践研究を進めるためにプレゼンテーションとディスカッションを実施する。</p>	共同
		社会科総合演習ⅡA	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材として開発した内容について授業実践を踏まえて考察するとともに、活用する上での課題を抽出・整理し解決を図る技能を身に付けることができる。 ・「総合演習Ⅰ」をふまえた課題研究を内容研究に深化させることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>開発した教材の課題を明確化する。教育実践との連関を意識した課題整理を行い、該当する資料等の分析・調査を継続して行い、内容についての理解を深める。実践研究報告会や実践研究論文等の作成に向けて研究をまとめる。</p>	共同

専門科目	コース別科目	社会科総合演習ⅡB	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・教材として開発した内容について授業実践を踏まえて考察するとともに、活用する上での課題を抽出・整理し解決を図る技能を身に付けることができる。 ・「総合演習Ⅰ」をふまえた課題研究を内容研究に深化させることができる。</p> <p>授業の概要： 開発した教材の課題を明確化する。教育実践との連関を意識した課題整理を行い、該当する資料等の分析・調査を継続して行い、内容についての理解を深める。実践研究報告会や実践研究論文等の作成に向けて研究をまとめる。</p>	共同
		算数科内容総合研究	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・算数科の内容と関連する専門分野への理解を深め、適切に分析する技能を身につけることができる。 ・講義や演習を通して、各領域を多角的に考察し、学習への課題を抽出することができる。 ・算数科の総合的な理解を通して、教材化や授業実践につなげることができる。</p> <p>授業の概要： 算数科の各領域内容を専門分野の観点から多角的に考察し、授業内容や教材についての課題を抽出する。授業やカリキュラムの検討と合わせ、算数科の各単元の内容と教材のあり方についての発表、討論を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (69 吉井 豊・67 栗原 博之・26 荻原 文弘/5回)(共同) 「数と式」および「図形」の単元に関連した概念の指導を検討する。 (33 梅津 健一郎・68 松村 初・32 小口 祐一/5回)(共同) 「測定・変化と関係」および「データの活用」の単元に関連した概念の指導を検討する。 (69 吉井 豊・67 栗原 博之・26 荻原 文弘・33 梅津 健一郎・68 松村 初・32 小口 祐一/5回)(共同) 教材開発、プレゼンテーションおよびディスカッションに関する指導を検討する。</p>	<p>共同・オムニバス</p> <p>演習14時間 講義16時間</p>
		数学科科目研究（代数学・幾何学）	<p>授業のテーマ及び到達目標 ・数学の専門分野における理論を踏まえ、それに基づいた指導をする基本的技能を身に付けている。 ・輪読を通して、授業を論理的に展開できる能力を身に付けている。 ・研究テーマと専門分野の関係を理解し、それを授業設計や教材開発に応用することができる。</p> <p>授業の概要 ・数学の各専門分野の内容について理解を深める。 ・学校教育における数学で、「代数学」および「幾何学」に関連する領域を各専門分野の視点からそれぞれ考察する。 ・輪読を通して研究テーマと数学の専門分野の関係について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (69 吉井 豊・67 栗原 博之・26 荻原 文弘/3回)(共同) 教材開発や授業設計の方法に関する指導を検討する。 (69 吉井 豊/6回) 「代数学」に関連した概念の指導を検討する。 (67 栗原 博之/6回) 「幾何学」に関連した概念の指導を検討する。</p>	<p>共同（一部）・オムニバス</p> <p>演習28時間 講義 2時間</p>

専門科目	コース別科目	数学科科目研究（解析学・統計学）	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学の専門分野における理論を踏まえ、それに基づいた指導をする基本的技能を身に付けている。 ・輪読を通して、授業を論理的に展開できる能力を身に付けている。 ・研究テーマと専門分野の関係を理解し、それを授業設計や教材開発に応用することができる。 <p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学の各専門分野の内容について理解を深める。 ・学校教育における数学で、「解析学」および「統計学」に関連する領域を各専門分野の視点からそれぞれ考察する。 ・輪読を通して研究テーマと数学の専門分野の関係について理解を深める。 <p>(オムニバス方式/全15回) (33 梅津 健一郎・68 松村 初・32 小口 祐一/3回)(共同) 教材開発や授業設計の方法に関する指導を検討する。 (33 梅津 健一郎/6回) 「解析学」に関連した概念の指導を検討する。 (68 松村 初/6回) 「統計学」に関連した概念の指導を検討する。</p>	<p>共同（一部）・オムニバス</p> <p>演習28時間 講義 2時間</p>
		数学科総合演習 I	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学科に関連する大学院各科目の教育内容と自ら取り組む研究内容との関係について、演習等を通じて理解を深めることができる。 ・数学科の各内容の指導で活用されている題材の価値や指導内容について理解を深めるとともに、新たな知見を踏まえ、教材として活用する上での課題を抽出し解決を目指すことができる。 ・教材として開発を目指す内容について、フィールドワーク、グループワーク、ディスカッションなどを通じて多角的に考察し、実践上の課題を踏まえて教材化や授業実践につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>共通科目、専門科目、実習科目の学びを踏まえ、課題探索演習で設定した課題に対して、解決に必要な資料等の分析・調査を行う。随時、専門実習との関連を指導教員と確認し、課題解決に向けた研究・調査を行う。また、協働で実践研究を進めるためにプレゼンテーションとディスカッションを実施する。</p>	共同
		数学科総合演習 II	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材として開発した内容について授業実践を踏まえて考察するとともに、活用する上での課題を抽出・整理し解決を図る技能を身に付けることができる。 ・「数学科総合演習 I」をふまえた課題研究を内容研究に深化させることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>開発した教材の課題を明確化する。教育実践との連関を意識した課題整理を行い、該当する資料等の分析・調査を継続して行い、内容についての理解を深める。実践研究報告会や実践研究論文等の作成に向けて研究をまとめる。</p>	共同

専門科目	コース別科目	理科内容総合研究	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・理科教育研究の問題設定を理解し、理科教育学研究の分析を行うことができる。 ・理科教育の内容（エネルギー、粒子、生命、地球概念）を踏まえて、理科教授・学習の基礎、理科の授業と指導、理科教育の拡張について考察することができる。 アクティブラーニングとして、グループディスカッションなどを入れる。</p> <p>授業の概要： 理科教育研究の問題設定を理解し、理科教育学研究の分析を行い、理科教育の内容を踏まえて、理科授業・学習の基礎、理科の授業と指導、理科教育の拡張について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (73 永尾敬一・24 宮本直樹・71 郡司晴元/1回)(共同) エネルギー概念の指導を検討する。 (72 青島政之・24 宮本直樹・71 郡司晴元/1回)(共同) 粒子概念の指導を検討する。 (35 阿部信一郎・70 梶田孝晴・24 宮本直樹・71 郡司晴元/1回)(共同) 生命概念の指導を検討する。 (34 伊藤孝・74 上栗伸一・24 宮本直樹・71 郡司晴元/1回)(共同) 地球概念の指導を検討する。 (24 宮本直樹・71 郡司晴元/11回)(共同) 理科教育の内容を踏まえて、理科授業・理科教育を検討する。</p>	共同・オムニバス
		理科学科研究（エネルギー・粒子）	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・特殊相対性理論を学ぶ。特殊相対性原理やローレンツ変換などの概念を理解して説明できる。 ・気体・水溶液・燃焼・熱について系統的に理解し、粒子概念を用いて説明できる。 ・専門性に基づいた理解を通して、新たな教材の提案や、教育課題をふまえた授業実践、授業設計につなげることができる。</p> <p>授業の概要： 前半では、特殊相対性理論を学ぶ。その特徴的な性質を理解するとともに、新たな教材や授業での活用方法の検討も行う。 後半では、粒子分野の諸概念を俯瞰的に学ぶとともに、教材研究を通じた指導法について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (73 永尾敬一・71 郡司晴元/8回) (共同) 特殊相対性理論を学習し、授業での活用方法などの検討を行う。 (72 青島政之・24 宮本直樹/7回) (共同) 粒子分野の諸概念を学習し、教材研究を通じた指導法について考察する。</p>	共同・オムニバス

専 門 科 目	コ ー ス 別 科 目	理科科目研究 (生命・地球)	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生命・地球」を指導上必要な科学的情報を関連文献から収集できる。 ・「生命・地球」で指導上の難しさが指摘されている事項の指導法を考察できる。 ・地球上で見られる自然現象を多角的な視点から捉えた理科授業を設計できる。 <p>授業の概要：</p> <p>「生命・地球」で指導上の難しさが指摘されている事項を中心に教授・学習法の課題を見出し、生物学・地学を統合して自然現象を捉えた授業設計を検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (35 阿部信一郎・70 森田孝晴・34 伊藤孝・74 上栗伸一・24 宮本直樹/3回) (共同) 生物学・地学を統合して自然現象を捉える指導法を考える。 (34 伊藤孝・74 上栗伸一・24 宮本直樹/6回) (共同) 地学的な視点から地球上の自然現象を俯瞰し、指導上の難しさが指摘されている事項を中心に理解を深め、その指導法を考える。 (35 阿部信一郎・70 森田孝晴・24 宮本直樹/6回) (共同) 地球上に誕生した生命の多様性とその進化を踏まえ、指導上の難しさが指摘されている事項を中心に理解を深め、その指導法を考える。</p>	共同・オムニバス
		理科総合演習 I	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科教育に関連する大学院各科目の教育内容と自ら取り組む研究内容との関係について、演習等を通じて理解を深めることができる。 ・理科教育の各内容の指導で活用されている題材の価値や指導内容について理解を深めるとともに、新たな知見を踏まえ、教材として活用する上での課題を抽出し解決を目指すことができる。 ・理科教育教材として開発を目指す内容について、フィールドワーク、グループワーク、ディスカッションなどを通じて多角的に考察し、実践上の課題を踏まえて教材化や授業実践につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>共通科目、専門科目、実習科目の学びを踏まえ、課題探索演習で設定した課題に対して、解決に必要な資料等の分析・調査を行う。随時、専門実習との関連を指導教員と確認し、課題解決に向けた研究・調査を行う。また、協働で実践研究を進めるためにプレゼンテーションとディスカッションを実施する。</p>	共同
		理科総合演習 II	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科教育教材として開発した内容について授業実践を踏まえて考察するとともに、活用する上での課題を抽出・整理し解決を図る技能を身に付けることができる。 ・「総合演習 I」を踏まえた課題研究を内容研究に深化させることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>開発した理科教育教材の課題を明確化する。教育実践との連関を意識した課題整理を行い、該当する資料等の分析・調査を継続して行い、内容についての理解を深める。実践研究報告会や実践研究論文等の作成に向けて研究をまとめる。</p>	共同

専門科目	コース別科目	音楽科内容総合研究	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽科の内容の理解を深め、音楽を適切に分析、表現する知識・技能を身に付けることができる。 ・講義や演習を通して、題材を多角的に考察し、学習への課題を抽出することができる。 ・音楽科の総合的な理解を通して、教材化や授業実践につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>表現や鑑賞に関わる内容の考察を行い、音楽科の多様な題材を理解する。題材を多角的に考察し、授業内容や教材についての課題を抽出する。授業やカリキュラムの検討と合わせ、音楽科の内容と教材の扱い方についてのプレゼンテーション、ディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (37 谷川佳幸/2回) 「歌唱」の単元に関連した概念の指導を検討する。 (16 田中宏明/2回) 「器楽」の単元に関連した概念の指導を検討する。 (36 神部 智/2回) 「鑑賞」の単元に関連した概念の指導を検討する。 (76 山口哲人/2回) 「創作」の単元に関連した概念の指導を検討する。 (37 谷川佳幸・16 田中宏明・75 藤田文子・36 神部 智・76 山口哲人・91 門脇早穂子/7回)(共同) 教材開発、プレゼンテーションおよびディスカッションに関する指導を検討する。</p>	共同 (一部) ・オムニバス
		音楽科科目研究 (表現)	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の表現方法への理解を深め、楽譜を分析する技能を身に付けることができる。 ・演奏表現やディスカッションを通じて、音楽作品と教育における課題を多角的に考察することができる。 ・専門性に基づいた理解を通して、新たな教材の提案や、教育課題をふまえた授業実践、授業設計につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>音楽作品の内容および特質を示す楽譜・資料等を読解、分析し、音楽の多様な題材を理解する。演習やディスカッションを通じて、題材を多角的に考察し、教育における課題を抽出する。課題をふまえた新たな教材、授業での活用方法を検討し、授業設計を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (37 谷川佳幸・16 田中宏明・75 藤田文子/5回)(共同) 教材開発や授業設計の方法に関する指導を検討する。 (37 谷川佳幸/4回) 「声楽」に関連した概念の指導を検討する。 (16 田中宏明/3回) 「器楽」に関連した概念の指導を検討する。 (75 藤田文子/3回) 音楽の表現科目に関連した概念の指導を検討する。</p>	共同 (一部) ・オムニバス

専門科目	コース別科目	音楽科科目研究 (鑑賞)	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽への理解を深め、音楽作品を鑑賞する能力を身に付けることができる。 ・グループワークやディスカッションを通じて、音楽の鑑賞活動を理解し、教育における課題を多角的に考察することができる。 ・専門性に基づいた考察により、新たな教材の提案や、教育課題をふまえた授業実践、授業設計につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>音楽作品を分析し、音楽の多様な表現世界を理解する。グループワークやディスカッションを行い、音楽作品を多角的に考察しつつ、教育における鑑賞活動の課題を抽出する。課題をふまえた新たな教材、授業での活用方法を検討し、授業設計を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (36 神部 智・76 山口哲人・91 門脇早穂子/3回) (共同) 教材開発や授業設計の方法に関する指導を検討する。 (76 山口哲人/4回) 「創作」に関連した概念の指導を検討する。 (36 神部 智/4回) 「鑑賞」に関連した概念の指導を検討する。 (91 門脇早穂子/4回) 音楽教育の歴史から見る概念の指導を検討する。</p>	共同 (一部)・オムニバス
		音楽科総合演習 I	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽科に関連する大学院各科目の教育内容と自ら取り組む研究内容との関係について、演習等を通じて理解を深めることができる。 ・音楽科各内容の指導で活用されている題材や指導内容について理解を深めるとともに、新たな知見を踏まえ、教材として活用する上での課題を抽出し解決を目指すことができる。 ・教材として開発を目指す内容について、フィールドワーク、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて多角的に考察し、実践上の課題を踏まえて教材化や授業実践につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>P1における共通科目、コース間融合科目、コース間融合実習、コース間科目の学びを踏まえ、解決に必要な資料等の分析・調査を行う。随時、専門実習との関連を指導教員と確認し、課題解決に向けた研究・調査を行う。また、プレゼンテーションとディスカッションを実施する。</p>	共同
		音楽科総合演習 II	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材として開発した内容について授業実践を踏まえて考察するとともに、活用する上での課題を抽出・整理し解決を図る技能を身に付けることができる。 ・「音楽科総合演習 I」をふまえた課題研究を内容研究に深化させることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>開発した教材の課題を明確化する。教育実践との連関を意識した課題整理を行い、該当する資料等の分析・調査を継続して行い、内容についての理解を深める。実践研究報告会や実践研究論文等の作成に向けて研究をまとめる。</p>	共同

専門科目	コース別科目	図画工作科内容総合研究	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図画工作科の内容（絵・立体・工作・造形遊び・鑑賞）に関する知識・技能を身に付けることができる。 ・演習やディスカッションを通して、題材を多角的に考察し、学習への課題を抽出することができる。 ・図画工作科の総合かつ深い専門性の習得を通して、教材化や授業実践につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>表現や鑑賞に関わる内容の深い考察を行い、図画工作科の多様な題材を理解する。題材を多角的に考察し、授業内容や教材についての課題を抽出する。6年間の指導計画の検討と合わせ、図画工作科の題材と教材の扱い方についてのプレゼンテーション、ディスカッションを行う。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （38 島田裕之・41 齋藤芳徳・42 島剛・17 片口直樹・40 甲斐教行・92 小口あや/5回）（共同） 美術教育の視点から、授業の導入及び指導計画の作成、まとめを行う。</p> <p>（38 島田裕之・92 小口あや/2回）（共同） 平面表現の視点から、主に絵に関する内容を検討する。 （41 齋藤芳徳・92 小口あや/2回）（共同） 立体表現の視点から、主に立体に関する内容を検討する。 （42 島剛・92 小口あや/2回）（共同） 彫刻表現の視点から、主に工作に関する内容を検討する。 （17 片口直樹・92 小口あや/2回）（共同） 絵画表現の視点から、主に造形遊びに関する内容を検討する。 （40 甲斐教行・92 小口あや/2回）（共同） 美術史の視点から、主に鑑賞に関する内容を検討する。</p>	共同・オムニバス
		美術科科目研究（絵画・彫刻）	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術科における絵画分野、彫刻分野の表現・鑑賞方法への理解を深め、題材を適切に分析することができる。 ・演習やディスカッションを通じて、授業実践上の課題を多角的に考察することができる。 ・深い専門性に基づき、新たな教材の提案や、教育課題をふまえた授業実践、授業設計につなげることができる。 <p>授業の概要</p> <p>絵画・彫刻作品の制作および鑑賞を通して、美術の多様な題材を理解する。演習、ディスカッションを通じて、題材を多角的に考察し、教育における課題を抽出する。指導計画の検討と合わせ、美術科の題材と教材の扱い方についてのプレゼンテーション、ディスカッションを行う。</p> <p>（オムニバス方式/全15回） （42 島剛・17 片口直樹・40 甲斐教行・39 向野康江/5回）（共同） 美術教育の視点から、授業の導入及び指導計画の作成、まとめを行う。</p> <p>（42 島剛・39 向野康江/4回）（共同） 彫刻表現の視点から、主に彫刻分野に関する内容を検討する。 （17 片口直樹・39 向野康江/4回）（共同） 絵画表現の視点から、主に絵画分野に関する内容を検討する。 （40 甲斐教行・39 向野康江/2回）（共同） 美術史の視点から、主に絵画・彫刻分野の鑑賞に関する内容を検討する。</p>	共同・オムニバス

専門科目	コース別科目	美術科科目研究 (デザイン・工芸)	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・美術科におけるデザイン、工芸分野の表現・鑑賞方法への理解を深め、題材を適切に分析することができる。 ・演習やディスカッションを通じて、授業実践上の課題を多角的に考察することができる。 ・深い専門性に基づき、新たな教材の提案や、教育課題をふまえた授業実践、授業設計につなげることができる。</p> <p>授業の概要 デザイン・工芸作品の制作および鑑賞を通して、美術の多様な題材を理解する。演習やディスカッションを通じて、題材を多角的に考察し、教育における課題を抽出する。指導計画の検討と合わせ、美術科の題材と教材の扱い方についてのプレゼンテーション、ディスカッションを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (38 島田裕之・41 齋藤芳徳・40 甲斐教行・39 向野康江/5回) (共同) 美術教育の視点から、授業の導入及び指導計画の作成、まとめを行う。 (38 島田裕之・39 向野康江/4回) (共同) デザイン表現の視点から、主にデザイン分野に関する内容を検討する。 (41 齋藤芳徳・39 向野康江/4回) (共同) 工芸表現の視点から、主に工芸分野に関する内容を検討する。 (40 甲斐教行・39 向野康江/2回) (共同) 美術史の視点から、主にデザイン・工芸分野の鑑賞に関する内容を検討する。</p>	共同・オムニバス
		美術科総合演習 I	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・美術科に関連する大学院各科目の教育内容と自ら取り組む研究内容との関係について、演習等を通して理解を深めることができる。 ・美術科各内容の指導で活用されている題材の価値や指導内容について理解を深めるとともに、新たな知見と深い専門性を踏まえ、教材として活用する上での課題を抽出し解決を目指すことができる。 ・教材として開発を目指す内容について、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して多角的に考察し、実践上の課題を踏まえて教材化や授業実践につなげることができる。</p> <p>授業の概要： P1における共通科目、コース間融合科目、コース間融合実習、コース別科目の学びを踏まえ、抽出した研究課題の解決に必要な研究を行う。随時、専門実習との関連を指導教員と確認し、課題解決に向けて、専門性の深化を図る。また、プレゼンテーションとディスカッションを実施する。</p>	共同
		美術科総合演習 II	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・教材として開発した内容について授業実践を踏まえて考察するとともに、活用する上での課題を抽出・整理し解決を図る技能を身に付けることができる。 ・「美術科総合演習 I」をふまえた課題研究を内容研究に深化させることができる。</p> <p>授業の概要： 開発した教材の課題を明確化する。教育実践との連関を意識した課題整理を行い、関連する研究を継続して行い、内容についての理解を深める。随時、専門実習との関連を指導教員と確認し、課題解決に向けて、専門性の深化を図る。実践研究報告会や実践研究論文等の作成に向けて研究をまとめる。</p>	共同

専門科目	コース別科目	体育科内容総合研究	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・体育及び保健分野の現代的課題を踏まえた教材づくりを行うことができる。 ・講義や演習を通して、教材を多角的に考察し、学習課題（学習内容）を抽出することができる。 ・保健体育科の現代的な課題に対して作成した教材を授業実践につなげることができる。</p> <p>授業の概要： 保健体育科の現代的課題を知るとともに、それらを解決するための教材づくりを行うとともに、その指導法を身につける。また教材を多角的に考察し、具体的な学習課題を抽出する。授業やカリキュラムの検討しつつ、現代的な課題解決を志向する学習課題や教材についての発表、討論を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 吉野聡・87 大津展子/2回) (共同) 授業全体の導入とまとめ (6 吉野聡/1回) 保健体育科教育の現代的課題 (6 吉野聡・87 大津展子・79 篠田明音/2回) (共同) 教材開発(単元教材・下位教材)を担当。 (44 勝本真/2回) 球技の内容分析および教材開発を担当。 (78 中嶋哲也/2回) 武道の内容分析および教材開発を担当。 (77 渡邊将司/2回) 陸上競技の内容分析および教材開発を担当。 (43 富樫泰一/2回) 水泳の内容分析および教材開発を担当。 (45 上地勝/2回) 保健の内容分析および教材開発を担当。</p>	<p>共同(一部)・オムニバス</p> <p>演習28時間 講義2時間</p>
		保健体育科科目研究(保健・体育学)	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・保健体育に関する科学的知見を学ぶことで、受講生自身の教育経験を相対化し、保健体育科における教育課題を多角的に抽出することができる。 ・専門性に基づいた理解を通して、新たな教材の提案や、教育課題をふまえた授業実践、授業設計につなげることができる。</p> <p>授業の概要： 保健体育に関する科学的知見を学ぶ。その学びを通じて、保健体育科の教育課題を多角的に考察する。課題をふまえた新たな教材、授業での活用方法を検討し、授業設計を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 吉野聡・87 大津展子/2回) (共同) 授業の導入およびまとめ。 (6 吉野聡/1回) 保健体育科の教育課題について (45 上地勝・6 吉野聡・87 大津展子/6回) (共同) 学校保健の方法と課題。教材開発および授業設計。 (78 中嶋哲也・6 吉野聡・87 大津展子/6回) (共同) 体育史の方法と課題。教材開発および授業設計。</p>	<p>共同(一部)・オムニバス</p> <p>演習28時間 講義2時間</p>

専 門 科 目	コ ー ス 別 科 目	保健体育科科目研究 (運動学)	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・身体及び運動に関する科学的知見を通じて、保健体育の根幹であるヒトの動き及び生理上の発育発達を理解する方法を身につけることができる。 ・専門性に基づいた理解を通して、新たな教材の提案や、教育課題をふまえた授業実践、授業設計につなげることができる。</p> <p>授業の概要： 身体運動を分析する方法を学び、身体運動についての理解を深める。演習やディスカッションによって、運動の在り様を多角的に考察し、教育上の課題を抽出する。課題をふまえた新たな教材、授業での活用方法を検討し、授業設計を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 吉野聡・87 大津展子/1回) (共同) 授業の導入 (43 富樫泰一/4回) 運動学 (バイオメカニクス) の方法と課題について。 (44 勝本真/4回) スポーツコーチングの方法と課題について。 (77 渡邊将司/4回) 形態学および発育発達学の方法と課題について。 (79 篠田明音/1回) 運動学から提案する教材開発と授業設計について。 (6 吉野聡・87 大津展子・79 篠田明音/1回) (共同) プレゼンテーション/ディスカッション及びまとめ</p>	<p>共同 (一部)・オムニバス</p> <p>演習28時間 講義2時間</p>
		保健体育科総合演習 I	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・各教科に関連する大学院各科目の教育内容と自ら取り組む研究内容との関係について、演習等を通じて理解を深めることができる。 ・各教科、各内容の指導で活用されている題材の価値や指導内容について理解を深めるとともに、新たな知見を踏まえ、教材として活用する上での課題を抽出し解決を目指すことができる。 ・教材として開発を目指す内容について、フィールドワーク、グループワーク、ディスカッションなどを通じて多角的に考察し、実践上の課題を踏まえて教材化や授業実践につなげることができる。</p> <p>授業の概要： 共通科目、専門科目、実習科目の学びを踏まえ、課題探索演習で設定した課題に対して、解決に必要な資料等の分析・調査を行う。随時、専門実習との関連を指導教員と確認し、課題解決に向けた研究・調査を行う。また、協働で実践研究を進めるためにプレゼンテーションとディスカッションを実施する。</p>	共同
		保健体育科総合演習 II	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・教材として開発した内容について授業実践を踏まえて考察するとともに、活用する上での課題を抽出・整理し解決を図る技能を身につけることができる。 ・「総合演習 I」をふまえた課題研究を内容研究に深化させることができる。</p> <p>授業の概要： 開発した教材の課題を明確化する。教育実践との連関を意識した課題整理を行い、該当する資料等の分析・調査を継続して行い、内容についての理解を深める。実践研究報告会や実践研究論文等の作成に向けて研究をまとめる。</p>	共同

専 門 科 目	コ ー ス 別 科 目	技術科内容総合研究	<p>授業のテーマ及び到達目標： 技術・家庭科（技術分野）の学習を通して育成を目指す生徒像について理解を深めるとともに、その趣旨を踏まえて構成された各内容及び題材に求められている指導内容及び方法について多角的に考察し、理解を深めることを目標としている。</p> <p>授業の概要： 技術分野内容A～Dの指導に関わる事例、内容の取り扱い(6)ウに示されている「統合的な問題」に関わる事例の収集を行い、事例を構成している要素を分析し、学習指導要領及び解説に示されている内容との整合性を調査し、解決すべき課題を設定する。なお、「統合的な問題」については、実際に題材を作成・検討するなどの取組を行う中で解決すべき課題を設定する。また、課題の解決を図るために、各内容の題材のあり方についての発表、討論を行い、具体的な実践方法について検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (48 野崎英明・49 榊守・46 佐々木忠之・25 大西有・80 白坂高司・47 工藤雄司/3回) (共同) 技術分野で育成を目指す生徒像と題材の内容・構成について検討する。 (48 野崎英明・80 白坂高司/2回) (共同) 「材料と加工の技術」に関する題材の分析、内容について検討する。 (25 大西有/2回) 「生物育成の技術」に関する題材の分析、内容について検討する。 (49 榊守/2回) 「エネルギー変換の技術」に関する題材の分析、内容について検討する。 (47 工藤雄司/2回) 「情報の技術」に関する題材の分析、内容について検討する。 (47 工藤雄司・46 佐々木忠之/4回) (共同) 「統合的な問題」に関する題材の分析、内容について検討する。</p>	共同（一部）・オムニバス
		技術科科目研究（材料と加工・生物育成）	<p>授業のテーマ及び到達目標： 過去・現在における「材料と加工の技術」及び「生物育成の技術」の指導内容及び方法に関する様々な課題を多様な視点で分析・考察するとともに、考察結果を踏まえ、課題の解決を図る指導と評価の計画を作成する方法を身に付けることを目標としている。</p> <p>授業の概要： 演習とディスカッションを通して、授業実践上の課題を多面的に考察するとともに、「材料と加工の技術」及び「生物育成の技術」の内容、指導に関する様々な資料等を読解・分析し、これらの技術の指導に求められていることについて理解を深める。また、課題の解決を図る指導と評価の計画を作成する中で、題材や授業のねらいを踏まえた教材の選定、授業での活用方法についても考察し、技術分野の指導における教材の位置付け・意義について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (48 野崎英明・49 榊守・25 大西有・80 白坂高司/3回) (共同) 材料と加工の技術及び生物育成の技術の指導で用いる教材及び授業内容・構成について検討する。 (80 白坂高司/2回) 木質材料の教材化について検討する。 (48 野崎英明/2回) 木質材料以外の材料の教材化について検討する。 (48 野崎英明・80 白坂高司/2回) (共同) 「材料と加工の技術」に関する授業の分析、内容について検討する。 (25 大西有/4回) 作物、動物、水産生物の教材化について検討する。 (49 榊守・25 大西有/2回) (共同) 「生物育成の技術」に関する授業の分析、内容について検討する。</p>	共同（一部）・オムニバス

専門科目	コース別科目	技術科科目研究 (エネルギー変換・情報)	<p>授業のテーマ及び到達目標： 過去・現在における「エネルギー変換の技術」及び「情報の技術」の指導内容や方法に関する様々な課題を多様な視点で分析・考察するとともに、考察結果を踏まえ、課題の解決を図る指導と評価の計画を作成する方法を身に付けることを目標としている。</p> <p>授業の概要： 演習とディスカッションを通して、授業実践上の課題を多面的に考察するとともに、「エネルギー変換の技術」及び「情報の技術」の内容、指導に関する様々な資料等を読解・分析し、これらの技術の指導に求められていることについて理解を深める。また、課題の解決を図る指導と評価の計画を作成する中で、題材や授業のねらいを踏まえた教材の選定、授業での活用方法についても考察し、技術分野の指導における教材の位置付け・意義について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (49 榑守・47 工藤雄司・46 佐々木忠之/3回) (共同) エネルギー変換の技術及び情報の技術の指導で用いる教材及び授業内容・構成について検討する。 (49 榑守/2回) 電気回路を用いた機器の教材化について検討する。 (47 工藤雄司/2回) 機構を用いた機器の教材化について検討する。 (49 榑守・47 工藤雄司/2回) (共同) 「エネルギー変換の技術」に関する授業の分析、教材の活用、指導内容について検討する。 (47 工藤雄司/2回) 情報通信ネットワークを利用した双方向のあるコンテンツのプログラミングの教材化について検討する。 (46 佐々木忠之/2回) 計測・制御のプログラミングの教材化について検討する。 (47 工藤雄司・46 佐々木忠之/2回) (共同) 「情報の技術」に関する授業の分析、内容について検討する。</p>	共同 (一部)・オムニバス
		技術科総合演習 I	<p>授業のテーマ及び到達目標： 大学院各科目の教育内容や各教科、各内容の指導で活用されている題材(教材)の意義、それに基づいた指導内容と自ら取り組む研究内容や授業実践との関係について演習等を通じて理解を深めるとともに、自らの授業実践に向けて、実践上の課題や新たな知見を踏まえた題材の開発につなげることを目標としている。</p> <p>授業の概要： 授業実践上の課題についてフィールドワーク、グループワーク、教員とのディスカッションなどを通じて多角的に考察し、共通科目、専門科目、教材開発実習 I、教科領域実習 I の学びを踏まえ、課題探索演習で設定した課題に対して解決に必要な資料等の分析・調査を行い、その研究結果に基づいて題材の開発と指導計画、学習指導案の作成を進める。</p>	共同
		技術科総合演習 II	<p>授業のテーマ及び到達目標： 「技術科内容総合演習 I」において、題材として開発した内容について教科領域実習 II における授業実践を踏まえて考察するとともに、実践上の課題を抽出・整理し解決を図る技能を身に付けることを目標としている。</p> <p>授業の概要： 授業実践における生徒の実態、実習校からの指摘、大学教員からの指導を踏まえて、開発した題材(教材)の課題を明確化し、同様の課題の解決を目指した事例の収集を行い、学習指導要領及び解説に示されている内容等との整合性を検討する中で、課題の解決を目指す。あわせて実践研究報告会や実践研究論文等の作成に向けて研究のまとめを行う。</p>	共同

専門科目	コース別科目	家庭科内容総合研究	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の内容と関連する専門分野への理解を深め、適切に教材を分析する技能を身に付けている。 ・講義や演習を通して、題材を多角的に広い視野で考察し、学習への課題を抽出することができる。 ・家庭科の総合的な理解を通して、教材化や授業実践につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>家庭科の各内容項目を専門分野の観点から分析を行い、題材を多角的に広い視野で考察し、授業内容や教材についての課題を抽出する。授業やカリキュラムの検討と合わせ、家庭科の各内容項目と教材のあり方についての発表、討論を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (51 野中美津枝・81 石島恵美子・7 佐藤裕紀子・52 数井みゆき・53 西川陽子・50 木村美智子/4回)(共同) 家庭科の内容と課題の検討とプレゼンテーションを行う。 (51 野中美津枝・81 石島恵美子・7 佐藤裕紀子・52 数井みゆき/3回)(共同) 人間生活分野に関連した内容の指導を検討する。 (51 野中美津枝・81 石島恵美子・53 西川陽子・50 木村美智子/3回)(共同) 生活環境分野に関連した内容の指導を検討する。 (51 野中美津枝・81 石島恵美子/5回)(共同) 消費・環境分野の内容指導の検討と教材開発・授業設計およびカリキュラムについて講義・演習を行う。</p>	<p>共同・オムニバス</p> <p>演習14時間 講義16時間</p>
		家庭科科目研究（人間生活分野）	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科における人間生活分野の内容への理解を深め、人間生活の変化やその背景を分析する知識・技能を身に付けている。 ・人間生活に係る題材と教育における課題を多角的に考察することができる。 ・専門性に基づいた理解を新たな教材の提案や授業実践につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>家庭科における人間生活分野の内容および特質を示す資料を分析し、人間生活に係る多様な題材を理解する。グループワークやディスカッションを通じて、題材を多角的に考察し、教育における課題を抽出する。課題をふまえた新たな教材、授業での活用方法を検討し、授業設計を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (7 佐藤裕紀子・52 数井みゆき・51 野中美津枝/3回)(共同) 教材開発や授業設計について講義・演習を行う。 (7 佐藤裕紀子・51 野中美津枝/6回)(共同) 家族・家庭生活と生活設計に関連した内容の指導を検討する。 (52 数井みゆき・51 野中美津枝/6回)(共同) 子どもの発達と保育に関連した内容の指導を検討する。</p>	<p>共同・オムニバス</p> <p>演習14時間 講義16時間</p>

専門科目	コース別科目	家庭科科目研究（生活環境分野）	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・家庭科における生活環境分野の内容への理解を深め、生活環境の変化やその背景を分析する知識・技能を身に付けている。 ・生活環境に係る題材と教育における課題を多角的に考察することができる。 ・専門性に基づいた理解を新たな教材の提案や授業実践につなげることができる。</p> <p>授業の概要： 家庭科における生活環境分野の内容および特質を示す資料等を分析し、生活環境に係る多様な題材を理解する。グループワークやディスカッションを通じて、題材を多角的に考察し、教育における課題を抽出する。課題をふまえた新たな教材、授業での活用方法を検討し、授業設計を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (53 西川陽子・50 木村美智子・81 石島恵美子/3回) (共同) 教材開発や授業設計について講義・演習を行う。 (53 西川陽子・81 石島恵美子/6回) (共同) 食生活環境に関連した内容の指導を検討する。 (50 木村美智子・81 石島恵美子/6回) (共同) 衣生活環境に関連した内容の指導を検討する。</p>	<p>共同・オムニバス</p> <p>演習16時間 講義14時間</p>
		家庭科総合演習Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・家庭科に関連する大学院各科目の教育内容と自分の研究内容との関係を理解している。 ・家庭科で活用される題材の価値や指導内容を理解するとともに、教材として活用する上での課題を把握し解決を目指すことができる。 ・教材として開発を目指す内容について多角的に考察し、実践につなげることができる。</p> <p>授業の概要： 共通科目、専門科目、実習科目の学びを踏まえ、課題探索演習で設定した課題に対して、解決に必要な資料等の分析・調査を行う。随時、専門実習との関連を指導教員と確認し、課題解決に向けた研究・調査を行う。また、協働で実践研究を進めるためにプレゼンテーションとディスカッションを実施する。</p>	<p>共同</p>
		家庭科総合演習Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・教材として開発した内容について授業実践を踏まえて考察するとともに、活用する上での課題を抽出・整理し、解決を図る技能を身に付けている。 ・「総合演習Ⅰ」をふまえた課題研究を内容研究に深化させることができる。</p> <p>授業の概要： 開発した教材の課題を明確化する。教育実践との連関を意識した課題整理を行い、該当する資料等の分析・調査を継続して行い、内容についての理解を深める。実践研究報告会や実践研究論文等の作成に向けて研究をまとめる。</p>	<p>共同</p>
		英語科内容総合研究	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・英語科の内容と関連資料への理解を深め、適切に分析する技能を身に付けることができる。 ・講義や演習を通して、題材を多角的に考察し、学習への課題を抽出することができる。 ・英語科の総合的な理解を通して、教材化や授業実践につなげることができる。</p> <p>授業の概要： 英語科の各科目内容と関連素材の分析を行い、多様な題材を理解する。題材を多角的に考察し、授業内容や教材についての課題を抽出する。授業やカリキュラムの検討と合わせ、英語科の各科目の内容と教材のあり方についての発表、討論を行う。</p>	<p>共同</p> <p>演習10時間 講義20時間</p>

専門科目	コース別科目	英語科科目研究 (英語学)	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語学研究的な概念や考え方の理解を深め、多様な資料を分析する技能を身につけることができる。 ・ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、英語学研究の題材と教育における課題を多角的に考察することができる。 ・専門性に基づいた理解を通して、新たな教材の提案や、教育課題を踏まえた授業実践、授業設計につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>英語学研究の内容及び特質を示す資料等を読解、分析し、英語学研究の様々な概念や考え方を理解する。ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、授業で学んだ英語学研究的概念や知見をどのように授業実践に活かせるかを検討する。</p>	<p>共同</p> <p>演習10時間 講義20時間</p>
		英語科科目研究 (英語文学)	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語文学・文化研究の内容及び多様な資料への理解を深め、資料を分析する技能を身につけることができる。 ・ディスカッションを通じて、英語文学・文化研究の題材と教育における課題を多角的に考察することができる。 ・専門性に基づいた理解を通して、新たな教材の提案や、教育課題をふまえた授業実践、授業設計につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>英語文学・文化研究の内容及び特質を示す資料等を読解、分析し、英語文学・文化研究の多様な題材を理解する。ディスカッションを通じて、題材を多角的に考察し、教育における課題を抽出する。課題をふまえた新たな教材、授業での活用方法を検討し、授業設計を行う。</p>	<p>共同</p> <p>演習10時間 講義20時間</p>
		英語科総合演習 I	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科に関連する大学院各科目の教育内容と自ら取り組む研究内容との関係について、演習等を通じて理解を深めることができる。 ・各教科、各内容の指導で活用されている題材の価値や指導内容について理解を深めるとともに、新たな知見を踏まえ、教材として活用する上での課題を抽出し解決を目指すことができる。 ・教材として開発を目指す内容について、フィールドワーク、グループワーク、ディスカッションなどを通じて多角的に考察し、実践上の課題を踏まえて教材化や授業実践につなげることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>共通科目、専門科目、実習科目の学びを踏まえ、課題探索演習で設定した課題に対して、解決に必要な資料等の分析・調査を行う。随時、専門実習との関連を指導教員と確認し、課題解決に向けた研究・調査を行う。また、協働で実践研究を進めるためにプレゼンテーションとディスカッションを実施する。</p>	<p>共同</p>
		英語科総合演習 II	<p>授業のテーマ及び到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材として開発した内容について授業実践を踏まえて考察するとともに、活用する上での課題を抽出・整理し解決を図る技能を身につけることができる。 ・「総合演習 I」をふまえた課題研究を内容研究に深化させることができる。 <p>授業の概要：</p> <p>開発した教材の課題を明確化する。教育実践との連関を意識した課題整理を行い、該当する資料等の分析・調査を継続して行い、内容についての理解を深める。実践研究報告会や実践研究論文等の作成に向けて研究をまとめる。</p>	<p>共同</p>

専門科目	コース別科目	特別支援学校の教材開発	<p>授業のテーマ及び到達目標： この授業では、知的障害児の実態に応じた教材を開発する方法を身につけ、知的障害児教育における主体的・対話的で深い学びを実現するための教材開発の方法を考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 知的障害児の教科指導における学習困難を取り上げ、その困難をふまえた教材を考える。そのうえで、考案した教材をもとに、どのような授業を展開すればよいかを考え、新しい学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」につながる授業展開の方法について考案した上で、実際に教材を作成し、教育現場での活用可能性について検討する。</p>	隔年
		特別支援学校の授業づくり	<p>授業のテーマ及び到達目標： この授業では、知的障害児の実態に応じた授業を展開する方法を身につけ、知的障害児教育における主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりの方法を考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 知的障害児の教科指導等における学習困難を取り上げ、その困難をふまえた指導技術を考える。そのうえで、具体的な学習指導案を立案する過程で、個に応じた指導の方法をどのように実践していくことが効果的であるかについて検討する。</p>	隔年
		感覚障害児のアセスメントと支援	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①感覚情報処理経路について理解し、感覚障害が生じる要因について説明できる。 ②子どもの感覚機能を評価するため手法について理解を深め、教育現場でのアセスメント手法について提案できる。 ③アセスメント結果から、感覚障害児への支援方法を立案することができる。</p> <p>授業の概要： ・感覚情報処理経路について学び、感覚障害が生じる病理的・心理的背景について理解を深める。 ・感覚障害のアセスメント法について学び、特別支援教育の現場で実際に用いられている手法等を把握する。 ・仮想事例等をもとに、アセスメントの結果から個々の事例に応じた支援方法について検討する。</p>	
		知的障害児のアセスメントと支援Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標： この授業では、知的障害児に用いられるアセスメントの種類と内容について概観することを通じて、アセスメントの目的や内容について理解を深めることができようになる。さらに知的障害児に適用されることの多い心理検査を中心に具体的な検査手順について理解し、正しい手続で実施できるようになることを目的とする。</p> <p>授業の概要： 知的障害児における心理的および行動的特性について概観した上で、知的障害児に適用される様々なアセスメントについて目的・種類・内容について学生が調査し、プレゼンを行う。その中でも特に、知的障害児で実施される機会が多い心理検査について、実際に検査用具を用いて実施の流れを把握する。</p>	隔年
		知的障害児のアセスメントと支援Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標： この授業では、知的障害児における生活上ならびに学習上の困難に対する支援を行う上で有効なアセスメントを選択し、結果に基づいて支援の指針を考案できるようになることを目的とする。</p> <p>授業の概要： 知的障害児における生活上ならびに学習上の困難をとまなう事例を取り上げ、各児童生徒のニーズに応じて適切なアセスメントの選択について検討を行う。さらに知的障害児の事例における主訴やアセスメントの結果をもとに、困難の背景に関する仮説について検討し、その仮説に基づいた行動上の問題や学習上の困難における支援方法を考案する。</p>	隔年

専 門 科 目	コ ー ス 別 科 目	障害児の生理機能評価と支援	<p>授業のテーマ及び到達目標： 主に知的障害のある子どもを中心として、肢体不自由や病弱を含む重度・重複障害児に対する生理学的アセスメントの評価方法について学ぶとともに、評価に基づいて児童生徒の実態に応じた指導方法を考える力を養うことを目標とする。具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害など子どもの行動の背景にある生理機能を評価する様々な方法について知ることができる ・生理機能評価方法の意義を理解した上で、子どもが生じる学校生活上の困難に応じた支援を考えることができる <p>授業の概要： 比較的身近に存在する生理機能評価から最新のものまで、さまざまな生理機能評価法の役割と子どもへのアセスメント活用可能性について解説した上で、子どもの行動の背景にある機能評価の意義について考察していく。さらに、生理機能のアセスメント結果から、知的障害児を中心として肢体不自由や病弱を含むさまざまな障害のある子どもたちへの支援に活用するための方策についてグループワークを通して考察していく。</p>	
		特別支援教育課題発見演習	<p>授業のテーマ及び到達目標： 知的障害や肢体不自由、病弱、聴覚障害など、特別支援教育の最新動向を全体的に理解した上で、自ら関心のあるテーマを設定し、そのテーマに関して調べてレポートする。そのなかで、今後、自ら主体的に課題解決に向けて取り組んでいく内容を明確にすることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 国内外の特別支援教育に関する実践やトピックスについて取り上げ、レポートをし、ディスカッションする。そのなかで、特に関心のあるものをテーマにして、課題の解決の方法を検討する。</p>	共同
		特別支援教育課題分析演習	<p>授業のテーマ及び到達目標： 知的障害や肢体不自由、病弱、聴覚障害など、特別支援教育の課題を解決するための多様な分析手法を知り、自ら関心のあるテーマを解決するためにもっとも有効な分析手法について検討することができるようになることを目標にする。</p> <p>授業の概要： 特別支援教育に関する文献をレビューするとともに、調査方法や実験方法について学ぶ。そのなかで、自ら設定した課題の解決に向けて取り組んでいく計画を立てる。</p>	共同
		特別支援教育課題解決演習	<p>授業のテーマ及び到達目標： 知的障害や肢体不自由、病弱、聴覚障害など、特別支援教育に関する実践・研究のフィールドで調査等を実施し、課題を解決までのプロセスを研究報告書としてまとめることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 自ら関心のあるテーマを解決するためのデータを生成する。そのなかで、自ら設定した課題の解決の方法について検討し、それを他者にわかる形でまとめる。ここで得られた知見を実践研究報告会においてプレゼンテーションし、ディスカッションすることができるようにわかりやすく資料に示すことも含めて学ぶ。</p>	共同

専門科目	コース別科目	健康科学と社会創造	<p>授業のテーマ及び到達目標： (1)健康や医療に関するテーマについて情報を収集する力や問題を提示する力を高める。(2)議論を通し様々な意見があることを知り理解を深め、さらに公正な未来を創造する力を養う。(3)養護教諭として子どもたちの健康について未来を見据え、子どもたち、教職員、保護者等の地域の人々とともに将来の健康的な社会を創造できる力を養うことである。</p> <p>授業の概要： (1)新聞・テレビ等の報道から社会的に関心が寄せられている健康、医療課題を検索する。(2)それらについて種々の情報を整理しながら合理的解決の手段を提示する問題解決的ヘルスリテラシーのあり方を考える。(3)受講者と授業者との間でディスカッションを通して、集団における合意形成のプロセスを展開し、合理的な最適解を帰結させる手法を経験し、社会創造のための集団的意思決定の過程を検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (11 瀧澤利行・12 石原研治/11回) (共同) ガイダンス、課題検討・教材化・発表、まとめを担当する。 (11 瀧澤利行/2回) 新聞等の報道から社会的に関心が寄せられている健康や医療に関するテーマ(再生医療やゲノム編集、先進医療など)を人間、健康、社会という視点から担当する。 (12 石原研治/2回) 新聞等の報道から社会的に関心が寄せられている健康や医療に関するテーマ(再生医療やゲノム編集、先進医療など)を最先端の医療科学を開発する視点から担当する。</p>	共同(一部)・オムニバス
		学校における医学・看護学	<p>授業のテーマ及び到達目標： 授業目標は、学校において遭遇する頻度の高い児童生徒が主な対象となる疾患・外傷について、(1)症状から疾患を鑑別し、外傷の状況などを的確に把握することができる。(2)医学・看護学的対応を行い、養護実践へとつなげる能力を身に付けることができる。(3)疾患・外傷の緊急度および重症度を把握し、基礎的なトリアージを行うことができる。</p> <p>授業の概要： (1)児童生徒の様々な疾患・外傷の特性を踏まえ、エビデンスに基づいた医学・看護学的対応について理解する。(2)提示された具体的な症例についてグループワーク、ディスカッションを通じて考察し、養護実践についてのシミュレーションを行う。(3)個々の疾患・外傷について、必要とされる学校内および学校外(学校医、病医院など)との具体的連携方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (60 古池雄治・59 廣原紀恵/13回) (共同) ガイダンス、事例検討、発表を担当する。 (60 古池雄治/1回) 学校において遭遇する頻度の高い児童生徒の疾患・外傷を医学的視点から担当する。 (59 廣原紀恵/1回) 学校において遭遇する頻度の高い児童生徒の疾患・外傷を養護・看護学的視点から担当する。</p>	共同(一部)・オムニバス

専 門 科 目	コ ー ス 別 科 目	養護活動と健康増進科学	<p>授業のテーマ及び到達目標： 心身の健康状態と環境の実態把握から、分析・判断し、課題解決に向けて養護活動を展開する実践力を養うこと。また、フィールドワークやグループワークなどの様々な活動を通して、保健指導や授業・教材への活用の視点や応用力を身に付けること。</p> <p>授業の概要： (1) 現代的な子どもの健康課題(う歯、肥満、アレルギー、薬物、虐待など)の事例を通して、養護活動を計画立案、実施、評価、改善するプロセスや学校内外の関係者と連携・協働するプロセスを実践的に検討する。 (2) フィールドワークやディスカッションを通して、自他や社会生活における健康課題の発見、関連情報の収集と分析する技能を修得する。 (3) 健康安全に関する科学的認識の形成や技術技能の習得に関する教材開発、指導方法の提案、保健指導や授業への活用方法について検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (61 青柳直子・89 竹下智美/9回) (共同) ガイダンス、課題検討・教材化・発表、まとめを担当する。 (61 青柳直子/3回) 健康現象や課題、疾病予防活動に対する行動科学的アプローチの視点から担当する。 (89 竹下智美/3回) 養護の目的と基本的原理を踏まえつつ、現代の子どもの健康課題解決の手立てとしての養護活動のあり方を実践事例から担当する。</p>	共同 (一部)・オムニバス
		臨床医学特論	<p>授業のテーマ及び到達目標： 授業目標は、学校において遭遇する可能性のある精神疾患・神経疾患ならびに感染性疾患の医学的理解を深め、医療機関と連携して児童・生徒を支援できるようになることである。</p> <p>授業の概要： (1) 精神障害についての理解を深め、精神症状を持つ生徒・児童に適切に対応できるようになる。(2) 精神障害についての知識と理解を基礎に、精神医療の専門家との情報交換ができるようになる。(3) 神経疾患の診断と治療について、診療現場の臨場感と共に分かりやすく解説する。(4) 疾患に対する深い理解により、自信をもって生徒・児童を指導することができるようになる。(5) 学校における感染コントロールのリーダーシップを取ることができるようになる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (63 布施泰子・62 渡邊雅彦/1回) (共同) ガイダンスを担当する。 (63 布施泰子/4回) 精神医学と自殺予防教育を担当する。 (62 渡邊雅彦/10回) 神経疾患ならびに感染性疾患を担当する。</p>	共同 (一部)・オムニバス
		養護科学課題発見演習	<p>授業のテーマ及び到達目標： 養護科学に関する専門科目や実習科目から課題を発見し、その要因を検討する力を身につけることを目標とする。</p> <p>授業の概要： これまで学修してきたことあるいは現場での経験をもとに、自ら関心のあるテーマを設定する。そのなかで、今後、自ら主体的に課題解決に向けて取り組んでいく内容を明確にする。</p>	共同
		養護科学課題分析演習	<p>授業のテーマ及び到達目標： 養護科学の教育現場で求められる課題解決の方法を考察することができるとともに、エビデンスを生み出し、分析する方法について理解することができることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 課題を解決するための多様な分析手法を知り、自ら関心のあるテーマを解決するためにもっとも有効な分析手法について検討する。そのなかで、自ら設定した課題の解決に向けて取り組んでいく計画を立てる。</p>	共同

専 門 科 目	コ ー ス 間 融 合 科 目	コース別科目	<p>養護科学課題解決演習</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： エビデンスを生み出し、課題を解決するための方策を報告書にまとめる力を身につける。その上で、自ら生成したエビデンスが教育現場の課題解決にどのように寄与することができるかについて、報告会で説明することができることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 実践・調査等をもとに、自ら設定した課題を解決するためのデータを生成する。その上で、課題の解決の方法について検討し、実践研究報告書にまとめる。</p>	共同
		<p>学校を基盤としたカリキュラム開発と実践</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： ・カリキュラムの基本的な考え方について理解している。 ・カリキュラムの分析と計画づくりができる。 ・学校の特徴を踏まえたカリキュラム開発の実践を展開できる。</p> <p>授業の概要： 今日の学習指導要領は学校・教師の裁量拡大を前提とし、学校がいかに子どもの学習を計画化していくかが課題である。講義によって、近年の学校を基盤としたカリキュラム開発（カリキュラム・マネジメント）の改革動向をふまえ、国内外、地域としての問題と課題を確認する。そして、学校を基盤としたカリキュラム開発とそれを実現する学校組織の在り方について、PBL（問題解決型学習）による事例検討とレポートに基づくディスカッションを通じて理解を深める。</p>	共同	
		<p>学習指導・学習評価の課題と方法</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： ①資質・能力の育成を図るための学習指導・学習評価の課題と方法について理解することができる。 ②ねらいに即した効果的な指導方法や学習評価の方法について具体的に検討できる。 ③学習習慣や学び合う関係づくりなど、学習指導の基盤づくりの重要性と方法について理解することができる。</p> <p>授業の概要： 児童生徒（幼児を含む）の資質・能力の育成を図るための学習指導・学習評価の課題と方法についてPBL（問題解決型学習）の手法を用いて実践的に学ぶ。主体的・対話的で深い学びの実現のための学習指導・学習評価の在り方、学習環境の整備や効果的なICTの活用等、指導の工夫について学習するとともに、学力形成の基盤として必要となる指導の方法を学び、実践的な指導力を身につける。</p>	共同	
		<p>教育カウンセリング実践と事例研究</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： ①教育カウンセリングの技術について理解できる。 ②日常の子ども（幼児・児童・生徒、以下同じ）の様子から子ども理解の情報を収集し、一定の見立てができる。 ③不適応問題を子どもの個人的問題と捉えるのではなく、生態学的・システム論的視座から捉えることができる。</p> <p>授業の概要： 教育カウンセリングの視座から子どもの不適応問題について考え、対応できるようPBL（問題解決型学習）の手法を用いて学ぶ。具体的にどのような情報が必要なのか、その情報をどのように統合して子どもを見立てるのかについて参与観察や事例研究を行う。児童生徒（幼児を含む）の不適応問題は環境（人的、物理的、社会的）との相互作用によって成り立っているとすると生態学的、システム論的アプローチについて学ぶ。</p>	共同	
		<p>教育臨床問題と道徳</p> <p>授業のテーマ及び到達目標： ①道徳的判断、価値、行為に関する基本理念を理解できる。 ②具体的な教育活動の領域における道徳教育の観点を捉えることができる。 ③道徳的発達などを理解しながら、道徳の時間の教材を開発し実践することができる。</p> <p>授業の概要： 子どもの道徳的発達を促進する教員の在り方について、道徳の教科化について視野に入れ、全教育活動の領域（道徳の時間／道徳科、教科指導、生徒指導など）における指導法をPBL（問題解決型学習）の手法を用いて学ぶ。</p>	共同	

専 門 科 目	コ ー ス 間 融 合 科 目	子ども理解と学習支援	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①子ども（幼児・児童・生徒、以下同じ）理解を授業実践につなげて支援する視座を理解できる。 ②授業実践をととした子どもとの関係づくりの視座を理解できる。 ③授業や生徒指導場面等ではたらく教師の実践知を把握できる。</p> <p>授業の概要： 教育方法開発コースと児童生徒支援コースの融合科目である。学級担任の教育活動を考えると、子ども理解と授業実践とは相互に関連を図っている。子ども理解を踏まえた授業づくり、授業実践をとおしての子どもとの関係づくりなど、子ども理解と学習支援とを相互に関連づけた指導の在り方について、PBL（問題解決型学習）の手法を用いて教育学、心理学双方の見方を生かして学ぶ。</p>	共同
		ことばの諸相と教育	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・ことばと認識の関係を把握し、文化や社会の在り方と関連づけて分析する技能を身に付け、教材作成に活用することができる。 ・ことばで遊ぶことの意義を考察し、ことばあそびの中に潜む言語の特質を理解し、教育活動に応用することができる。 ・教科書作品の原典に直接触れて解読し、適切な教材化と協働学習活動計画を作成することができる。</p> <p>授業の概要： ・英語と日本語の語彙の対比等、ことばの認識と文化の問題について理解を深め、教材作成と教育活動に応用する力を養成する。 ・ことばあそびの中にある音韻上の特質や意味論の問題等を考察し、教材作成と教育活動に応用する力を養成する。 ・教科書に使用されている作品等について原典に遡って解読する方法を学び、その成果を授業へ反映させる方法について検討する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （29 川嶋秀之・5 千葉真由美・88 安原正貴／7回）（共同） 日本語の意味理解や原典解読、ことばあそびや教材化などを扱う。 （5 千葉真由美・88 安原正貴／8回）（共同） 古文書の原典解読と文化理解、英語の語彙と特質理解やことばの認識について扱う。</p>	<p>共同・オムニバス /隔年 演習24時間 講義6時間</p>
		近代化と現代の生活問題	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・現代の生活問題に関わる基本的な知識や見方・考え方を理解している。 ・現代の生活問題を歴史的・社会的にとらえ、考察することができる。 ・生活問題に関する歴史的・社会的な考察を、担当する教科の指導につなげることができる。</p> <p>授業の概要： 明治期の日本が外圧により急速に近代化したことに伴って生じてきた社会、地域、家族、個人をめぐる多様な生活問題について、具体的なデータや記述等で深く理解する。歴史的・社会的に考察して、近代以降の日本を多角的に見る力を付ける。社会生活の変化の中で成立した近代家族の諸問題を、夫婦関係や親子関係等の側面から考察する。家族との関係を通して変化した近代人の自我について学び、そこから派生した文学表象の中に、近代化の問題を読み取る力をつける。以上のような多面的要素から、近代と現代をつないで考察する広い視野を育み、教科指導における教材開発に活用することを学ぶ。</p>	<p>共同/隔年 演習12時間 講義18時間</p>

専門科目	コース間融合科目	芸術の言葉	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①各芸術領域における芸術家・作品・表現と言葉についての関係性を理解し、関連する教科の専門知識を身に付けることができる。 ②各芸術領域の専門性に基づく体験的な活動に取り組むことで、芸術やその本質について多角的に考察することができる。 ③人間活動の多様性と奥深さを理解し、児童・生徒の表現力及びコミュニケーション能力の向上につなげることができる。</p> <p>授業の概要： ・各芸術領域（音楽、美術）における「言葉」と「芸術家・作品・表現」の関係性から、各領域の特性を理解するとともに、各専門知識を身に付ける。 ・領域横断的な観点をもとに、「芸術」の本質を読み解く。</p>	<p>共同/隔年</p> <p>演習6時間 講義24時間</p>
		社会の数理	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・社会現象を数学的にモデル化する方法について理解し、それらに係る技能を身に付けている。 ・数学的モデル化を通して、社会のしくみや生活とのかかわりを考えることができる。 ・文系、理系にとらわれない多角的な視点から社会のしくみを俯瞰的に理解し、担当する教科の指導力向上につなげることができる。</p> <p>授業の概要： ・教科書等で示される社会現象について、資料データの読み取り、分析の手法について理解を深め、教材としての課題を抽出する。 ・様々な社会現象を、数学的な道具を用いてモデル化し、演習とグループワークを通して多角的に考察する。 ・演習とグループワークで得られた知識を、教材作成や授業の場面で具体的に活用する方法について検討する。</p>	<p>共同/隔年</p> <p>演習24時間 講義6時間</p>
		自然現象の数理	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・自然現象を数学的にモデル化する方法について理解し、自然現象やその本質について考察することができる。 ・数学的モデル化を通して、異なる分野間の異なる現象の中から共通する原理や法則を導き出すことができる。 ・自然科学の各分野を俯瞰的に理解し、担当する教科の指導力向上につなげることができる。</p> <p>授業の概要： 物理学、化学、生物学、地学といった自然科学の分野で扱われる様々な自然現象を、数学的手法を用いてモデル化し、各題材を多角的に考察する。 なお、数学的な解法にはあまり触れず、モデルの構築を主眼とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （33 梅津健一郎・73 永尾敬一／8回）（共同） 物体の運動に関わる現象や解析学的概念などについて学習する。 （67 栗原博之・72 青島政之／7回）（共同） 物や自然界における幾何学的概念などについて学習し、教材開発演習や議論を行う。</p>	<p>共同・オムニバス/隔年</p>

専門科目	コース間融合科目	あそびに学ぶ- Communication with Imagination-	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・探究的な学習のプロセスを通して、課題解決に必要な知識や技能及び広い視野を身に付けることができる。 ・実社会や実生活における「遊び」を起点とした体験的な活動に取り組むことで、子どもの実態に即した横断的・総合的な学びにつながる授業計画を構想することができる。 ・主体的・協働的な活動に取り組むことで、社会に参画するための表現力、想像力及びコミュニケーション能力の向上を図ることができる。</p> <p>授業の概要： 探究的な見方や考え方や学習のプロセスについて、三つの演習を探究的に展開し、考察する。遊びを起点とした体験的なグループ活動を踏まえ、横断的・総合的な学びに関する課題を共有する。グループによる活動プログラムの発案・発表を通して、主体的・協働的な姿勢を培う。その上で、実習における実践につなげるものとする。</p>	共同
		時間と空間の表現世界	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・学校教育における各領域の時間と空間の表現について理解し、関連した技能を身に付けることができる。 ・各表現領域の専門性に基づく体験的な活動に取り組むことで、多角的な考察ができる。 ・表現活動と表現概念の多様性と奥深さを理解し表現力及びコミュニケーション能力の向上を図ることができる。</p> <p>授業の概要： 文学・音楽・美術における時間と空間の表現について、主に演習を通して考察する。各表現領域を多角的に学習し、教科横断的表現活動プログラムの考察を通して、表現の本質を踏まえた学習の在り方を検討する。その上で、融合実習における実践につなげるものとする。</p>	共同/隔年
		読み・書き・計算のつまずきと支援	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①読み・書き・計算のつまずきの実態を理解し、子どもの発達特性を踏まえた背景要因を考察できる。 ②読み・書き・計算の基礎を成す概念について説明できる。 ③個々の子どもの特性に応じ、学習指導の方法を提案することができる。</p> <p>授業の概要： 読み・書き・計算のつまずきの実態とその原因を理解し、学習の基礎を成す概念をふまえた上で教材開発を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (86 田原敬・27 齋木久美・68 松村初/5回) (共同) 読み・書き・計算のつまずきの実態とその背景要因について理解を深める。 (86 田原敬・27 齋木久美/3回) (共同) 字形と読み書き、言葉の概念や、読解力について理解を深める。 (86 田原敬・68 松村初/3回) (共同) 数の性質と計算、量と形の概念や、立式する力について理解を深める。 (86 田原敬・27 齋木久美・68 松村初/4回) (共同) 事例を想定し、書字・計算技能習得のための教材開発を行う。</p>	共同・オムニバス

専 門 科 目	コ ー ス 間 融 合 科 目	動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	<p>授業のテーマ及び到達目標： この授業では動きにぎこちなさがみられる子どもの特性や彼らが学校生活で抱える困難について理解するとともに、学校生活を過ごす上でいかなる配慮が必要となるか、児童生徒の実態に応じた指導方法を考える力を養うことを目標とする。</p> <p>授業の概要： 動きにぎこちなさという点について、特別支援教育の視点のみならず、家庭生活や学校生活、教科指導における困難やその配慮点についてグループワークで学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (9 勝二博亮・61 青柳直子・77 渡邊将司・80 白坂高司／7回) (共同) 発達性協調運動障害の実態や原因に関わる知識やアセスメント方法などを解説するとともに、教材開発や教科指導をする上での配慮点を考察する。 (9 勝二博亮・77 渡邊将司・80 白坂高司／5回) (共同) 教科指導の視点から子どもが楽しく授業を受けられるための指導方法を考える。 (9 勝二博亮・61 青柳直子／3回) (共同) 学校生活や家庭生活上で直面する様々な問題を想像し、その対処方法を考える。</p>	共同・オムニバス
		茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅠ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・地域特有の題材への理解を深め、専門性に基づいた課題を抽出する技能を身に付けることができる。 ・異なる分野間でのディスカッションやフィールドワークを通じて、地域の現状や実態を多角的に考察することができる。 ・地域特有の題材と課題を、教科横断的・総合的な学習への活用につなげることができる。</p> <p>授業の概要： ・茨城県（県北・県央）を対象とした地域特有の題材（ことば・歴史・文化・生活・自然等）を理解する。 ・地域特有の題材について、フィールドワークを通じて理解を深め、課題を抽出する。 ・受講者の専門性を持ち寄り、題材を多角的に考察し、教科横断的・総合的な教材および課題解決学習の活用方法を検討する。</p>	共同/隔年
		茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅡ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・地域特有の題材への理解を深め、専門性に基づいた課題を抽出する技能を身に付けることができる。 ・異なる分野間でのディスカッションやフィールドワークを通じて、地域の現状や実態を多角的に考察することができる。 ・地域特有の題材と課題を、教科横断的・総合的な学習への活用につなげることができる。</p> <p>授業の概要： ・茨城県（県西・県南）を対象とした地域特有の題材（ことば・歴史・文化・生活・自然等）を理解する。 ・地域特有の題材について、フィールドワークを通じて理解を深め、課題を抽出する。 ・受講者の専門性を持ち寄り、題材を多角的に考察し、教科横断的・総合的な教材および課題解決学習の活用方法を検討する。</p>	共同/隔年

専 門 科 目	コ ー ス 間 融 合 科 目	防災を含む安全に関する教育	<p>授業のテーマ及び到達目標： 日常生活全般における安全確保のために必要な事項を理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質や能力を養う教育を実践するために必要な知識及び技能を身に付けることを目標としている。</p> <p>授業の概要： 学校における安全教育、防災教育の歴史について知り、学校における防災を含む安全教育について、グループディスカッションを通して問題を発見、課題を設定し、その解決方法について考え今後の活用方法についてグループで考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (31 村山朝子・34 伊藤孝・74 上栗伸一・45 上地勝・25 大西有/9回) (共同) 学校における防災教育・安全教育の内容、構成及び進め方等について検討する。 (25 大西有/2回) 生活科、技術・家庭科における安全教育、防災教育について検討する。 (31 村山朝子/1回) 社会科における安全教育、防災教育について検討する。 (34 伊藤孝/1回) 理科(義務教育)における安全教育、防災教育について検討する。 (74 上栗伸一/1回) 理科(地学)における安全教育、防災教育について検討する。 (45 上地勝/1回) 保健体育科における安全教育、防災教育について検討する。</p>	共同(一部)・オムニバス
		持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ	<p>授業のテーマ及び到達目標： ・持続可能な開発目標(SDGs)を理解する。 ・SDGsの実現における学校教育の役割について、自分の考えを説明できる。 ・SDGsを目指した総合的な学習の時間の指導案を構想できる。</p> <p>授業の概要： SDGsの実現を図る上での学校教育の役割を考察し、SDGsを目指した総合的な学習の時間の指導案を検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (71 郡司晴元/6回) SDGsを理解し、学校教育に取り入れる手立てを考える。 (35 阿部信一郎・71 郡司晴元/1回) (共同) 自然環境について考える。 (53 西川陽子・71 郡司晴元/1回) (共同) 「食」からSDGsを考える。 (50 木村美智子・71 郡司晴元/1回) (共同) 「衣」からSDGsを考える。 (70 棗田孝晴・71 郡司晴元/1回) (共同) SDGsと生態系の関りを考える。 (71 郡司晴元・53 西川陽子・50 木村美智子・70 棗田孝晴・35 阿部信一郎/5回) (共同) SDGs総合的な学習の時間の指導案を考える。</p>	共同(一部)・オムニバス
		課題探索演習	<p>授業のテーマ及び到達目標： 教科領域コース、特別支援科学コース、養護科学コースとともに、これまでの知見を整理し、各コースで身に付けた内容の専門性に基つきながら、他教科・分野との連携を視野に入れた課題探索力を身につけることを目標としている。</p> <p>授業の概要： 大学院1年前期までに受講した科目および教材開発実習IA・IBの内容及び実践で得られた知見を踏まえ、各教科・分野の専門性を深化させるために、教科・分野の横断的視点の必要性について考察する。あわせて、PBL(問題解決型学習)により、専門性の深化のために、自ら主体的に取り組んでいく課題を明確にする。</p>	共同

実習科目	コース別実習	学校運営実習 I	<p>授業のテーマ及び到達目標： 学校運営の状況に即して課題をとらえ、主体的に、また他者と協力しながら学校改善のための具体的な方策について構想し、成果と課題を明らかにすることができる（現職教員）。</p> <p>授業の概要： 現任校を分析し、強みや弱みを明らかにしながら、学校改善の方向性を探っていく。その際、校長や教頭、主任等の教諭、さらには保護者や学校評議員等への聞き取りや協議を行っていく。また、担当教員もディスカッションに参加する。そのことで現任校にとっても有益となるように努める。ここでのテーマや課題の設定は、他の授業科目の内容と連携させる。期末には2年目の実習の目標・課題設定を済ませておくものとする。</p>	共同
		学校運営実習 II	<p>授業のテーマ及び到達目標： 現任校の学校の状況・課題に即して、学校運営における課題解決のための改善課題について、企画・立案し、成果と課題を明らかにすることができる。学校の状況・課題に合った改善策を開発し、協同的に課題解決に取り組む力を身につける（現職教員）。</p> <p>授業の概要： 1年次での実習の成果と課題を踏まえて、課題解決のための学校運営の計画を立て、実践していく。2年次は現任校において勤務しながら、年間を通して実地に実習を行い、学校マネジメントに資する成果を得る。なお、年間のなかで実習単位としての集中した期間を設定し、勤務校ないし大学において担当教員と密接に協議する。また適宜、指導を受けることで調整しながら進めていく。</p>	共同
		教育方法開発実習 I	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①学校や児童・生徒の状況に即して課題をとらえ、主体的に、また他者と協力しながら課題解決のための具体的な教育方法・授業を構想・実践し、成果と課題を明らかにすることができる（現職教員）。 ②自身の研究課題に関連付けて、課題解決のための教育方法・授業開発実践の観察・実践を行うことができる。児童・生徒の学習過程を把握し、教育活動の全体を踏まえて指導することの重要性を理解する（学部新卒者）。</p> <p>授業の概要： 連携協力校において、自身の研究課題に関わる教育方法・授業開発の計画及び観察・実践の実習を行う。実習校での授業観察や協議等を踏まえて、課題解決のために取り組む教育方法・授業開発を立案し、授業観察・記録や、授業補助者としての授業参加、授業者としての実践など、研究内容に合った方法で実践を行う。</p>	共同
		教育方法開発実習 II	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①現任校の児童生徒の状況・課題に即して、課題解決のための教育方法・授業を開発・実践し、成果と課題を明らかにすることができる。学校の課題に合った指導方法を開発し、協同的に課題解決に取り組む（現職教員）。 ②研究課題に基づく課題解決のための教育方法・授業の開発・実践を行い、成果と課題を明らかにすることができる。学習過程を的確にとらえ、カリキュラムや学級経営との関連を踏まえて指導できる（学部新卒者）。</p> <p>授業の概要： 1年次での実習の成果と課題を踏まえて、課題解決のための教育方法・授業開発の計画を立て、その実践と省察を行う。学部新卒者は連携協力校で、現職派遣大学院生は現任校で実習を行ない、実習の成果・課題の評価を多面的に行ない、研究過程をまとめる。本実習を通して、課題解決のために主体的に取り組む力と実践的指導力を高める。</p>	共同

実習科目	コース別実習	児童生徒支援実習	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①児童生徒の生活態度や家庭状況、学力や適応指導教室内の言動といった様々なデータを総合的に分析したうえで子ども理解を進めるための見立てる力をつけ、自らの振る舞い、かかわり方を問い直し、より適した対応ができるようになる。（現職教員） ②児童生徒の生活態度や家庭状況、学力や適応指導教室内の言動といった様々なデータを総合的に分析したうえで子どもの心理を見立てることができる。（学部新卒者）</p> <p>授業の概要： 適応指導教室において具体的に学校不適応的児童生徒にかかわり、援助に必要なデータの収集、分析を行い、援助方針を個別支援計画として作成する。それらをもとに事例検討会などを企画・運営する。実習での疑問や実習を通じた研究課題の検討については「児童生徒支援課題研究Ⅱ」で取り上げ議論する。</p>	共同
		学校適応アセスメント実習	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①学校全体の支援課題を把握し、学級への支援やチーム援助の立ち上げと行った組織作りを行うとともに、手立てを改善し、新たな課題を設定することができる（現職教員） ②児童生徒支援にかかわる課題を理論的に把握し、その解消の具体的手立てを講じるとともに、手立てを改善し、新たな課題を設定することができる（学部新卒者）</p> <p>授業の概要： 学部新卒者は連携協力校にて、現職派遣教員は現任校にて行う実習。配属された学級において自らの課題を授業実践を通して、あるいは個別に児童生徒に対応することによって、その課題への取り組みを評価する。学級において参与観察を行いながら、学級や対象となる児童生徒の課題を捉え、その解決に向けた取り組みを行いその経過を観察する。必要があればその計画の改善なども行い、より子どもや学級の状態に適合したものとする。</p>	共同
		学校適応支援実習	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①実習をまとめ、実践の効果と改善点を明らかにして、次の組織的課題及び自らの課題を設定することができる（現職教員） ②児童生徒の問題を集団と個の絡みの中で理解し支援できるとともに、実践を改善する力と問題に見通しをつけることができる（学部新卒者）</p> <p>授業の概要： 学部新卒者は前期と同じ連携協力校にて、現職派遣教員は現任校にて行う実習。不適応的児童生徒のいる学級における支援の経過を観察し、その改善点や課題点を明らかにする。実習の成果や研究課題の評価を多面的に行い、研究過程をまとめる。</p>	共同
		教科領域実習Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 多様な視点による児童生徒の実態分析を踏まえ、専門領域の視点から教科指導の課題を明確にする力を身に付けることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 各附属学校園（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）における授業見学等により、子どもたちの発達段階に即した学習内容や教育活動の全体像を把握する（5日間）。第二段階として、主に附属小中学校において、教科内容への児童生徒の関わりや、指導支援・教務補助・学部実習生との関わり等の活動から実態を把握し、専門領域の視点により教科指導の課題を明確にする（10日間）。</p>	共同

実習科目	コース別実習	教科領域実習Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 多様な視点による児童生徒の実態分析を踏まえ、専門領域の視点から教科指導の課題を明確にするとともに、教科内容の深い理解に基づき教材を開発、授業実践を行い、エビデンスに基づいて取り組みを評価・改善する力を身に付けることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 「教材開発実習ⅠA・B」で広げた視野をもとに、「教科領域実習Ⅰ」で明確にした課題の解決に向け、大学院における学修を踏まえ、連携校（小・中・高協力校）において授業づくり及び授業実践を行い、大学教員、協力校担当教員からの評価や児童生徒の状態を評価・分析し、その結果を踏まえて省察を行う。</p>	共同
		教科領域実習Ⅲ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 多様な視点による児童生徒の実態分析を踏まえ、専門領域の視点から教科指導の課題を明確にするとともに、教科内容の深い理解に基づき教材を開発、授業実践を行い、エビデンスに基づいて取り組みを評価・改善する力を身に付けることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 「教材開発実習ⅠA・B」で広げた視野をもとに、「教科領域実習Ⅰ」で明確にした課題の解決に向け、大学院における学修を踏まえ、現任教（小・中・高協力校）において授業づくり及び授業実践を行い、大学教員からの評価や児童生徒の状態を評価・分析し、その結果を踏まえて省察を行う。</p>	共同
		特別支援教育教材開発実習Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 子どもの実態に即した教材を実践的に開発し、実際に特別支援学校の子どもに実践することで開発した教材の効果を把握し、自らの実践の課題について明確化することができることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 附属特別支援学校における授業を参与観察することにより、子どもたちの発達段階や障害の特性を実態把握する。その後、附属特別支援学校の各学部において、与えられたテーマ・課題に応じて教材を開発し、学習指導案を立案して、実践する。</p>	共同
		特別支援教育教材開発実習Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 子どもの実態に即した教材を実践的に開発し、実際に特別支援学校の子どもに実践することで開発した教材の効果を把握し、自らの実践の課題について明確化することができるとともに、教材開発の方法やその過程をわかりやすく人に伝えることができるようにすることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 附属特別支援学校における授業を参与観察することにより、子どもたちの発達段階や障害の特性を実態把握する。その後、附属特別支援学校の各学部において、与えられたテーマ・課題に応じて教材を開発し、学習指導案を立案して、実践する。</p>	共同
		特別支援教育アセスメント実習Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 附属特別支援学校の児童生徒を中心に、保護者および学校から承諾の得られたケースを取り上げ、アセスメントを実施する。そのうえで、得られたアセスメント情報から、子どもの特性を分析し、支援方法を導き出す能力を培うことを目標とする。</p> <p>授業の概要： アセスメントを実施する予定の児童生徒の授業等を観察し、学習や生活の状況を把握するとともに、アセスメントを実施する。その後、アセスメント結果を整理するとともに、学習や生活支援を実施しながら、ケースに対する支援方法をまとめ保護者や学校教員にフィードバックする。</p>	共同

実習科目	コース別実習	特別支援教育アセスメント実習Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 附属特別支援学校の児童生徒を中心に、保護者および学校から承諾の得られたケースを取り上げ、アセスメントを実施する。そのうえで、得られたアセスメント情報から、子どもの特性を分析し、支援方法を導き出す能力を培うとともに、アセスメントの方法やその過程をわかりやすく人に伝えることができるようにすることを目標とする。</p> <p>授業の概要： アセスメントを実施する予定の児童生徒の授業等を観察し、学習や生活の状況を把握するとともに、アセスメントを実施する。その後、アセスメント結果を整理するとともに、学習や生活支援を実施しながら、ケースに対する支援方法をまとめ保護者や学校教員にフィードバックする。</p>	共同
		特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 子どもの実態や対応方法を見つけ出していくためのケース・カンファレンスの方法を具体的に身につけるとともに、ケース検討を通して子どもを深く理解する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 連携協力校（幼児教育施設または小学校）における保育活動や授業を参与観察することにより、子どもたちの発達段階や特別ニーズを実態把握する。その後、連携協力校において参与観察を継続しながら、支援を要する子どもへの対応を個別の指導計画にまとめ、連携協力校の教員等とケース検討し、具体的な支援内容を明確化する。</p>	共同
		特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 子どもの実態や対応方法を見つけ出していくためのケース・カンファレンスの方法を具体的に身につけるとともに、大学院1年生をリードしながら自律的にケース検討会を進めるなど、子どもの理解を共有していく力を身につけることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 連携協力校（幼児教育施設または小学校）における保育活動や授業を参与観察することにより、子どもたちの発達段階や特別ニーズを実態把握する。その後、連携協力校において参与観察を継続しながら、支援を要する子どもへの対応を個別の指導計画にまとめ、連携協力校の教員等とケース検討し、具体的な支援内容を明確化する。</p>	共同
		特別支援教育授業改善実習	<p>授業のテーマ及び到達目標： 1年次における特別支援教育の専門実習の経験を通して身につけた力をもとに、現任教で授業づくり及び授業実践を行い、その結果を分析し、エビデンスに基づいて取組みを評価・改善する。これにより、ケース・カンファレンス、アセスメント、教材開発をトータルに実践することができる特別支援教育の深い専門性を培うことを目標とする（なお、この実習は現職教員における現任教での実習となる）。</p> <p>授業の概要： 現職教員の現任教と連携をはかりながら、学校現場の実践課題に即して実習を実施し、その課題を実践的に解決する方法を大学教員とともに考える。そのうえで、校内研修等を企画し、実践開発のプロセスを報告し、学校全体の実践改善へと結びつける。</p>	共同

実習科目	コース別実習	養護科学実習Ⅰ	<p>授業のテーマ及び到達目標： それぞれ以下のように目標を設定する。 学部新卒者：学部時代に行った校種での養護実習についてさらにその実践力や連携力を伸ばすこと、あるいは実習を行っていない校種で実習を行い校種間の特徴や相違を理解し、発達段階に応じた支援、インクルーシブ教育を念頭においた実践力や連携力の向上を習得することを目標とする。 現職教員：普段の勤務において感じる不安感や困難感について他の学校の養護教諭、特にベテラン養護教諭の元で実践を通して習得したり、児童生徒の健康課題等に関する研究発表会等で発表された取り組みについて、その学校あるいは類似した取り組みをしている学校で実習し自らの課題と実習校での課題を重ね合わせ習得したりすることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 学部新卒者および現職教員が附属学校（附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校）あるいは協力校（小・中・高・特支）で行う実習で各学生が希望する学校種とする。学部時代の実習や現場での経験を振り返った上で、児童生徒の健康課題について個別あるいは集団的な対応や支援、養護教諭と中心とする他職種との連携という視点から学ぶ。</p>	共同
		養護科学実習Ⅱ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 1年次に学修した養護科学実習Ⅰ、専門科目、共通科目あるいは融合科目をもとに、実践の場において、養護教諭の専門性を軸に、主体的に他職種との連携的視点を持ちながら能動的に健康課題解決に立ち会い自らの課題を深化させることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 学部新卒者が附属学校（附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校）あるいは協力校（小・中・高・特支）で行う実習であり、各学生が希望する学校種とする。養護活動と学校保健に関わる児童生徒の諸課題について養護教諭および養護教諭を中心とする他職種との連携という視点から主体性を持って学ぶ。</p>	共同
		養護科学実習Ⅲ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 1年次に学修した養護科学実習Ⅰ、専門科目、共通科目あるいは融合科目をもとに、現任校において子どもたちの健康課題を見出し、他職種と連携しながら課題を解決を進めることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 現職教員が現任校で行う実習であり、現任校の健康問題等の課題を見出し、新たな視点で養護教諭の専門性を軸に主体的に他職種との連携的視点を持ちながら解決に向けて実践する。</p>	共同
		養護科学実習Ⅳ	<p>授業のテーマ及び到達目標： 学部新卒者・現職教員：学習や健康の支援等について、訪問（院内）学級と通常学級との連携を学び、各疾患を有する児童生徒への養護実践力を向上させることを目標とする。</p> <p>授業の概要： 慢性疾患や精神疾患を有する子どもたちの在籍する病院に開設された訪問（院内）学級で行う実習。</p>	共同
	コース間融合実習	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①各学校種における実習を通して、発達段階等に即した教育活動の全体像を把握することができる。 ②自身の問題関心を幅広い視野からとらえ直し、研究課題を明確化することができる。</p> <p>授業の概要： 附属学校園（附属幼稚園・附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校）の観察および実践補助を行い、児童生徒の発達・学校種に即した学習内容や教育活動の全体像を把握し、学校運営の課題とともに、教師の指導のあり方を多面的に学ぶ。本実習を通して、学校の課題に関する自身の問題関心・研究課題を幅広い視野からとらえ、課題を明確化する。</p>	共同	

実習科目	コース間融合実習	課題発見実習 (教育方法開発コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①各学校種における実習を通して、発達段階等に即した教育活動の全体像を把握することができる。 ②自身の問題関心を幅広い視野からとらえ直し、研究課題を明確化することができる。</p> <p>授業の概要： 附属学校園（附属幼稚園・附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校）の観察および実践補助・授業実践の実習を行い、児童生徒の発達・学校種に即した学習内容や教育活動の全体像を把握するとともに、教師の指導のあり方を多面的に学ぶ。本実習を通して、学校の課題に関する自身の問題関心を幅広い視野からとらえ直し、研究課題を明確化する。</p>	共同
		課題発見実習 (児童生徒支援コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： ①各学校種における実習を通して、発達段階等に即した教育活動の全体像を把握することができる。 ②自身の問題関心を幅広い視野からとらえ直し、研究課題を明確化することができる。</p> <p>授業の概要： 附属学校園（附属幼稚園・附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校）の観察実習を行い、児童生徒の発達・学校種に即した学習内容や教育活動の全体像を把握するとともに、教師の指導のあり方を多面的に学ぶ。本実習を通して、学校の課題に関する自身の問題関心・研究課題を幅広い視野からとらえ、課題を明確化する。</p>	共同
		教材開発実習 I A (教科領域コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： 専門性の異なる他教科・他分野の学生が協働して問題解決に取り組み、互いの専門性を活かしながら視野を広げていくことを目標とする。</p> <p>授業の概要： 茨城県内の小学校や放課後児童クラブ等において、主に学校の夏休み期間を利用して、学校及び地域の要望に応じて児童生徒の学力向上に資する活動を実施する。 児童生徒の実態と教科・分野横断的な視点を踏まえ、学習支援活動と表現ワークショップ活動を主体的に企画・運営し、教育効果等を記録することにより教材開発に役立てる。これらにより、教科・分野の枠を超えた幅広い視野に基づいた教材開発力を培う。</p>	共同
		教材開発実習 I A (特別支援科学コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： 専門性の異なる他教科・他分野の学生が協働して問題解決に取り組み、互いの専門性を活かしながら視野を広げていくことを目標とする。</p> <p>授業の概要： 茨城県内の小学校や放課後児童クラブ等において、主に学校の夏休み期間を利用して、学校及び地域の要望に応じて児童生徒の学力向上に資する活動を実施する。 児童生徒の実態と教科・分野横断的な視点を踏まえ、学習支援活動と表現ワークショップ活動を主体的に企画・運営し、教育効果等を記録することにより教材開発に役立てる。これらにより、教科・分野の枠を超えた幅広い視野に基づいた教材開発力を培う。さらに、特別な支援を必要とする子どもの教材開発力を身に付ける。</p>	共同

実習科目	コース間融合実習	教材開発実習 I A (養護科学コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： 専門性の異なる他教科・他分野の学生が協働して問題解決に取り組み、互いの専門性を活かしながら視野を広げていくことを目標とする。</p> <p>授業の概要： 茨城県内の小学校や放課後児童クラブ等において、主に学校の夏休み期間を利用して、学校及び地域の要望に応じて児童生徒の学力向上に資する活動を実施する。 児童生徒の実態と教科・分野横断的な視点を踏まえ、学習支援活動と表現ワークショップ活動を主体的に企画・運営し、教育効果等を記録することにより教材開発に役立てる。これらにより、教科・分野の枠を超えた幅広い視野に基づいた教材開発力を培う。さらに、他コース学生とともに子どもたちの健康課題を把握する力を身に付ける。</p>	共同
		教材開発実習 II A (教科領域コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： 専門性の異なる他教科・他分野の学生が協働して問題解決に取り組み、互いの専門性を活かしながら視野を広げていくことを目標とする。</p> <p>授業の概要： 茨城県内の小学校や放課後児童クラブ等において、主に学校の夏休み期間を利用して、学校及び地域の要望に応じて児童生徒の学力向上に資する活動を実施する。 児童生徒の実態と教科・分野横断的な視点を踏まえ、学習支援活動と表現ワークショップ活動を主体的に企画・運営し、教育効果等を記録することにより教材開発に役立てる。これらにより、教科・分野の枠を超えた幅広い視野による実践力を培う。また、本実習は異学年が協働して問題を解決する力を育むチュートリアル教育としての性質を持ち、これまでの学修成果をもとに、上級生としての指導的な役割も担う（学部新卒生のみ）。</p>	共同
		教材開発実習 II A (特別支援科学コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： 専門性の異なる他教科・他分野の学生が協働して問題解決に取り組み、互いの専門性を活かしながら視野を広げていくことを目標とする。</p> <p>授業の概要： 茨城県内の小学校や放課後児童クラブ等において、主に学校の夏休み期間を利用して、学校及び地域の要望に応じて児童生徒の学力向上に資する活動を実施する。 児童生徒の実態と教科・分野横断的な視点を踏まえ、学習支援活動と表現ワークショップ活動を主体的に企画・運営し、教育効果等を記録することにより教材開発に役立てる。これらにより、教科・分野の枠を超えた幅広い視野による実践力を培う。さらに、特別な支援を必要とする子どもの教材開発力を身に付けることも目的の一つとする。また、本実習は異学年が協働して問題を解決する力を育むチュートリアル教育としての性質を持ち、これまでの学修成果をもとに、上級生としての指導的な役割も担う（学部新卒生のみ）。</p>	共同
		教材開発実習 I B (教科領域コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： 専門性の異なる他教科・他分野の学生が協働して問題解決に取り組み、互いの専門性を活かしながら視野を広げていくことを目標とする。</p> <p>授業の概要： 地域の社会教育施設において、施設の特性を生かした子ども向けイベント（教育普及活動）への参画・運営および実践補助に関する活動を実施する。 児童生徒（幼児含む）の学校外での学習の実態を把握するとともに、施設において実施する教科・分野横断的な視点を踏まえたイベント等の実施による教育効果等を記録することにより教材開発に役立てる。これらにより、教科・分野の枠を超えた幅広い視野に基づいた教材開発力を培う。</p>	共同

実習科目	コース間融合実習	教材開発実習 I B (特別支援科学コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： 専門性の異なる他教科・他分野の学生が協働して問題解決に取り組み、互いの専門性を活かしながら視野を広げていくことを目標とする。</p> <p>授業の概要： 地域の社会教育施設において、施設の特性を生かした子ども向けイベント（教育普及活動）への参画・運営および実践補助に関する活動を実施する。 児童生徒（幼児含む）の学校外での学習の実態を把握するとともに、施設において実施する教科・分野横断的な視点を踏まえたイベント等の実施による教育効果等を記録することにより教材開発に役立てる。これらにより、教科・分野の枠を超えた幅広い視野に基づいた教材開発力を培う。さらに、特別支援を必要とする子どもが社会教育施設を利用する際の留意点や「教科の本質」にふれる学習の在り方について考える機会とする。</p>	共同
		教材開発実習 I B (養護科学コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： 専門性の異なる他教科・他分野の学生が協働して問題解決に取り組み、互いの専門性を活かしながら視野を広げていくことを目標とする。</p> <p>授業の概要： 地域の社会教育施設において、施設の特性を生かした子ども向けイベント（教育普及活動）への参画・運営および実践補助に関する活動を実施する。 児童生徒（幼児含む）の学校外での学習の実態を把握するとともに、施設において実施する教科・分野横断的な視点を踏まえたイベント等の実施による教育効果等を記録することにより教材開発に役立てる。これらにより、教科・分野の枠を超えた幅広い視野に基づいた教材開発力を培う。さらに、子どもが社会教育施設を利用する際の健康課題に関する留意点について検討する。</p>	共同
		教材開発実習 II B (教科領域コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： 専門性の異なる他教科・他分野の学生が協働して問題解決に取り組み、互いの専門性を活かしながら視野を広げていくことを目標とする。</p> <p>授業の概要： 地域の社会教育施設において、施設の特性を生かした子ども向けイベント（教育普及活動）への参画・運営及び実践補助に関する活動を実施する。 児童生徒（幼児含む）の学校外での学習の実態を把握するとともに、施設において実施する教科・分野横断的な視点を踏まえたイベント等の実施による教育効果等を記録することにより教材開発に役立てる。これらにより、教科・分野の枠を超えた幅広い視野に基づいた教材開発力を培う。また、本実習は異学年が協働して問題を解決する力を育むチュートリアル教育としての性質を持ち、これまでの学修成果をもとに、上級生としての指導的な役割も担う（学部新卒生のみ）。</p>	共同

実習科目	コース間融合実習	教材開発実習ⅡB (特別支援科学コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： 専門性の異なる他教科・他分野の学生が協働して問題解決に取り組み、互いの専門性を活かしながら視野を広げていくことを目標とする。</p> <p>授業の概要： 地域の社会教育施設において、施設の特性を生かした子ども向けイベント（教育普及活動）への参画・運営および実践補助に関する活動を実施する。 児童生徒（幼児含む）の学校外での学習の実態を把握するとともに、施設において実施する教科・分野横断的な視点を踏まえたイベント等の実施による教育効果等を記録することにより教材開発に役立てる。これらにより、教科・分野の枠を超えた幅広い視野に基づいた教材開発力を培う。さらに、特別支援を必要とする子どもが社会教育施設を利用する際の留意点や「教科の本質」にふれる学習の在り方について考える機会とする。また、本実習は異学年が協働して問題を解決する力を育むチュートリアル教育としての性質を持ち、これまでの学修成果をもとに、上級生としての指導的な役割も担う（学部新卒生のみ）。</p>	共同
		子どもと大人への一次救命処置実習 (教科領域コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： それぞれ以下のように目標を設定する。 学部新卒者：学部時代に学んだ救命処置を整理し、校内外と連携しながら指導的役割を果たせる能力を身に付けることを目標とする。 現職教員：医学的なエビデンスに基づいた実習を通して、自らの理解や技能を再確認し、現任校での救命処置に関する指導的役割を果たす力を修得することを目標とする。</p> <p>授業の概要： 救命救急センターにおいて行う実習。心肺停止、意識障害、多発外傷などの緊急事態に対する初期対応の基礎的事項を学ぶ。</p>	共同
		子どもと大人への一次救命処置実習 (特別支援科学コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： それぞれ以下のように目標を設定する。 学部新卒者：救命救急センターにおいて、心肺停止、意識障害、多発外傷などの緊急事態に対する初期対応の基礎的事項を学ぶ。これにより、分野の枠を超えた幅広い視野による実践力を培うことを目的とする。特別支援を必要とする子どもの学校における安全確保と危機対応について学ぶ機会とする。 現職教員：上記に加え、現任校に在籍する子どもの安全対策を見つめ直す機会とし、具体的な救命処置技術を身に付け、学校の安全計画を改善する視点をもつことができる力を培う。</p> <p>授業の概要： 救命救急センターにおいて行う実習。心肺停止、意識障害、多発外傷などの緊急事態に対する初期対応の基礎的事項を学ぶ。</p>	共同
		子どもと大人への一次救命処置実習 (養護科学コース)	<p>授業のテーマ及び到達目標： それぞれ以下のように目標を設定する。 学部新卒者：学部時代に学んだ救命処置を整理し、校内外と連携しながら指導的役割を果たせる能力を身に付けることを目標とする。 現職教員：医学的なエビデンスに基づいた実習を通して、自らの理解や技能を再確認し、現任校での救命処置に関する指導的役割を果たす力を修得することを目標とする。</p> <p>授業の概要： 救命救急センターにおいて行う実習。心肺停止、意識障害、多発外傷などの緊急事態に対する初期対応の基礎的事項を学ぶ。</p>	共同

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。